

令和6年度 地域公共交通に関する自己評価概要（全体）

江南市地域公共交通会議

平成19年 6 月27日設置

（令和 7 年 3 月 法定協議会に移行）

平成30年 3 月 「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」策定

（令和 7 年 4 月改定）

■ 地域の特性と背景

- ・市東部から南部にかけて名鉄犬山線が走り、江南駅、布袋駅が存在。
- ・名鉄バスが10路線、大口町コミュニティバスが3路線運行。
- ・市内全域で、いこまいC A R※1を運行。計画的な昼間のお出かけに対し、路線バスを補完するものとして市民の足を担う。

- ・第6次総合計画では、以下のとおり拠点を位置付け、中心拠点－地域拠点間や、中心拠点同士を交通ネットワークで結び、住みやすく利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざす。

『中心拠点』…江南駅・布袋駅を中心とする区域

『地域拠点』…江南厚生病院～KTXアリーナ周辺

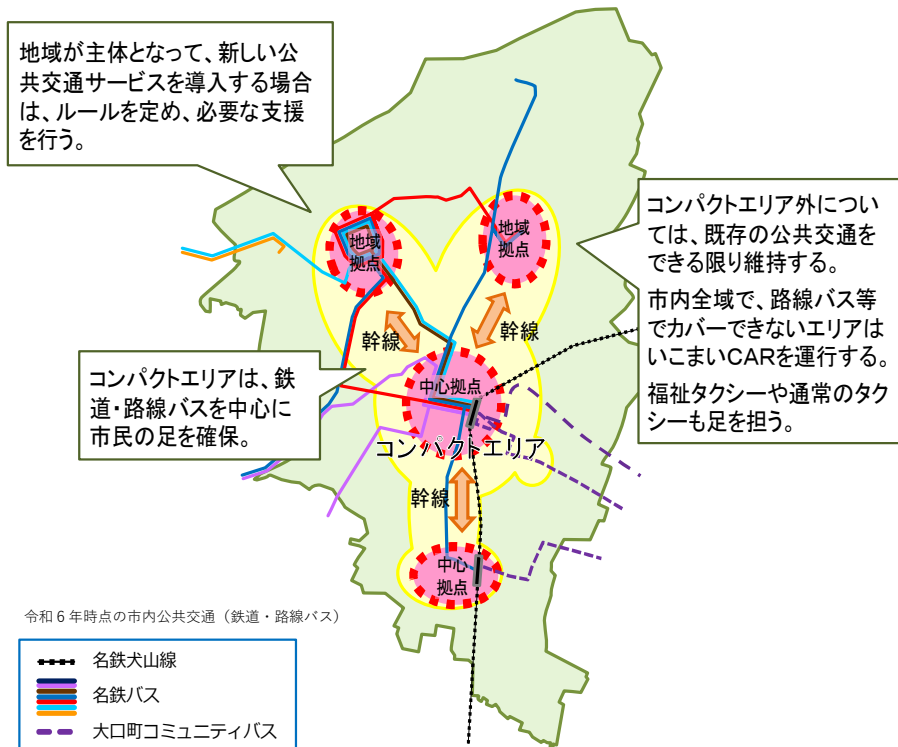
(江南市スポーツセンター)

曼陀羅寺公園～江南団地周辺

■ 公共交通の基本的な方針

- ・コンパクトエリアについては、鉄道や路線バスを中心に市民の足を確保。
- ・コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持。
- ・市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいC A Rを運行。
- ・路線バス・いこまいC A Rで対応できない場合は、福祉タクシー（福祉施策）や通常のタクシーで市民の移動を担う。
- ・地域主体の新しい公共交通サービスの導入についてルールを定め、支援を行う。

※1 市民の市内の移動手段として市が、運行するタクシーを利用した交通サービス



■ 取組期間(総合計画と連動)

平成30年度～令和9年度

2.公共交通の評価に関する事項

3

政策評価

指標	設定理由と対策	算出方法
市民一人当たりの公共交通利用回数	利用回数の推移について、変動理由を考察。 公共交通政策の方向性の確認を行い、事業に反映。	・路線バスの利用者数（名鉄バス株式会社より提供） ・いこまいC A Rの利用者数（江南市が集計） ・大口町コミュニティバスの江南市内の停留所の利用者数（大口町より提供） R6.4月からR7.3月の上記人数を合計して年間の利用回数を算出し、年度末時点の人口で割って算出。 名鉄バスの利用人数は、古知野線（2路線）、江南・病院線、江南団地線（4路線）、木曽川線、一宮・宮田線（2路線）の路線別利用者数の合計とする。

事業評価

評価対象	指標	設定理由と対策	算出方法
路線バスの維持確保(補助路線)	利用者一人当たりの市負担額の推移(路線別評価)	路線別の推移について、変動理由を考察。 事業評価で報告し、事業の維持・改善に反映。	下記の補助路線における、当該年度の補助金を、補助金算定期間であるR5.10月～R6.9月の利用者数で割って算出。 ・江南・病院線 ・江南団地A線(古知野高校経由) ・江南団地D線(ヴィアモール経由) ・江南団地E線(団地経由江南厚生病院行)
いこまいC A Rの維持確保	市負担額の推移	事業費の変動内容から、変動理由を考察。 事業評価で報告し、事業の継続または見直し内容に反映。	該当年度の決算額を利用。

3.自己評価から得られた対応方針と具体的取組事項（令和6年度）

4

令和6年度に掲げた対応方針		令和6年度の具体的取組み事項	
公共交通政策	・地域住民のニーズ、及び既存公共交通の課題についての対応を反映させた政策となるよう、地域公共交通会議検討部会を立ち上げ、新たな公共交通について協議を進めていく。 ・いこまいC A Rと福祉タクシーチケットとの並行登録について、各担当部局と連携し、検討していく。		・地域公共交通会議検討部会を開催し、既存公共交通（いこまいC A R、名鉄バス等）の課題を整理し、報告した。地域住民のニーズを把握するために地域懇談会を開催している自治体（豊橋市、岐阜県各務原市）を視察し、市での地域懇談会の開催方法を検討した。 ・令和7年4月からいこまいC A Rと福祉タクシーチケットの並行登録ができるように、高齢者・福祉担当部局と協議を行った。
名鉄バス	・主な利用者としては、高齢者だけではなく、次世代利用者である子どもも対象とし、路線バスを最大限利用してもらえるように利用促進を図る。 ・利用実態の把握に努め、必要に応じてダイヤの適正化を実施し、路線バスの維持に取り組む。		・フラワーパーク江南で10月19日に開催されたイベント（Hanaマルシェ）において、名鉄バス株式会社と連携し、ちびっこバス運転士体験を開催し、子どもや子育て世代に対するバス利用促進を図った。 ・江南団地E線のうち、特に利用者が少ない江南団地と江南厚生病院間のバスに乗車し利用実態の把握を行った。 ・江南団地A線と江南団地D線の利用状況を鑑み、運行便数の振り替えの検討を行い、それと同時に令和7年4月から江南・病院線を土曜・日曜・祝日のみ、すいとぴあ江南からフラワーパーク江南間の延伸運行化に向け協議を行った。
いこまいC A R	・利用者ニーズの変化やいこまいC A Rの需要の増加に対応するため、利用時間の平準化等に向けて対策を検討していく。		・物価高騰やタクシー初乗り料金の値上げ等を考慮し、利用者負担軽減のため、令和6年4月より、いこまいC A Rの迎車料金を利用者負担から市負担とした。 ・利用時間の平準化に向けて、利用する時間帯で利用者負担割合を変更した場合の試算をしたが、平準化の度合いによっては市の負担が増える結果となり、引き続き検討を続けることとした。

4. 具体的取組に対する評価（１）

5

■ 政策評価

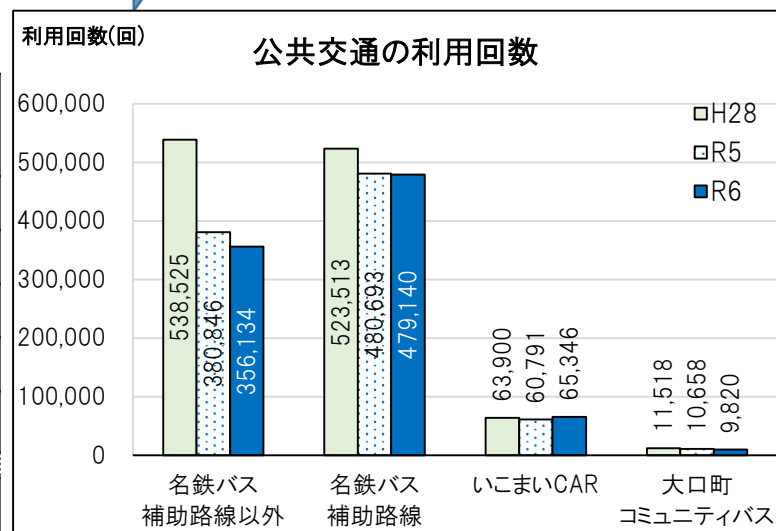
指標	H28(基準年)	R5(前年)	R6(評価年)	評価
市民一人当たりの公共交通利用回数	11	9	9	△

(単位:回/人) ※小数点以下四捨五入

【参考】利用回数内訳

内訳	H28(基準年) (H28.4~H29.3)	R5(前年) (R5.4~R6.3)	R6(評価年) (R6.4~R7.3)
名鉄バス補助路線以外	538,525	380,846	356,134
名鉄バス補助路線	523,513	480,693	479,140
いこまいC A R	63,900	60,791	65,346
大口町コミュニティバス	11,518	10,658	9,820
合 計	1,137,456	932,988	910,440
年度末時点人口	100,915	98,389	97,928

(単位:回,人)



評価に関する考察

- ・ 名鉄バス補助路線以外の利用回数が、基準年（H28）と比較し大幅に減少となったのは、市内の私立中学・高校において、令和3年10月から一宮駅を発着するスクールバスの運行が始まったことが主な要因と推測する。
- ・ 名鉄バス及び大口町コミュニティバスの利用回数が、前年度と比較し減少となったのは、「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準（令和6年4月施行）」により、運転手が不足しバスが減便されたことが主な要因と推測する。
- ・ いこまいCARの利用回数が、前年度と比較し増加となったのは、令和6年4月から迎車料金の200円を市が負担するよう変更したことにより、利用者の負担額が減ったことが一因と推測する。

4. 具体的取組に対する評価（２）

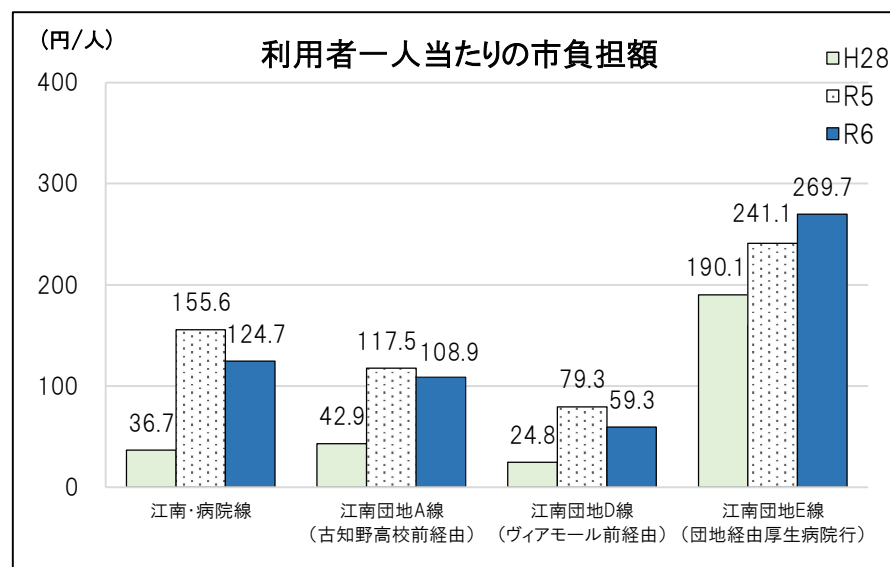
6

■ 事業評価（路線バス）※補助路線

利用者一人当たりの市負担額（年間補助額）の推移（補助対象期間）

区分	H28(基準年) (H27.10~H28.9)	R5(前年) (R4.10~R5.9)	R6(評価年) (R5.10~R6.9)
江南・病院線	36.7	155.6	124.7
江南団地A線 (古知野高校前経由)	42.9	117.5	108.9
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	24.8	79.3	59.3
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	190.1	241.1	269.7

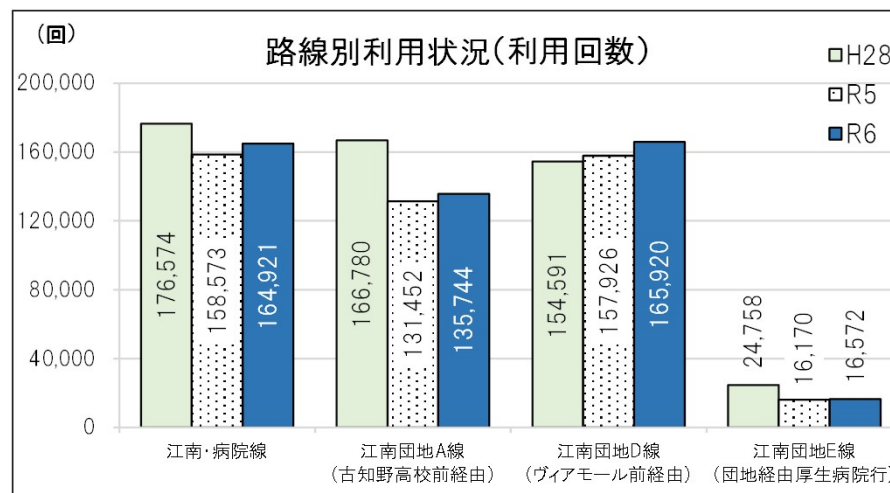
(単位:円/人)



年間利用回数（補助対象期間）

区分	H28(基準年) (H27.10~H28.9)	R5(前年) (R4.10~R5.9)	R6(評価年) (R5.10~R6.9)
江南・病院線	176,574	158,573	164,921
江南団地A線 (古知野高校前経由)	166,780	131,452	135,744
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	154,591	157,926	165,920
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	24,758	16,170	16,572

(単位:回)



4.具体的取組に対する評価（3）

7

■ 事業評価（路線バス）※補助路線

評価に関する考察（補助対象期間における前年度との比較）

【江南・病院線】

- ・年間利用回数は、令和5年度と比較して6,348回（4.0%）増加した。
- ・令和6年4月から平日4便減少したものの、令和6年度は令和5年度と比較して、年間利用回数が増加したため、利用者一人当たりの市負担額が減少した。

【江南団地A線】

- ・年間利用回数は、令和5年度と比較して4,292回（3.3%）増加した。
- ・令和6年4月から平日2便減少したものの、令和6年度は令和5年度と比較して、年間利用回数が増加したため、利用者一人当たりの市負担額が減少した。

【江南団地D線】

- ・年間利用回数は、令和5年度と比較して7,994回（5.1%）増加した。
- ・年間利用回数が増加したため、利用者一人当たりの市負担額が減少した。

【江南団地E線】

- ・年間利用回数は、令和5年度と比較して402回（2.5%）増加した。
- ・年間利用回数は微増したが、経常経費が増加したことにより、利用者一人当たりの市負担額が増加した。
- ・江南団地～江南厚生病院間の利用者は極めて少数である。バスに乗車し、利用実態調査を行った結果、高齢者の江南厚生病院への通院が主な利用目的で、江南団地の居住者の利用がほとんどであった。

4. 具体的取組に対する評価（４）

8

■ 事業評価（いこまいC A R）

市負担額の推移

	H28(基準年)	R5(前年)
市負担額	32,002,680	34,670,810



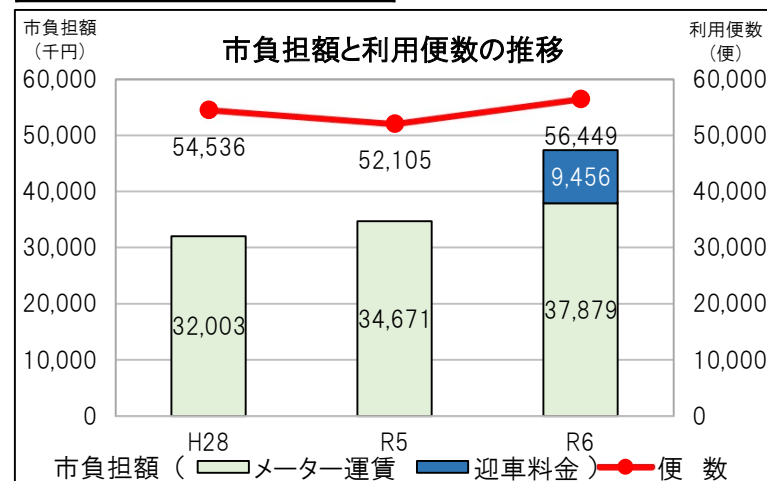
(単位:円)

R6(評価年)
47,335,140 (迎車料金除く: 37,879,140)

年間利用状況（※令和元年10月1日から立寄りを開始）

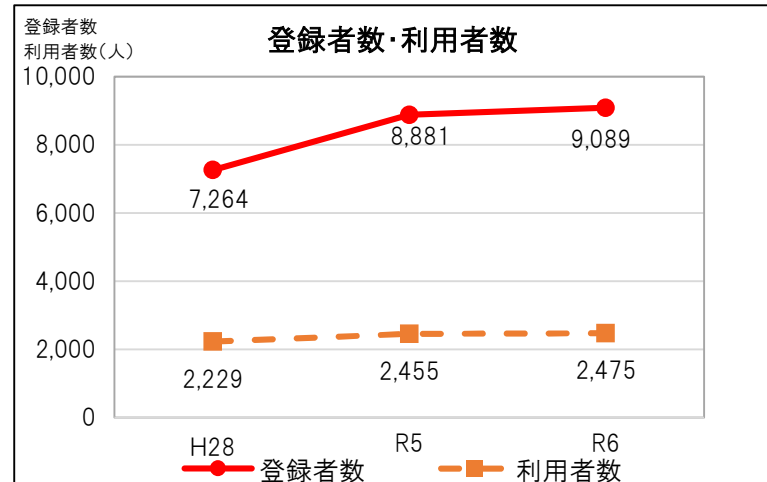
(単位:便,人)

区分	H28(基準年)	R5(前年)	R6(評価年)
利用便数	54,536	52,105	56,449
利用回数 (=乗車人数)	63,900	60,791	65,346
登録者数	7,264	8,881	9,089
利用者数(登録者数のうち実際に利用した人数)	2,229	2,455	2,475
立寄り便数	—	824	1,153



評価に関する考察

- ・ 利用便数が前年度と比較して増加したのは、令和6年4月1日から迎車料金の200円を市が負担したことが一因と考えられる。
- ・ 市負担額は年々増加傾向であることから、令和7年度に予定されているタクシー料金の改定による影響が懸念される。
- ・ 通院利用が午前中に偏っており、稼働車両の増加が見込められない中、利用便数が前年度と比較して増加したのは、タクシー事業者と利用者間で利用時間調整を行ったことが一因と考えられる。



5.自己評価から得られた課題と対応方針（令和7年度取組事項）

9

課題		対応方針（令和7年度取組み事項）
公共交通政策 (P5)	- 公共交通全体の利用者数は減少傾向にあり、今後の人口減少により更なる利用者数の減少が懸念される。 「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」の施行を発端にした運転手不足により、将来の公共交通サービスの維持が懸念される。 - 地域公共交通会議検討部会の中で、江南市北部地域のニーズを把握するため、地域懇談会の実施を求められている。	- 地域住民のニーズ、及び既存公共交通の課題について公共交通基礎調査を行い、その結果を踏まえた政策となるよう、地域公共交通計画策定に向け、地域公共交通会議等での協議・検討を進めていく。 - 江南市北部地域において地域懇談会を実施し、地域のニーズを把握し、新たな地域公共交通の導入の可能性を検討する。
名鉄バス (P6.7)	補助路線の年間利用回数は増加傾向にあるが、江南団地E線の一人当たりの市負担額が増加しているため、より多くの人に使ってもらえるようにバスの利用促進をする取組が必要である。	- 名鉄バス株式会社と連携して、次世代の利用者である子どもを対象とし、路線バスを利用してもらえるようなイベントを実施し、バスの利用促進を図る。 - 江南団地E線の利用実態調査を続けるとともに、沿線住民のニーズを把握する調査の実施を検討する。
いこまいCAR (P8)	市負担額は年々増加傾向であることから、令和7年度に予定されているタクシー料金の改定による影響が懸念される。	タクシー料金の改定の影響を把握し、翌年度以降の利用回数や市負担額への影響額を推計する。

■政策評価の評価方法

政策評価は指標の数値のみでなく、各モードごとの利用回数の経年推移や利用状況の変動などを、その理由を中心に分析し、検討する。
また、平成 28 年度実績値を基準とし、以下の評価基準により◎、○、△、×の 4 段階の評価をする。

内容	評価指標	評価基準
政策評価	市民一人当たりの公共交通利用回数	◎：指標が増加している。 ○：指標が維持している。 △：指標が減少しており、公共交通利用回数の経年推移や利用状況の分析による結果、経過を注視する必要がある。 ×：指標の大幅な減少が認められ、即時に方向性の変更が必要である。

1 各種調査の実施について

1. 市民アンケート調査の実施

「地域公共交通計画」の策定に向けて必要となる市民意向や日常の移動実態等を把握するため、市民2,000人を対象としたアンケート調査を実施します。

表：市民アンケート調査の概要

項目	調査内容・方法
調査時期	9月下旬ごろ発送予定 約2週間
調査方法	対象：市民約2,000人(15歳以上) 回収方法：郵送・WEB
調査項目	○あなたご自身のことについて ○外出(通勤・通学含む)の頻度や目的について ○公共交通に対する評価や利用状況等について ○江南市の将来的な公共交通施策について ○自由記述 等

※調査項目の詳細については、「江南市公共交通に関する市民アンケート」をご確認ください。

2. 公共交通利用実態調査・利用者アンケート調査の実施

市内を運行し補助対象路線の名鉄バス4路線(江南・病院線、江南団地A線、江南団地D線、江南団地E線)の利用実態を把握するため、OD調査及びバス利用者アンケート調査を実施します。

表：OD調査及びバス利用者アンケート調査の概要

項目	調査内容・方法
調査時期	10月の平日・休日各1日を予定
調査方法	対象：2日で計1,200人程度 OD調査：バス車内に調査員が乗り込んで利用者にOD調査票を配布・降車時に回収 バス利用者アンケート調査：バス車内に調査員が乗り込んで利用者にアンケートを配布 回収方法：郵送・WEB
調査項目	○名鉄バスの利用状況について ○名鉄バスのサービスの満足度・重要度について ○あなた自身について ○自由記述 等

※調査項目の詳細については、「名鉄バス(江南・病院線)に関する利用者アンケート」をご確認ください。



江南市公共交通に関する市民アンケート

～ご協力をお願い～



【このアンケートについて】

皆様には、日頃から江南市の公共交通政策にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

現在、市内には、鉄道、路線バス(名鉄バス)、大口町コミュニティバス、タクシー、いこまいCARの公共交通があり、その他にも、福祉タクシー料金助成事業を実施しています。

これらの公共交通を維持するために市は、直近だと路線バスを運行する名鉄バス株式会社に対して年約5,000万円の経費負担や、いこまいCAR運行事業に年約4,700万円の財政負担をしております。

今後、少子高齢化・人口減少が進むことが予測される中で、市にとって望ましい将来の地域公共交通を示す「江南市地域公共交通計画」の策定をするため、皆様の「普段の交通行動実態等」や、「公共交通に対する要望」についてのアンケート調査を実施します。

なお、この調査は市内にお住まいの15歳以上の方から無作為に抽出した2,000人に対してお送りしており、回答内容はすべて統計的に処理し、プライバシーの保護はもとより、ほかの目的に利用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【ご回答にあたってのお願い】

- ご回答は、ご本人(宛名の方)がご記入ください。事情によってご本人が回答できない場合は、代理の方が回答してください。
- 回答は、該当する数字に○印をつけるか、()内に必要事項を直接ご記入ください。質問によって回答を「複数選ぶ」ものがございます。
- ご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒にこの用紙をいれていただき、●月▲日(■)までに郵便ポストへご投函ください。(※切手は不要です)
- 本調査は、WEBでご回答いただくことも可能です。その場合は、次のURLまたは二次元バーコードからサイトにアクセスし、●月▲日(■)までにご回答ください。

<アンケートサイトURL>

「<https://forms.gle/...>」

※パソコン、スマートフォンどちらでもご回答可能です。

二次元バー
コード

－アンケート調査についてのお問い合わせ先－

江南市地域公共交通会議 (担当: 江南市都市整備部都市計画課)

所在地: 〒483-8701 愛知県江南市赤童子町大堀90番地

電話番号: 0587-54-1111(内線: 382) E-mail: tokei@city.konan.lg.jp

江南市公共交通に関する市民アンケート

～回答用紙～

1 はじめに、あなたご自身のことについてお伺いします

問1 性別を教えてください。(該当するもの1つに○印)

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

問2 年齢を教えてください。(該当するもの 1 つに○印)

1. 20歳未満	2. 20歳代	3. 30歳代
4. 40歳代	5. 50歳代	6. 60～64歳
7. 65～69歳	8. 70～74歳	9. 75～79歳
10. 80～84歳	11. 85～89歳	12. 90歳以上

問3 お住いの小学校区を教えてください。(該当するもの 1 つに○印)

1. 古知野東小学校区	2. 古知野西小学校区	3. 古知野南小学校区
4. 古知野北小学校区	5. 布袋小学校区	6. 布袋北小学校区
7. 宮田小学校区	8. 草井小学校区	9. 藤里小学校区
10. 門弟山小学校区	11. 校区が分からない場合	(江南市 町)

問4 ご職業を教えてください。(該当するもの 1 つに○印)

1. 自営業	2. 会社員、公務員	3. パート・アルバイト
4. 専業主婦・主夫	5. 学生	6. 無職
7. その他(		)

問5 運転免許証はお持ちですか。(該当するもの 1 つに○印)

1. 持っている	(問6へ)	2. 持っているがほとんど運転しない	(問6へ)
3. 持っていない(元々持っていない)	(問8へ)	4. 持っていない(免許証返納済み)	(問8へ)

※1または2を選択した方→問6へお進みください。

※3または4を選択した方→問8へお進みください。

問6 自家用車はお持ちですか。(該当するもの 1 つに○印)

1. 自由に使える車あり	2. 家族で共有	3. 持っていない
--------------	----------	-----------

問7 運転免許証をお持ちの方にお尋ねします。

①:運転免許証を返納しようと思う年齢を教えてください。(該当するもの1つに○印)

1. ~64歳	2. 65~69歳	3. 70~74歳
4. 75~79歳	5. 80~84歳	6. 85~89歳
7. 90歳以上	8. 決めていない	9. 返納するつもりはない (④へ)

※9を選択した方→④へお進みください。

②:運転免許証を返納した後の想定される移動手段を教えてください。(該当するものすべてに○印)

1. 徒歩	2. 自転車
3. 路線バス(大口町コミュニティバス含む)	4. タクシー(いこまいCAR含む)
5. 家族の送迎	6. その他()

③:運転免許証を返納した後の想定される主な外出先を教えてください。(該当するもの1つに○印)

1. 買い物、娯楽	2. 病院、福祉施設
3. 公共施設	4. その他()

④:①で「9.返納するつもりはない」に○をつけた方にお尋ねします。どのような条件なら運転免許証を返納してもよいと思いますか。(該当するものすべてに○印)

1. 公共交通の充実	2. 交通手段に関する支援(補助・割引など)の充実
3. 移動販売・宅配サービス等買い物支援の充実	4. どのような条件でも自主返納しようと思わない
5. その他()	

2 外出の頻度や目的についてお伺いします

問8 どの程度の頻度で「外出」しますか。(該当するもの1つに○印)

1. ほぼ毎日	2. 週に3~5日	3. 週に1~2日
4. 1ヶ月に数日	5. その他()	

次のページから、普段、外出する際の頻度や交通手段について、目的別にそれぞれお伺いします。

(問9:通勤・通学、問10:買い物・娯楽、問11:病院や福祉施設、問12:その他公共施設)

①:「目的地」を教えてください。 (問10～13は、施設名を記入) (該当するものすべてに○印)		②:外出の「時間帯」はいつですか。 (該当するものすべてに○印)		③:外出する頻度を教えてください。(該当するもの1つに○印)		
		出発の時間帯	帰宅の時間帯			
問9 通勤・通学 目的の外出	1. 古知野東小学校区 2. 古知野西小学校区 3. 古知野南小学校区 4. 古知野北小学校区 5. 布袋小学校区 6. 布袋北小学校区 7. 宮田小学校区 8. 草井小学校区 9. 藤里小学校区 10. 門弟山小学校区 11. 市外()	⇒	1. 0～6時 2. 6～9時 2. 9～12時 3. 12～15時 4. 15～18時 5. 18～21時 6. 21～24時 7. 24～6時	1. 0～6時 2. 6～9時 2. 9～12時 3. 12～15時 4. 15～18時 5. 18～21時 6. 21～24時 7. 24～6時	⇒	1. ほぼ毎日 2. 週に3～5日 3. 週に1～2日 4. 1ヶ月に数日 5. ほとんど行かない
問10 買い物・娯楽 目的の外出 例:アピタ江南西 店、平和堂江南店 等	1. 古知野東小学校区 2. 古知野西小学校区 3. 古知野南小学校区 4. 古知野北小学校区 5. 布袋小学校区 6. 布袋北小学校区 7. 宮田小学校区 8. 草井小学校区 9. 藤里小学校区 10. 門弟山小学校区 11. 市外()	⇒	1. 0～6時 2. 6～9時 2. 9～12時 3. 12～15時 4. 15～18時 5. 18～21時 6. 21～24時 7. 24～6時	1. 0～6時 2. 6～9時 2. 9～12時 3. 12～15時 4. 15～18時 5. 18～21時 6. 21～24時 7. 24～6時	⇒	1. ほぼ毎日 2. 週に3～5日 3. 週に1～2日 4. 1ヶ月に数日 5. ほとんど行かない
問11 病院・福祉施設 目的の外出 例:〇〇クリニック、 江南厚生病院 等	1. 古知野東小学校区 2. 古知野西小学校区 3. 古知野南小学校区 4. 古知野北小学校区 5. 布袋小学校区 6. 布袋北小学校区 7. 宮田小学校区 8. 草井小学校区 9. 藤里小学校区 10. 門弟山小学校区 11. 市外()	⇒	1. 0～6時 2. 6～9時 2. 9～12時 3. 12～15時 4. 15～18時 5. 18～21時 6. 21～24時 7. 24～6時	1. 0～6時 2. 6～9時 2. 9～12時 3. 12～15時 4. 15～18時 5. 18～21時 6. 21～24時 7. 24～6時	⇒	1. ほぼ毎日 2. 週に3～5日 3. 週に1～2日 4. 1ヶ月に数日 5. ほとんど行かない
問12 公共施設 目的の外出 例:江南市役所、 KTXアリーナ 等	1. 古知野東小学校区 2. 古知野西小学校区 3. 古知野南小学校区 4. 古知野北小学校区 5. 布袋小学校区 6. 布袋北小学校区 7. 宮田小学校区 8. 草井小学校区 9. 藤里小学校区 10. 門弟山小学校区 11. 市外()	⇒	1. 0～6時 2. 6～9時 2. 9～12時 3. 12～15時 4. 15～18時 5. 18～21時 6. 21～24時 7. 24～6時	1. 0～6時 2. 6～9時 2. 9～12時 3. 12～15時 4. 15～18時 5. 18～21時 6. 21～24時 7. 24～6時	⇒	1. ほぼ毎日 2. 週に3～5日 3. 週に1～2日 4. 1ヶ月に数日 5. ほとんど行かない

④：目的地までの全ての「移動手段」を教えてください。 (該当するものすべてに○印)		⑤：鉄道、バス利用の場合、駅または最寄りのバス停までの「移動手段」を教えてください。(該当するものすべてに○印)		⑤で2、3、4と回答した場合、駐車場等はどこですか (該当するもの1つに○印)
1. 徒歩(車椅子含む) 2. 自転車 3. 自動二輪車(原付含む) 4. 自家用車(自分で運転) 5. 自家用車(家族等の運転) 6. タクシー 7. 名鉄バス 8. 大口町コミュニティバス 9. 鉄道 10. スクールバス、送迎バス 11. その他()	⇒	1. 徒歩(車椅子含む) 2. 自転車 3. 自動二輪車(原付含む) 4. 自家用車(自分で運転) 5. 自家用車(家族などの運転) 6. タクシー 7. 名鉄バス 8. 大口町コミュニティバス 9. その他()	⇒	1. 月極駐車(輪)場 2. 時間貸駐車(輪)場 (コインパーキング) 3. 無料駐車(輪)場 4. その他 ()
1. 徒歩(車椅子含む) 2. 自転車 3. 自動二輪車(原付含む) 4. 自家用車(自分で運転) 5. 自家用車(家族等の運転) 6. タクシー 7. 名鉄バス 8. いこまいCAR 9. 大口町コミュニティバス 10. 鉄道 11. 送迎バス(買い物支援) 12. その他()	⇒	1. 徒歩(車椅子含む) 2. 自転車 3. 自動二輪車(原付含む) 4. 自家用車(自分で運転) 5. 自家用車(家族などの運転) 6. タクシー 7. 名鉄バス 8. 大口町コミュニティバス 9. その他()	⇒	1. 月極駐車(輪)場 2. 時間貸駐車(輪)場 (コインパーキング) 3. 無料駐車(輪)場 4. その他 ()
1. 徒歩(車椅子含む) 2. 自転車 3. 自動二輪車(原付含む) 4. 自家用車(自分で運転) 5. 自家用車(家族等の運転) 6. タクシー 7. 名鉄バス 8. いこまいCAR 9. 大口町コミュニティバス 10. 鉄道 11. 送迎バス 12. その他()	⇒	1. 徒歩(車椅子含む) 2. 自転車 3. 自動二輪車(原付含む) 4. 自家用車(自分で運転) 5. 自家用車(家族などの運転) 6. タクシー 7. 名鉄バス 8. 大口町コミュニティバス 9. その他()	⇒	1. 月極駐車(輪)場 2. 時間貸駐車(輪)場 (コインパーキング) 3. 無料駐車(輪)場 4. その他 ()
1. 徒歩(車椅子含む) 2. 自転車 3. 自動二輪車(原付含む) 4. 自家用車(自分で運転) 5. 自家用車(家族等の運転) 6. タクシー 7. 名鉄バス 8. いこまいCAR 9. 大口町コミュニティバス 10. 鉄道 11. その他()	⇒	1. 徒歩(車椅子含む) 2. 自転車 3. 自動二輪車(原付含む) 4. 自家用車(自分で運転) 5. 自家用車(家族などの運転) 6. タクシー 7. 名鉄バス 8. 大口町コミュニティバス 9. その他()	⇒	1. 月極駐車(輪)場 2. 時間貸駐車(輪)場 (コインパーキング) 3. 無料駐車(輪)場 4. その他 ()

3 市内の公共交通に対する評価や利用状況等についてお伺いします

問13 公共交通(鉄道・バス・タクシー等)での日常の移動に不便を感じていますか。(該当するもの1つに○印)

1. とても感じている (問14へ)	2. 感じている (問14へ)	3. あまり感じていない (問15へ)
4. 感じていない (問15へ)	5. わからない (問16へ)	

※1または2を選択した方→問14へお進みください。
 ※3または4を選択した方→問15へお進みください。
 ※5を選択した方→問16へお進みください。

問14 不便に感じる理由は何ですか。(該当するものすべてに○印)

1. 自宅から鉄道駅やバス停までが遠い
2. 利用できるバス停があっても運行本数が少ない・行先が目的に合わない
3. 通常のタクシーがあるが、料金が高い
4. 「いこまいCAR」があるが、予約が面倒だから
5. その他()

問15 交通手段が無いあるいは利用しづらいために、外出を控えたことがありますか。(該当するもの1つに○印)

1. よくある	2. たまにある	3. ない
---------	----------	-------

問16 市内の公共交通「鉄道」についてお聞きます。

①:よく利用する駅を教えてください(該当するもの1つに○印)

1. 江南駅	2. 布袋駅	3. 柏森駅	4. 石仏駅
5. 扶桑駅	6. その他()	7. 利用しない	

②:よく利用する駅の重要度・満足度を5段階で評価してください。(項目ごと1つに○印)

項目	重要度(すべての人)					満足度(利用者のみ)				
	極めて重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
回答例: 自宅から駅までの距離	5	④	3	2	1	⑤	4	3	2	1
2. 自宅から駅までの距離	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3. 駅のバリアフリー状況	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4. 駅施設の使いやすさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5. 料金	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6. 総合評価	-	-	-	-	-	5	4	3	2	1

問18 市内の公共交通「いこまいCAR」についてお聞きます。(別紙1:「いこまいCARについて」をご覧ください。)

①:江南市独自の公共交通「いこまいCAR」についてどの程度知っていますか。(該当するもの1つに○印)

1. 利用方法を知っている (②へ)	2. 名前は知っているが利用方法は知らない (②へ)
3. 知らない (問19へ)	

※1または2を選択した方→②へお進みください。

※3を選択した方→③へお進みください。

②:「いこまいCAR」の利用頻度(往復は、2回でカウントします。)を教えてください。(該当するもの1つに○印)

1. ほぼ毎日	2. 週4～5回程度	3. 週2～3回程度	4. 週1～2回程度
5. 月数回程度	6. 年数回程度	7. 利用しない	

③:「いこまいCAR」に関しての重要度・満足度を5段階で評価してください。(項目ごとに1つ○印)

項目	重要度(すべての人)					満足度(利用者のみ)				
	極めて重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
回答例: 予約制度(前日までの予約)	5	④	3	2	1	⑤	4	3	2	1
1. 予約制度(前日までの予約)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2. 運行時間帯(8:30～17:00)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3. 運行区域(市内を運行)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4. 利用対象 (義務教育修了後の市民)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5. 料金	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6. 迎車時間の正確さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7. 総合評価	-	-	-	-	-	5	4	3	2	1

問19 市内の公共交通「タクシー」についてお聞きします。

①:タクシーの利用頻度を教えてください。(該当するもの1つに○印)

1. ほぼ毎日	2. 週4～5回程度	3. 週2～3回程度	4. 週1～2回程度
5. 月数回程度	6. 年数回程度	7. 利用しない	

②:タクシーに関しての重要度・満足度を5段階で評価してください。(項目ごとに1つ○印)

項目	重要度(すべての人)					満足度(利用者のみ)				
	極めて重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
回答例:料金	5	④	3	2	1	⑤	4	3	2	1
1. 料金	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2. 時間の正確さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3. 総合評価	5	4	3	2	1	-	-	-	-	-

4 江南市の将来的な公共交通施策についてお伺いします

江南市では、民間の鉄道、路線バス、タクシーがありますが、一部のバス路線の維持のために補助金を交付しています。また、タクシー料金の半額相当額を市が負担する「いこまいCAR」を展開してしています。

問20

①路線バスの赤字路線(利用者が少ない路線)を維持するため、年間約 5,000 万円(市民 1 人あたり約 500 円)の税金を投入することは、妥当だと考えますか。(該当するもの 1 つに○印)

1. 妥当	2. おおむね妥当	3. やや不満
4. 不満	5. わからない	
6. その他()		

②利用者数の減少で現状のバス路線の維持が困難になってきた場合、どのような対策が良いと考えますか。(該当するものすべてに○印)

1. 投入する税金を増やしても(バス路線を)維持する
2. バス路線を廃止する
3. バス路線を廃止して、バスに代わる新しい公共交通を導入する
4. 行政は今以上の対応をすべきでない
5. その他()

問21

①「いこまい CAR」運行事業を実施するため、年間約 4,700 万円(市民 1 人あたり約 470 円)の税金を投入することは、妥当だと考えますか。(該当するもの 1 つに○印)

1. 妥当	2. おおむね妥当	3. やや不満
4. 不満	5. わからない	
6. その他()		

②「いこまい CAR」のあり方について、どのように考えますか。(該当するもの 1 つに○印)

1. 税金の投入額は現状程度で、制度を継続してほしい
2. 税金の投入額を減らして、サービス水準を縮小してほしい
3. 税金の投入額を増やして、サービス水準を拡大してほしい
4. いこまいCAR制度を廃止してほしい
5. その他()

問22 現在の市の公共交通で、自家用車中心の生活から、公共交通中心の生活に転換できると思いますか。(該当するもの 1 つに○印)

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 既に公共交通が中心 (問24へ) | 2. たまにならできると思う (問23へ) |
| 3. 将来、年を取ったらできると思う (問23へ) | 4. 現状の仕組みではできない・かわらないと思う |
| 5. わからない (問24へ) | (問24へ) |

※2、3を選択した方→問25へお進みください。

※1、4、5を選択した方→問26へお進みください。

問23 何歳になったら公共交通中心の生活に転換できますか。(該当するもの 1 つに○印)

1. 60歳ごろ 2. 70歳ごろ 3. 80歳ごろ 4. その他(歳ごろ)

問24 新しい公共交通などの利用意向についてお伺いします。

①:AIオンデマンド交通(該当するもの1つに○印)
(例:「チョイソコふそう」、「チョイソコかわしま」など)

1. 導入されたら利用する
2. 導入されても利用しない(理由:)

※AIオンデマンド交通とは、利用者毎の目的地に応じて、AIが最適なルートを計算して、乗合バスなどを運行する交通です。

②:シェアサイクル(該当するもの1つに○印)

1. 導入されたら利用する
2. 導入されても利用しない(理由:)

③:コミュニティバス(該当するもの1つに○印)
(例:大口町コミュニティバス、犬山市「わん丸君バス」、小牧市「こまくる」など)

1. 導入されたら利用する
2. 導入されても利用しない(理由:)

※地域住民の移動手段を確保するため、地方自治体等が運行するバスです。

④:MaaS(該当するもの1つに○印)

1. 導入されたら利用する
2. 導入されても利用しない(理由:)

※MaaSとは、Mobility as a Serviceの略で、地域住民や旅行者の移動ニーズに応じて、目的地まで複数の公共交通やその他の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービスです。

5 今抱えている日常生活でのお困りごとをご記入ください。

[illegible]

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

いこまいCARについて

いこまいCAR（予約便）とは

事前に市へ利用者登録を行い、利用の前日までにタクシー事業者へ予約することで、市内に限り、いこまいCARの料金で移動できるサービスです。

利用者登録

以下の要件をすべて満たす方であれば、どなたでも利用者登録をすることができます。

1. 江南市に住民登録をしている
2. 義務教育を修了している

運行日時等

1. 運行日時: 毎日午前8時30分～午後5時(午後5時までに目的地に到着) ※通院のために往復利用し、通院先から直接乗車する場合、午後6時まで
2. 運行区域: 江南市内 ※通勤、通学、通塾等の定期的な利用はできません。

予約方法等

- ① 利用の前日までにタクシー事業者へ連絡し、「いこまいCARの予約がしたい」と伝えてください。

予約先

名鉄タクシー:0587-56-4545	愛北タクシー:0587-55-2266
尾張タクシー:0587-54-1515	犬山タクシー:0587-54-2380

予約受付時間: 毎日午前10時～午後9時(利用する日の前日までに予約)

利用料金

タクシーのメーター運賃の半額(10円未満切捨て)(迎車回送料金は市が負担)

詳しくはこちら↓

<https://www.city.konan.lg.jp/kurashi/machizukuri/1003887/1003889/1003895.html>

福祉タクシー料金助成について

江南市福祉タクシー料金助成

市では、タクシー料金助成として、85歳以上の高齢者等の日常生活を容易にするために、年間48枚の普通タクシー基本料金相当額のチケットをお渡ししています。

対象者

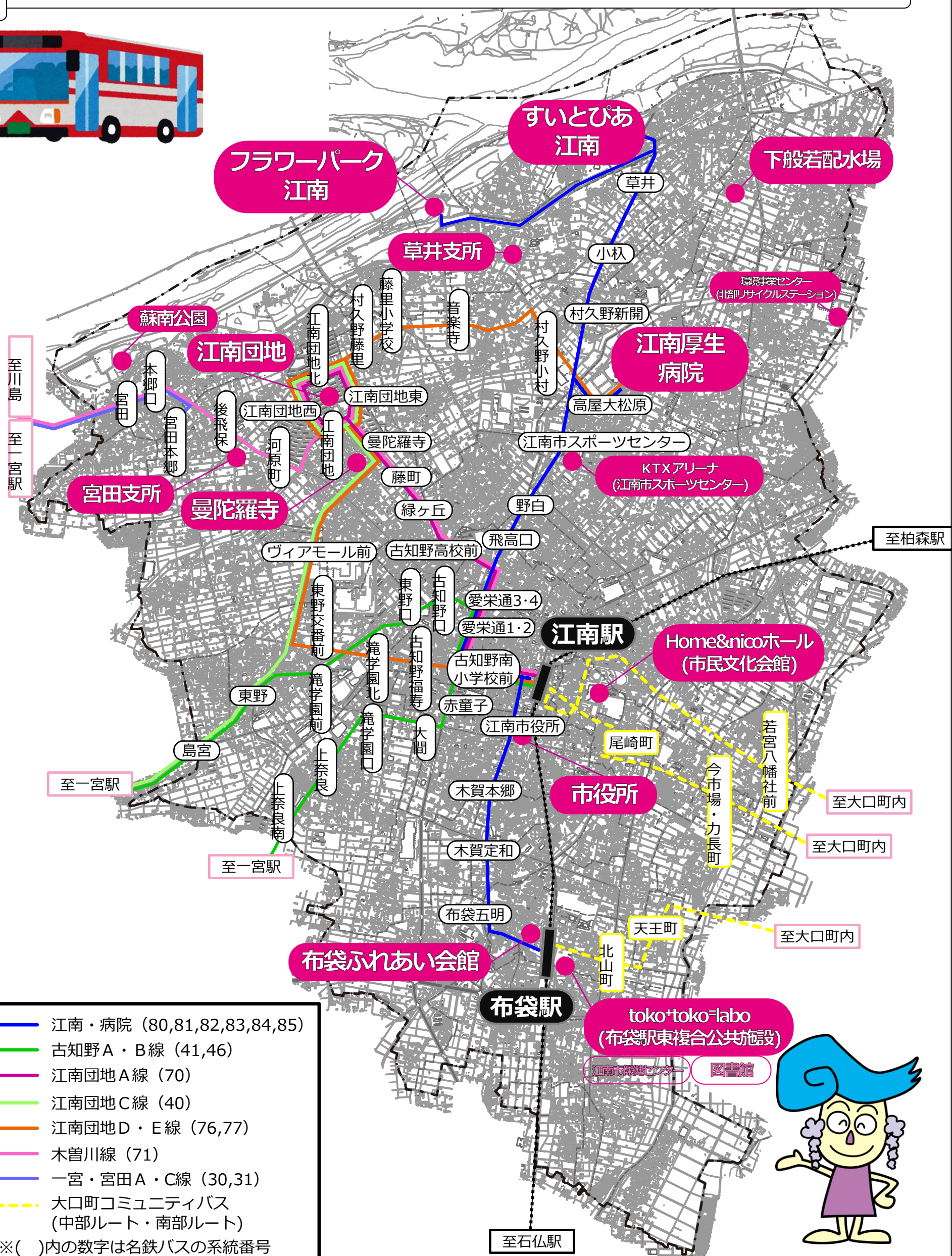
以下の要件のいずれかを満たし、所定の手続きを経て申請を行った方

1. 身体障害者手帳1・2級、または下肢・体幹機能障害3級の方
 2. 療育手帳A判定の方
 3. 精神障害者保健福祉手帳1級の方
 4. 85歳以上の方
- 等

詳しくはこちら↓

<https://www.city.konan.lg.jp/kurashi/kaigo/1007060/1014439.html>

江南市内のバス停・路線図



名鉄バス（江南・病院線）に関する 利用者アンケートご協力をお願い

公共交通(名鉄バス)をご利用いただき、ありがとうございます。

今後、少子高齢化・人口減少の更なる進展が予測されるなかで、江南市にとって望ましい将来の地域公共交通を示す「江南市地域公共交通計画」の策定をするため、皆様の名鉄バスの利用状況や運行内容に対する要望等を把握するためのアンケート調査を実施します。なお、回答内容はすべて統計的に処理し、プライバシーの保護はもとより、ほかの目的に利用することはございません。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【ご回答にあたってのお願い】

▶回答は、該当する数字に○印等をつけるか、()内に必要事項を直接ご記入ください。質問によって回答を「複数選ぶ」ものがございます。

▶ご回答は、同封している回答用紙に直接ご記入いただくか、インターネットでも回答していただけます。

▶調査票に直接記入いただいた方は、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストへ投函をお願いします。なお、その場合、切手は不要です。インターネットでご回答いただいた場合は、調査票を郵送いただく必要はございません。

※回答期限は2025年●月▲日(■)までです。

※インターネットでの回答は右記二次元バーコードを読み込んでいただくか、ブラウザでURL「<https://forms.gle/.....>」を入力してください。

※ご回答は同封している調査票への記入かインターネットかのどちらか一方をお願いします。

二次元
バーコード

－アンケート調査についてのお問い合わせ先－

江南市地域公共交通会議（担当：江南市都市整備部都市計画課）
電話番号：0587-54-1111（内線：382） E-mail：tokei@city.konan.lg.jp

1 名鉄バス（江南・病院線）の利用状況についてお伺いします

問1 本日、利用されたバス停を教えてください。（乗車：○印、降車：△印）

- | | | |
|--------------|-----------|----------------|
| 1.布袋駅 | 2.布袋五明 | 3.木賀定和 |
| 4.木賀本郷 | 5.江南市役所 | 6.江南駅 |
| 7.古知野南小学校前 | 8.愛栄通1・2 | 9.愛栄通3・4 |
| 10.飛高口 | 11.野白 | 12.江南市スポーツセンター |
| 13.高屋大松原 | 14.江南厚生病院 | 15.村久野新開 |
| 16.小杣 | 17.草井 | 18.すいとびあ江南 |
| 19.フラワーパーク江南 | | |

問2 本日は、名鉄バス(江南・病院線)への乗り継ぎはありますか。(該当するもの 1 つに○印(乗車前)または△印(降車後))

1.往復とも江南・病院線のみ	2.電車(名鉄犬山線)に乗り換える
3.他の名鉄バス(江南団地A線)に乗り換える	4.大口町コミュニティバス(中部ルート)に乗り換える
5.大口町コミュニティバス(南部ルート)に乗り換える	6.タクシーに乗り換える
7.いこまいCARに乗り換える	8.自動車(自分で運転)
9.自動車(送迎)	10.自転車
11.徒歩	12.その他()

問3 本日の最終目的地を教えてください。

--

問4 名鉄バス(江南・病院線)を利用される頻度はどれくらいですか。(該当するもの 1 つに○印)

1.ほぼ毎日	2.1週間に2～3日程度	3.1週間に1日程度
4.月に1回程度	5.年数回程度	6.今日初めて乗った
7.ほとんど乗ることはない		

※5,6,7を選択した方→問7へお進みください。

問5 名鉄バス「江南・病院線」を利用される状況について教えてください。(該当するもの 1 つに○印)

1.ほとんど同じ便(同じバス)を利用する	2.利用する便は決まっていない
3.雨の日のみ利用する	4.その他()

問6 どのような目的で利用されますか。(該当するものすべてに○印)

1.通勤	2.通学	3.通院	4.買い物
5.訪問	6.習い事	7.娯楽	8.食事
9.観光	10.その他()		

問7 自宅から名鉄バス(江南・病院線)の最寄りのバス停までの距離を教えてください。(該当するもの1つに○印)

1.徒歩約3分以内(概ね100m以内)にある 2.徒歩約5分以内(概ね100～300m以内)にある 3.徒歩約10分以内(概ね300～500m以内)にある 4.近く(徒歩10分以内、概ね500m以内)にはない。 5.その他()
--

2 名鉄バス(江南・病院線)の運行サービスの満足度・重要度についてお伺いします。

問8 名鉄バス(江南・病院線)について、改善すると良いと考える点があれば具体的に教えてください。

--

問9 名鉄バス(江南・病院線)に関しての満足度・重要度を5段階で評価してください。(該当するものすべてに○印)

項目	重要度 各項目について、どのくらい重要 と思っているか					満足度				
	極めて重要	重要	普通	重要でない	全く重要でない	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
例:バス停の位置	5	④	3	2	1	⑤	4	3	2	1
1.バス停の位置	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
2.バス停待合環境	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
3.運行ルート	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
4.運行本数	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
5.運行時間帯	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
6.運行状況などの情報提供	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
7.鉄道や他のバスとの乗り継ぎのしやすさ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
8.料金	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
9.総合評価	-	-	-	-	-	5	4	3	2	1

※満足度について、1つでも1、2を選択した方→問11へお進みください。

問10 問 10 で、「やや不満」「不満」と回答した理由を教えてください。（「やや不満」「不満」と回答したすべての項目について、その理由をお答えください。）

1. バス停の位置	理由: 1.遠い 2.その他()
2. バス停待合環境	理由: 1.整備されていない 2.快適でない 3.その他()
3. 運行ルート	理由: 1.行きたい目的地を通らない 2.その他()
4. 運行本数	理由: 1.運行本数が少ない 2.その他()
5. 運行時間帯	理由: 1.利用したい時間に便がない 2.その他()
6. 運行状況など情報提供	理由: 1.分かりにくい 2.その他()
7. 鉄道や他のバスとの乗り継ぎのしやすさ	理由: 1.利用したい時間に便がない 2.その他()
8. 料金	理由: 1.乗り継ぎに時間がかかる 2.その他()
9. 総合評価	理由: 1.高い 2.その他()

問11 江南市では、市内で運行する名鉄バス(江南・病院線、江南団地 A 線、江南団地 D 線、江南団地 E 線、木曽川線)を維持するため、名鉄バス株式会社に対し、直近で年間約 5,000 万円の経費負担をしています。
江南市内を運行する路線バスを確保・維持するために必要な費用負担のあり方について、あなたの考え方を教えて下さい。（該当するもの1つに○印）

1.運行本数の増便など、今以上の利便性を高めるため、運賃は据え置き、市の負担額を増やすべき
2.運行本数の増便など、今以上の利便性を高めるため、利用者負担(運賃)の値上げもやむを得ない
3.現在のサービス水準を維持するため、市の負担額は現状程度で良い
4.運行本数の減便など、サービス水準を低下させ、市の負担額を減らすべき
5.その他()

3 あなたご自身のことについてお伺いします。

問12 あなたの性別を教えてください。（該当するもの1つに○印）

1.男性	2.女性	3.その他
------	------	-------

問13 あなたの年代を教えてください。（該当するもの 1 つに○印）

1. 20歳未満	2. 20歳代	3. 30歳代
4. 40歳代	5. 50歳代	6. 60～64歳
7. 65～69歳	8. 70～74歳	9. 75～79歳

10.80～84歳	11.85～89歳	12.90歳以上
-----------	-----------	----------

問14 お住いの小学校区を教えてください。(該当するもの 1 つに○印)

市内		
1. 古知野東小学校区	2. 古知野西小学校区	3. 古知野南小学校区
4. 古知野北小学校区	5. 布袋小学校区	6. 布袋北小学校区
7. 宮田小学校区	8. 草井小学校区	9. 藤里小学校区
10. 門弟山小学校区	11. 校区が分からない場合 (江南市	町)
市外		
12. 一宮市	13. 岩倉市	14. 犬山市
15. 大口町	16. 扶桑町	17. 名古屋市
18. その他()		

※江南市については、小学校区単位です。

問15 あなたのご職業を教えてください。(該当するもの 1 つに○印)

1. 自営業	2. 会社員、公務員	3. パート・アルバイト
4. 専業主婦・主夫	5. 学生	6. 無職
7. その他()		

問16 運転免許証はお持ちですか。(該当するもの 1 つに○印)

1. 持っている	2. 持っているがほとんど運転しない
3. 持っていない(元々持っていない)	4. 持っていない(免許証返納済み)

問17 自家用車はお持ちですか。(該当するもの 1 つに○印)

1. 自由に使える車あり	2. 家族で共有	3. 持っていない
--------------	----------	-----------

4 その他バス事業の改善点やご意見・ご要望があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和 7 年度

江南市地域公共交通会議会計

令和7年度江南市地域公共交通会議会計予算

(総則)

第1条 令和7年度江南市地域公共交通会議会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入及び歳出)

第2条 歳入及び歳出の予算額は、次のとおりとする。

歳 入	
第1款 負担金	9,554 千円
第2款 補助金	3,811 千円
第3款 繰越金	0 千円
第4款 諸収入	1 千円
計	13,366 千円

歳 出	
第1款 運営費	527 千円
第1項 会議費	514 千円
第2項 事務費	13 千円
第2款 事業費	12,839 千円
第3款 返還費	0 千円
第4款 予備費	0 千円
計	13,366 千円

(予定支出の各項の経費の金額の流用)

第3条 予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

予定支出の各項の経費及び各項間の経費

令和7年4月24日提出

江南市地域公共交通会議会長 磯部 友彦

令和7年度江南市地域公共交通会議予算実施計画

歳入及び歳出

歳入

[単位:千円]

款	項	目	予 算 額	備 考
1 負 担 金	1 負 担 金		9,554	
		1 負 担 金	9,554	江南市一般会計負担金
2 補 助 金	1 補 助 金		3,811	
		1 補 助 金	3,811	国庫補助金(交通サービスインバウンド対応支援事業補助金)
3 繰 越 金	1 繰 越 金		0	
		1 繰 越 金	0	
4 諸 収 入	1 諸 収 入		1	
		1 諸 収 入	1	預金利子
計			13,366	

歳出

[単位:千円]

款	項	目	予 算 額	備 考
1 運 営 費	1 会 議 費		514	
		1 会 議 費	514	委員報酬等
	2 事 務 費		13	
		1 事 務 費	13	会長印作成費
2 事 業 費	1 事 業 費		12,839	
		1 事 業 費	12,839	江南市地域公共交通基礎調査委託
3 返 還 金	1 返 還 金		0	
		1 返 還 金	0	
4 予 備 費	1 予 備 費		0	
		1 予 備 費	0	
計			13,366	

令和7年度江南市地域公共交通会議予算実施計画

歳 出

款	項	目	当 初 予 算 額	流 用 増 減 額	合 計
1 運 営 費			527	0	527
	1 会 議 費		514	△ 55	459
		1 会 議 費	514	△ 55	459
	2 事 務 費		13	55	68
		1 事 務 費	13	55	68
2 事 業 費	1 事 業 費		12,839		12,839
		1 事 業 費	12,839		12,839
3 返 還 金	1 返 還 金		0		0
		1 返 還 金	0		0
4 予 備 費	1 予 備 費		0		0
		1 予 備 費	0		0
計			13,366	0	13,366

地域公共交通について

活発で良い議論が できる会議のために。

地域に合ったより良い公共交通の
未来に向けて、今から議論をしっかりと、
着実に重ねよう。



全国の地域公共交通が、 いま、**大ピンチ**です!

利用者の減少

利用者が減り、路線が減少し続けています。

採算の悪化

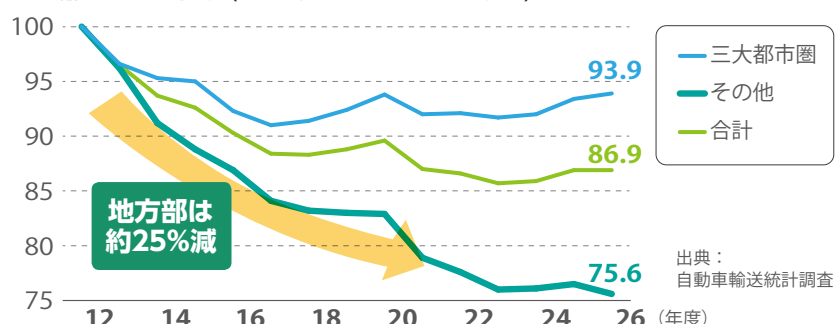
路線の縮小・廃止

鉄道、路線バス、コミュニティバス、タクシー等、様々な公共交通があります。

でも、今、地方の公共交通は利用者が減少傾向にあり、結果、路線も減少し続けています。

あなたの地域には、
どんな公共交通が走っていますか?

バス輸送人員の推移(H12年度を100とした場合)



地域みんなが豊かに暮らすために、地域の公共交通はとても重要です。

地域にはいろいろな人が住み、いろいろな場面で公共交通を必要としています。

通院・買物

自分で運転するのが不安だわ。でも、通院や買物は自分1人で行きたいし。

通学

進学に向け、遠方の高校へ通いたい。通学はなるべく親に迷惑をかけたくない。

通勤

日々の通勤、渋滞もすごいし、車でいくのは疲れるな。

観光

地域の良いところ、いろいろとゆっくり、回りたいな。



地域公共交通があることにより1人ひとりが自立した生活を送れ、そして、まちに人を呼び込むことができ、賑わいや活気へとつながります。



地域公共交通は、まちづくりには欠かせない大切な要素です。

地域公共交通がなくなって困ることは? あってできることは?

5年後、10年後、地域の公共交通を維持するために、
今からできることをしっかりと、考えていく必要があります。

「地域公共交通会議」は、
地域にふさわしい公共交通をつくりあげていくために、
住民、交通事業者、行政など関係者みんなで、
話し合って決める場です。 ※地域公共交通に関する会議の仕組みや呼び方は地域によって異なります

地域公共交通会議で話し合うこと

運行について

ダイヤやルートの見直し、停留所の位置や運賃など、利用者にとって使いやすいものを目指します。また、きちんと運行され、改善が図られているか、地域の関係者みんなで確認します。

利用者を増やすために

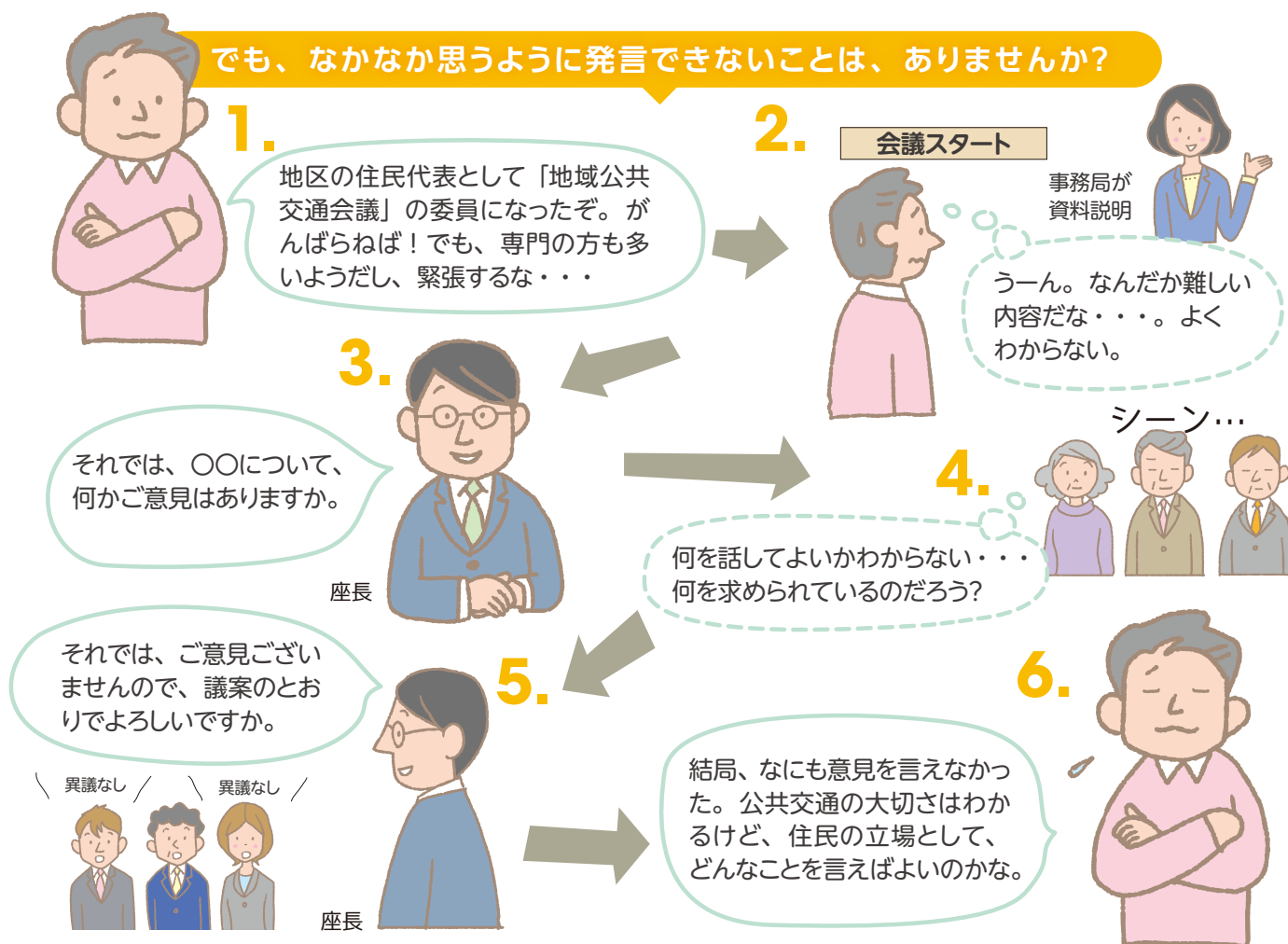
地域公共交通の利用者を増やすため、みんなでいろいろなアイデアを持ち寄り検討します。

地域全体の、公共交通の将来について

まちや地域全体のあり方など、将来を見据えた広い視野をもって、今後どのような地域公共交通が必要か関係者みんなで考えます。

その他、交通に関する、計画づくりや補助金の申請など…

でも、なかなか思うように発言できないことは、ありませんか？



せっかく参加する会議。あなたの意見で公共交通を
良くするためにはどうすればいいのでしょうか？

会議の参加者とその役割

※会議によっては、参加者が異なる場合があります。

参加している人はどんな人たちで、どんな立場で参加しているのでしょうか？

住民代表

- 日頃から感じている、利用するうえでの課題、困ったことを伝える
- 地域の視点から、公共交通に関する課題や、必要な取り組みを提案

利用している大型スーパー最寄りのバス停が、店からちょっと遠いんです。買物の後、重い荷物を持って移動しなければいけないから、**スーパーの入口までバスが入れるとうれしい**という声があります。

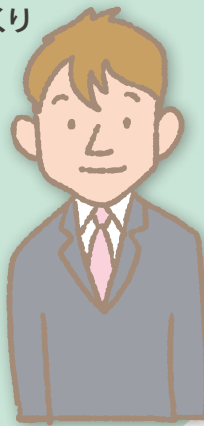


身近な
影響への
質問

市町村

- 市町村としての方針を提示
- 地域の活性化やまちづくり等の立場から発言

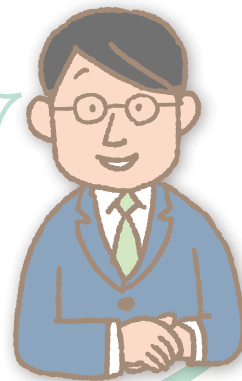
スーパーへの乗り入れに対する**要望については、住民アンケート等**でもあがってきています。



座長

- 議事の進行
- 話しやすい雰囲気づくり、会議の活性化
- 議題によっては、事務局や関係の強い委員に発言を促す

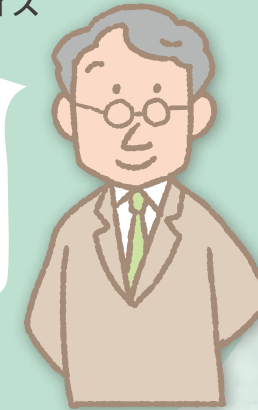
日頃感じているご意見、ありがとうございます。利便性向上に向けた貴重な意見かと思います。**乗り入れについて議論しましょう。**



学識経験者

- 交通やそれに関連する分野の有識者としてアドバイス

商業施設から、バス利用者への割引券の発行など、**連携した取り組みができる**とよいですね。



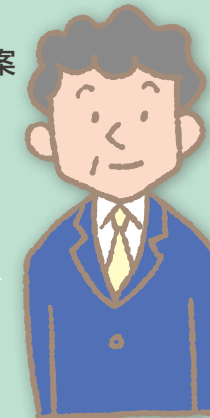
解説・助言
改善に向けた
提案

法律、制度など
専門的なことへの質問

交通事業者

- 公共交通運行の当事者
- ノウハウを活かした企画提案

スーパーへの乗り入れについては、バスを小型化すれば可能になりますが、反面、乗れる人数が減りますので、**通勤・通学の際は乗れない人が発生**してしまいます。

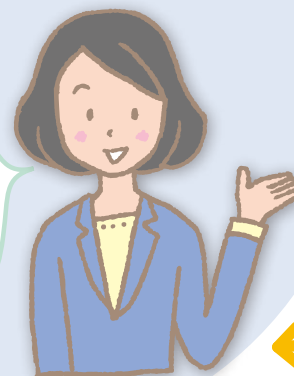


日頃から連携

事務局

- 会議の設計、運営
- 関係者との調整・連携
- 事業の実施状況の報告
- 必要な資料のとりまとめ

商業施設の乗り入れは、**各専門分野のみなさんと調整し、確認**します。



事業の確実な
実施に向けた
調整

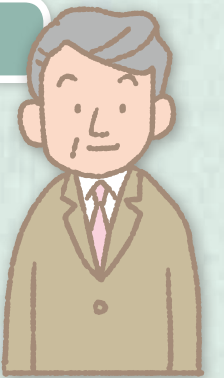
専門的な立場
からの判断

わかりやすい
説明

運転者団体

- 労働条件及び労働環境の観点で助言
- 運行の実情を伝える

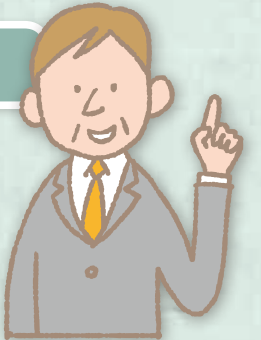
入り口が狭いので、**回り道をすれば入るの**は可能だと思います。



道路管理者

- 道路管理上の観点から助言

事前に確認したところ、**道路幅は問題ありません。**



公安委員会・警察

- 交通安全上の観点から助言

商業施設のバス停の位置については、**現場の確認が必要**です。



都道府県の交通政策担当者

- 市町村の境界を越えた、広域的な視点で助言

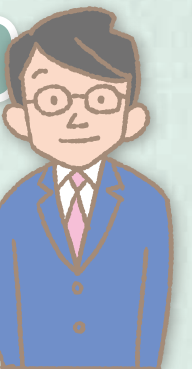
A市でも同じような課題があり、**調整して乗り入れができました。**参考にしてください。



運輸局

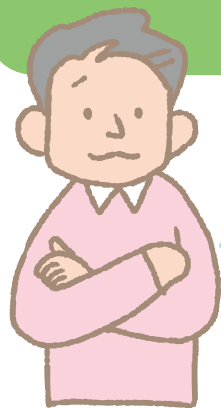
- 地域の公共交通のあり方について助言

商業施設への乗り入れは、**延伸になるので国への申請が必要**ですね。



みんなで話しやすい、場づくりをしましょう

次回の地域公共交通会議で・・・



1. 会議開催日前

お、会議資料が送られてきたぞ！
事前に資料を読んでおけば、
何について話すか予習できるな。

2. 会議当日

事務局の
資料説明

それでは、〇〇について、
何かご意見はありますか。

座長

3.

すみません。この制度
は、どんな制度ですか？
もう少し詳しく教えて
ください。

4. 制度について

わかりづらくて、すみません。
まず制度ですが、この制度
は……なんです。

事務局

5.

それ、私もわからなかったんです。
質問してもらってよかったわ。

この路線の〇〇っていうバス停
ですが、近所にある屋根付の施
設に近づけてほしいという声
が地区からあがっているの。

6. バス停について

少し移動するだけでも雨の日
の利便性があがりますね。た
だ、交差点に近くなるな。安
全上、大丈夫でしょうかね。

バス事業者

7.

バス停を設置する場所は、
安全がしっかり確保される
必要があります。一度、
現場を確かめてみましょう。



公安委員会

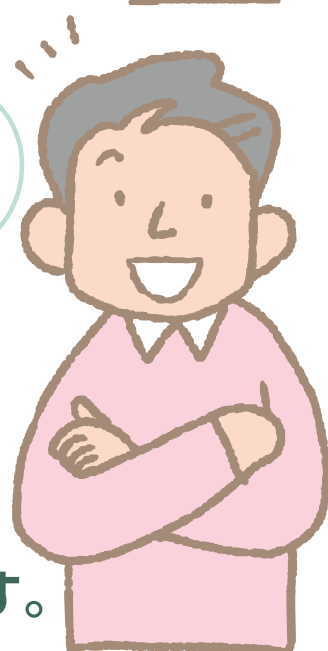
8.

確認し、次回の協議会で
結果をお知らせします。

事務局

9.

なるほど。利用者の意見で
公共交通が改善されるんだ！
これから地域公共交通のこ
とをもっと考えていこう。



あなたが疑問に思っていることは、
みんなも疑問に思っているはずです。
地域に合ったより良い公共交通は、
みんなで考え話し合うことによって実現できます。

素朴な疑問

Q

どんな発言でも大丈夫？
地域公共交通についての
提案はしてもいいの？

委員の方の意見や提案で地域公共交通が良くなった事例はたくさんあります。日ごろ気づいたこと、わからないこと、地域公共交通を良くする取り組みなど積極的に発言してください。

地域公共交通にはみなさんの税金が使われていますので、お住まいの地区だけでなく、地域全体をより良くするという視点で発言しましょう。

Q

会議以外では何をすればいいの？

地域公共交通を日頃利用されない方は、この機会に利用してみましょう。利用することで、普段とは違った視点で地域の状況を知ることができます。

また、会議で地域公共交通について真剣に話し合っていることや、その結果などについて、地域のみなさんに広く知っていただくようにしましょう。

Q

住民代表といわれても、ほかの地域のことはよくわからないわ。

事前に地域の意見を集めている委員さんもあります。ご自身で、できる範囲で、周りの方の意見を集めるようにしましょう。会議によっては、住民としての意見を独自に議論する場（分科会など）を組織しているところもあります。

Q

会議で決定したことはどうなるの？

会議で路線、ダイヤ、運賃などの変更が承認されれば、それは議会での予算承認を経て実行されます。みなさんの生活に直結することなので、しっかりと話し合って決めましょう。

学識経験者から「地域公共交通会議」をより良くするポイント

POINT
1

地域における公共交通の役割や将来を考えて議論をしましょう！

地域には、自治体が運営するバスだけでなく、民間バスやタクシーも運行しており、それぞれには役割があります。地域全体を視野に入れ、それぞれの公共交通の適切な役割分担も踏まえながら、議論することが重要です。

また、今必要だという視点だけでバスを走らせても、当初の予定より利用者や収入が少なく、すぐに運行が行き詰まってしまうこともあります。地域の将来を想像しながら検討しましょう。

このように、「公共交通の役割分担」や「地域の将来」、など広い視点を持って、より良い公共交通にしていくために、利用者や現場の意見を活かして、定期的に見直しを行い、改善をしていきましょう。

POINT
2

お互いの立場を尊重し、議論をしましょう！

地域公共交通会議では、自分の意見を伝えることが大事です。一方、他の委員の意見を聞くことも大事です。様々な立場の人が集まりますから、意見が一致しないこともあります。まずは否定せずに、お互いの立場について理解を深めましょう。



住民の発言から、より良い地域公共交通としていく 取り組み事例をご紹介します

認知度向上に向け、イベント等を活用したPRを実施 ～利用者増加にはまずは知ってもらう～



意見を
うけて

地区で開催されるお祭りにあわせて、会場に行きやすい臨時便を運行しました。臨時便は、普段のルートから遠方を回るスーパーや病院を外した、交通結節点を結んだルートで、民間バスとの乗継ぎも考慮したものとしました。普段、バスに乗らない人たちに乗ってもらう機会につながりました。

地域の人たちに、コミュニティバスをもっと知ってほしい。地区のお祭りを利用して、「乗ってもらう機会」をつくれないかな!

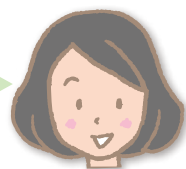
日頃の活動のなかで、コミュニティバスを紹介したい!

意見を
うけて

事務局は時刻表を渡し、その後イベントでの配布につながりました。

日頃の活動の中で、コミュニティバスを知ってもらう取り組みにご協力いただける機会がありましたら、ぜひご提案ください。

利用者を増やすためには、まずはコミュニティバスを知ってもらうことが必要だと思います!私が、開催しているイベントで時刻表を配布し、PR活動のお役に立てたらと思います。



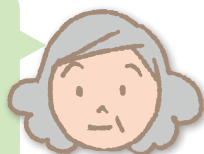
日頃感じていた「心配」を語ることで、バスの乗降環境が改善

バスを乗り降りするとき、いつも危なくて!

意見を
うけて

すでにバス停付近の縁石を取り外したところもありましたが、まだ残っている場所もある状況でした。住民代表の意見をうけて、「乗降環境の整備」の必要性が再認識され、計画立てて取り組むことになりました。また、会議開催後、指摘があったバス停付近のブロックは取り除かれ、乗降しやすい環境となりました。

バスを乗り降りする場所で、歩道と車道を仕切る縁石が高く、越えるのに一苦労であぶないんです。バスが接触しないか心配しています。安全性を確認してほしいです!



地域住民の暮らしの実情に合わせた路線延伸が実現

もっと、地域住民の暮らしに合った交通体系へ!

小学校の統廃合に伴い、既存のバス路線、ダイヤの見直しが協議されていました。その中で、事務局が提示した変更案では「地域の実情を十分に反映していないのでは」との声があがりました。

意見を
うけて

既存ルートから奥の地区まで延伸することになりました。延伸にあたっては、地区の住民とも話し合いを行い、小学生・中学生や高齢者の生活に合わせたダイヤとし、利便性の向上につながりました。

奥の地区に住む子どもたちが、利用できるバスがなくて、歩いて帰るのは危険なんです。



高齢者の方がバス停までの上り坂を歩くのが大変そう。もう少し、延伸できないでしょうか。



【お問い合わせ】

【発行】

国土交通省 中部運輸局
TEL: 052-952-8006 FAX: 052-952-8085
平成28年3月発行

令和 6 年度

江南市地域公共交通 (いこまい C A R ・ バス) の利用状況

令和 7 年 6 月

都市整備部都市計画課

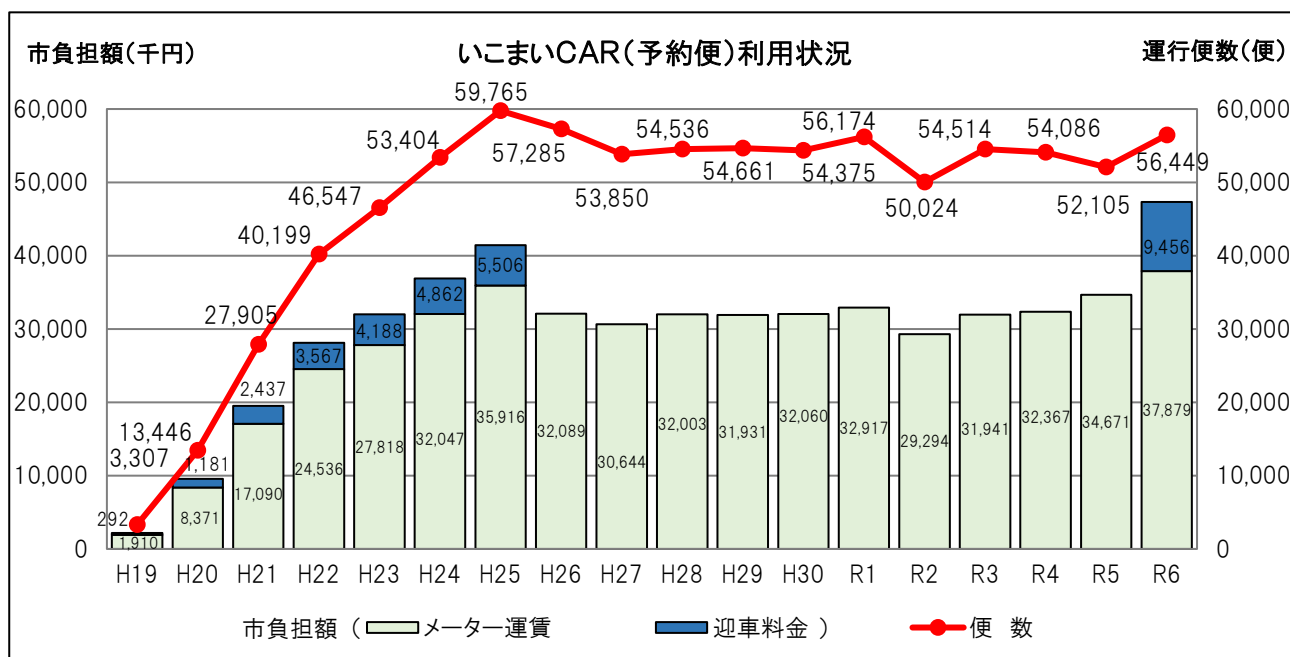
目次

1. いこまいCAR(予約便)利用状況(経年比較).....	1
1)市負担額・運行便数の推移	1
2)登録者数・利用者数の推移	1
2. いこまいCAR(予約便)利用状況(令和6年度).....	2
1)年齢別登録者数・利用者数.....	2
2)年齢別運行便数割合	2
3)時間帯別利用割合	3
4)曜日別利用割合	3
5)利用目的別割合	4
6)一便当たりの料金別利用割合.....	4
7)登録者一人当たりの利用回数割合.....	5
8)地区別登録者割合	6
9)出発地区別利用者割合	6
10)小学校区別登録者割合	7
11)住所(小学校区)別運行便数割合	8
参考:小学校の通学区域	8
参考:いこまいCAR地区別位置図 ((10)、(11)は小学校区ごとの区分のため地図とは異なる).....	9
3. 名鉄バス(補助路線)利用状況.....	10
1)利用者数(路線別)	10
2)一便当たり利用者数(路線別)	10
3)利用者一人当たりの市負担額(路線別補助額).....	11
4. 大口町コミュニティバス利用状況	12
1)中部ルート(毎日運行便)(江南駅行).....	12
2)中部ルート(毎日運行便)(パロー行).....	12
3)中部ルート(平日朝・夕運行便)(江南駅行).....	13
4)中部ルート(平日朝・夕運行便)(さくら総合病院前行).....	13
5)南部ルート(毎日運行便)(布袋駅行).....	13
6)南部ルート(毎日運行便)(外坪松山行).....	14
5. 江南市内のバス路線・停留所.....	15

1. いこまいCAR（予約便）利用状況（経年比較）

1)市負担額・運行便数の推移

運行便数は、平成25年度まで急激に増加していたが、タクシー料金の値上げや迎車料金など個人負担額の見直しを行った平成26年度以降は、ほぼ横ばいで推移している。また、市負担額は、運行便数と同様に平成25年度まで増加していたが、平成26年度から令和5年度まではほぼ横ばいで推移していた。令和6年度は迎車料金を再び市負担とした影響などにより、前年度と比較して36.5%の増加となった。



※1 H26 料金改定概要：迎車料金を市負担→利用者負担、利用者負担を100円未満切捨て→10円未満切捨てに変更。

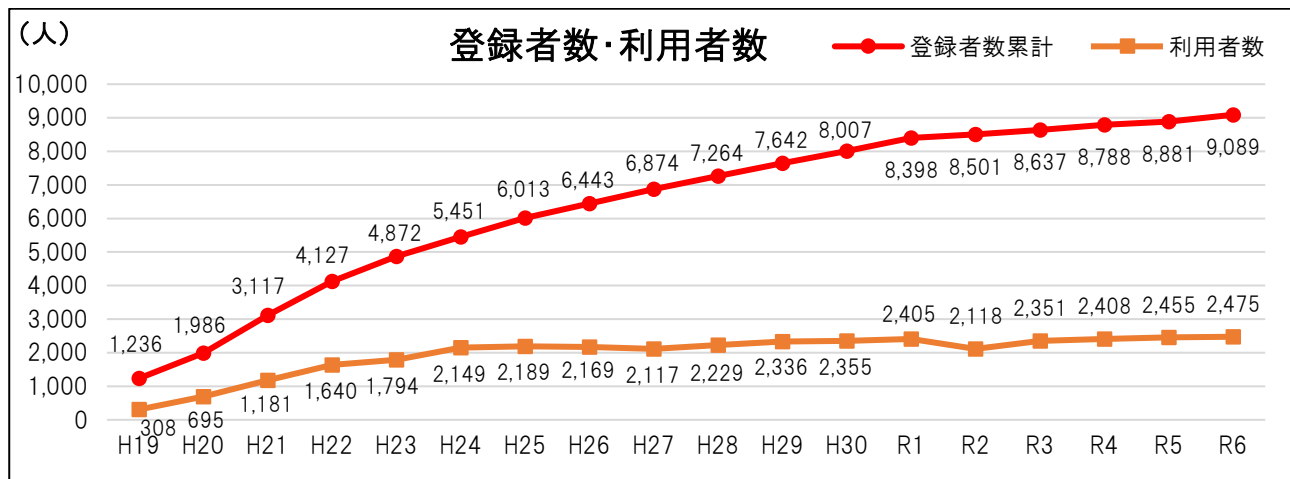
※2 R5.11から名鉄西部交通㈱で導入された時間外指定予約料金(300円)は、メーター運賃に含まない。

※3 R5.3.20から尾張・三河地区タクシー運賃が改定され、国土交通省より新運賃が公示された(増収率11.91%)。

※4 R6.4.1から迎車料金を利用者負担→市負担に変更。

2)登録者数・利用者数の推移

令和6年度末の登録者数は、9,089人で、前年度と比較して2.3%の増加、利用者数は2,475人で、0.8%の増加となり、登録者数は順調に伸び、利用者数は過去最高となった。令和元年10月から開始した立寄りは、1,153件となり、前年度と比較して329件増加した。



※利用者数：登録者の内、いこまいCARを利用した人数

登録者数・利用状況

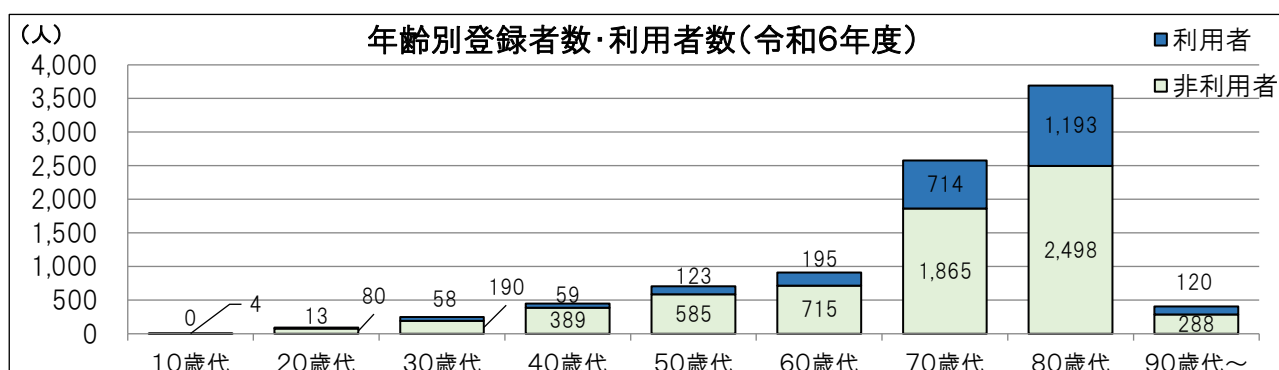
年度	登録者数 (人)		利用回数 (回:人) ※	便数 (便)	利用率 (人/便)	立寄り 件数 (件)	市負担額 (円)	1便当りの額(円)		
		内利用者数						利用 料金分	市 負担分	合計
H19	1,236	308	3,887	3,307	1.18		2,202,240	485	666	1,151
H20	1,986	695	17,351	13,446	1.29		9,552,140	534	710	1,244
H21	3,117	1,181	37,590	27,905	1.35		19,526,940	521	700	1,221
H22	4,127	1,640	51,348	40,199	1.28		28,103,170	517	699	1,216
H23	4,872	1,794	54,692	46,547	1.17		32,006,190	501	688	1,189
H24	5,451	2,149	63,550	53,404	1.19		36,908,650	501	691	1,192
H25	6,013	2,189	70,911	59,765	1.19		41,421,510	499	693	1,192
H26	6,443	2,169	67,932	57,285	1.19		32,088,610	651	560	1,211
H27	6,874	2,117	62,075	53,850	1.15		30,644,050	661	569	1,230
H28	7,264	2,229	63,900	54,536	1.17		32,002,680	682	587	1,269
H29	7,642	2,336	67,411	54,661	1.23		31,931,270	678	584	1,262
H30	8,007	2,355	66,971	54,375	1.23		32,060,200	684	584	1,274
R1	8,398	2,405	68,828	56,174	1.23	185	32,917,200	680	586	1,266
R2	8,501	2,118	61,748	50,024	1.23	606	29,293,990	680	586	1,266
R3	8,637	2,351	66,276	54,514	1.22	730	31,940,690	681	586	1,267
R4	8,788	2,408	65,134	54,086	1.20	819	32,366,510	695	598	1,293
R5	8,881	2,455	60,791	52,105	1.17	824	34,670,810	820	665	1,485
R6	9,089	2,475	65,346	56,449	1.16	1,153	47,335,140	757	839	1,596

※利用回数(回:人):いこまい CAR に乗車した人の数(相乗りした者も含む)

2. いこまいCAR (予約便) 利用状況 (令和6年度)

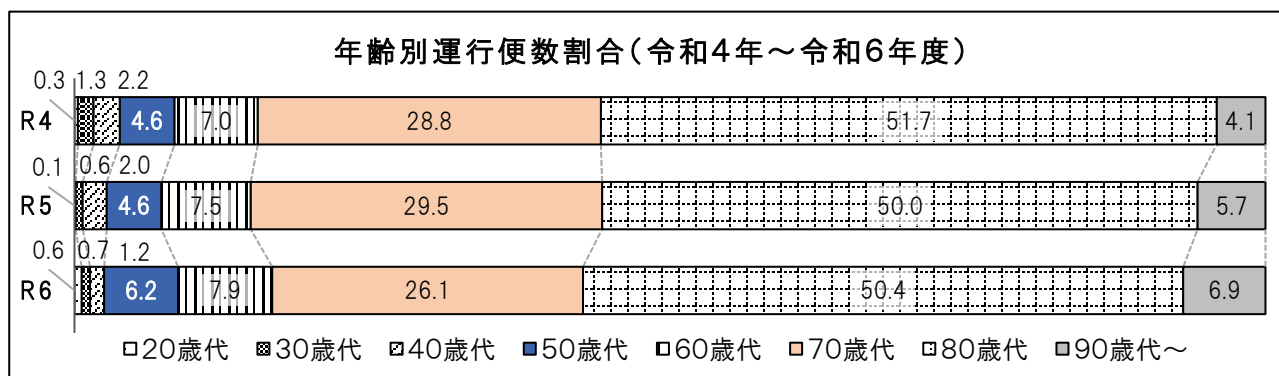
1) 年齢別登録者数・利用者数

令和6年度末の登録者数は9,089名、うち70歳代が28.4%、80歳代が40.6%と突出して高くなっており、登録者全体の約7割が70歳以上の高齢者となっている。



2) 年齢別運行便数割合

令和6年度は、70歳代26.1%、80歳代が50.4%と利用の大半を占めており、70歳代以上の利用割合が約83%を占めている。90歳代以上は前年度と比較して1.2%増加した。



年齢別登録者数・利用者数累計（令和7年3月31日現在）

年代	登録者数（人）	利用者数	登録者数割合（％）	人口（人）	人口に対する登録者割合（％）
10歳代	4	0	0.0	3,831	0.1
20歳代	93	13	14.0	9,598	1.0
30歳代	248	58	23.4	10,065	2.5
40歳代	448	59	13.2	12,587	3.6
50歳代	708	123	17.4	15,866	4.5
60歳代	910	195	21.4	11,333	8.0
70歳代	2,579	714	27.7	12,214	21.1
80歳代	3,691	1,193	32.3	8,565	43.1
90歳代～	408	120	29.4	1,618	25.2
計	9,089	2,475	27.2	85,677	10.6

令和7年3月31日現在の人口…97,928人

15歳以下は登録不可であるため10歳代には10～15歳は含まない

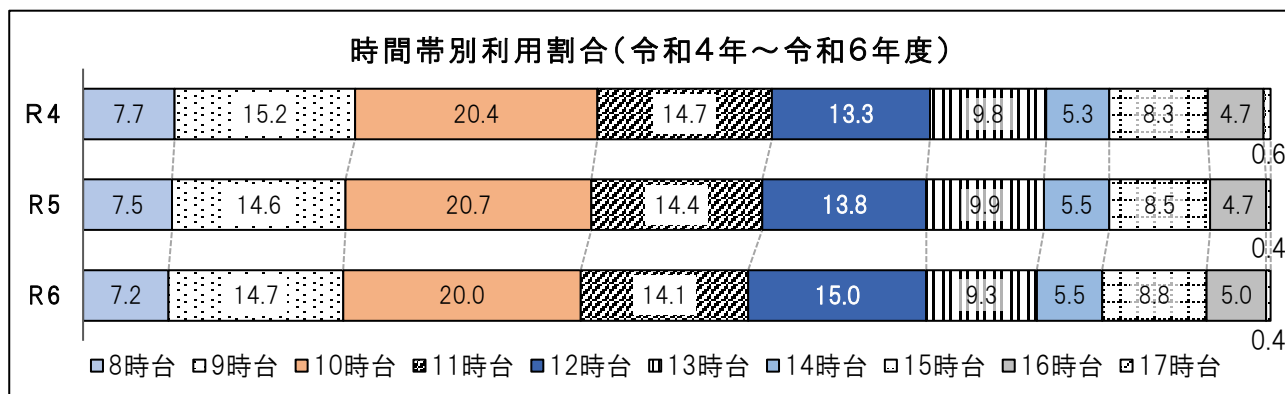
15歳以下の人口…12,251人

年齢別運行便数

年齢	R4 割合（％）	R5 割合（％）	R6 便数（便）	R6 割合（％）
10歳代	0.0	0.0	0	0.0
20歳代	0.3	0.1	334	0.6
30歳代	1.3	0.6	412	0.7
40歳代	2.2	2.0	6,859	1.2
50歳代	4.6	4.6	3,475	6.2
60歳代	7.0	7.5	4,465	7.9
70歳代	28.8	29.5	14,715	26.1
80歳代	51.7	50.0	28,482	50.4
90歳代～	4.1	5.7	3,881	6.9
計	100.0	100.0	56,449	100.0
～64歳	11.3	11.0	6,637	11.8
65～84歳	62.6	63.6	34,680	61.4
85歳～	26.1	25.4	15,132	26.8
計	100.0	100.0	56,449	100.0

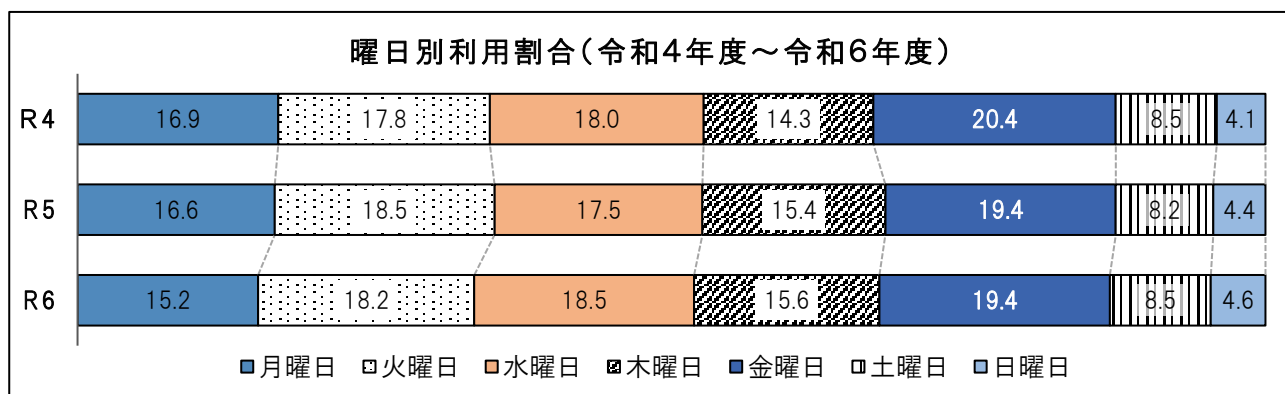
3)時間帯別利用割合

朝8時台から徐々に高くなり、10時台でピークを迎え、その後は減少する傾向にあるが、12時台及び15時台に利用者が増加する。令和6年度は、8時台から12時台までの利用が合計で70%超となり、午前中の利用者が多い。この傾向について、直近3年間で大きな変化は見られない。



4)曜日別利用割合

月曜から金曜日の平日の利用がどの曜日にもほぼ同じ水準で高い。土曜・日曜日の休日の利用は低く、特に日曜日の利用が低い。



時間帯別利用状況

時間帯	R4	R5	R6	
	割合 (%)	割合 (%)	利用人数 (人)	割合 (%)
8時台	7.7	7.5	4,706	7.2
9時台	15.2	14.6	9,583	14.7
10時台	20.4	20.7	13,090	20.0
11時台	14.7	14.4	9,225	14.1
12時台	13.3	13.8	9,773	15.0
13時台	9.8	9.9	6,098	9.3
14時台	5.3	5.5	3,629	5.5
15時台	8.3	8.5	5,738	8.8
16時台	4.7	4.7	3,265	5.0
17時台	0.6	0.4	239	0.4
計	100.0	100.0	65,346	100.0

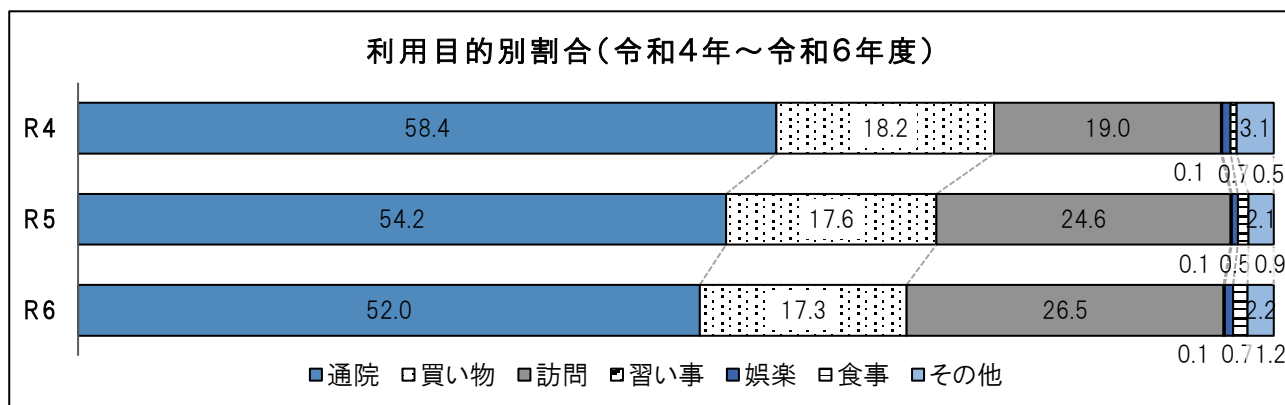
曜日別利用状況

曜日	R4	R5	R6	
	割合 (%)	割合 (%)	利用人数 (人)	割合 (%)
月曜日	16.9	16.6	9,904	15.2
火曜日	17.8	18.5	11,919	18.2
水曜日	18.0	17.5	12,125	18.5
木曜日	14.3	15.4	10,166	15.6
金曜日	20.4	19.4	12,695	19.4
土曜日	8.5	8.2	5,522	8.5
日曜日	4.1	4.4	3,015	4.6
計	100.0	100.0	65,346	100.0

5)利用目的別割合

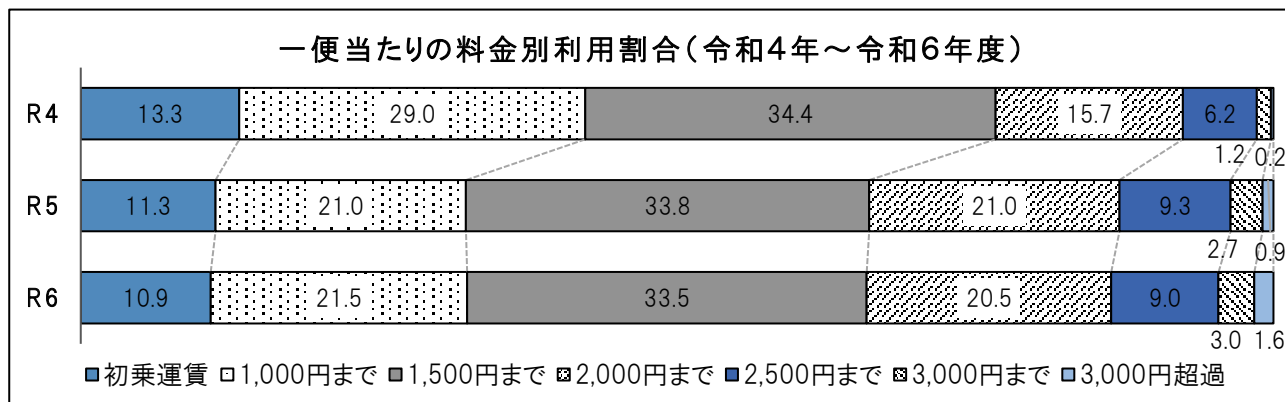
令和6年度は、通院が52.0%、買い物が17.3%、訪問が26.5%で、95.8%を占める。

半数以上が通院目的でいこまいCARを利用している傾向は変わらないが、令和6年度は通院目的が2.2%減少し、訪問目的が1.9%増加した。



6)一便当たりの料金別利用割合

令和6年度は、初乗運賃までの利用が10.9%、1,000円までの利用を含めると32.4%であり、86.4%が2,000円までの利用となっている。また、1,000円～1,500円までの区分の利用が最も高く、33.5%となっている。直近3年間で、2,000円を超える区分の利用者は増加傾向にある。



利用目的別利用状況

利用目的	R4	R5	R6	
	割合 (%)	割合 (%)	利用人数 (人)	割合 (%)
通院	58.4	54.2	34,003	52.0
買い物	18.2	17.6	11,299	17.3
訪問	19.0	24.6	17,349	26.5
習い事	0.1	0.1	24	0.1
娯楽	0.7	0.5	490	0.7
食事	0.5	0.9	753	1.2
その他	3.1	2.1	1,428	2.2
計	100.0	100.0	65,346	100.0

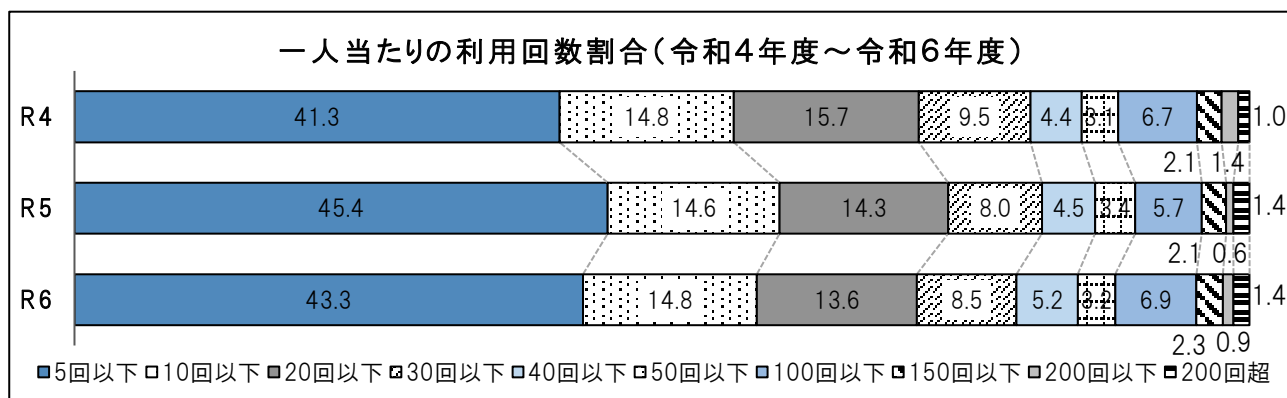
※その他：市役所、郵便局・銀行、法要、スポーツ、旅行等

料金別利用状況

メーター料金	R4	R5	R6		
	割合 (%)	割合 (%)	件数 (件)	割合 (%)	市負担額 (円)
初乗運賃	13.3	11.3	6,148	10.9	3,103,440
1,000円まで	29.0	21.0	12,156	21.5	7,246,090
1,500円まで	34.4	33.8	18,916	33.5	14,683,090
2,000円まで	15.7	21.0	11,549	20.5	11,732,610
2,500円まで	6.2	9.3	5,107	9.0	6,415,800
3,000円まで	1.2	2.7	1,696	3.0	2,541,730
3,000円超過	0.2	0.9	877	1.6	1,612,380
計	100.0	100.0	56,449	100.0	47,335,140

7)利用者一人当たりの利用回数割合

令和6年度は、5回以下の利用が43.3%、10回以下の利用を含めると58.1%で、半数以上が年間10回以下の利用となっている。また、40回以下の利用が0.7%増加し、5回以下の利用者が2.1%減少した。

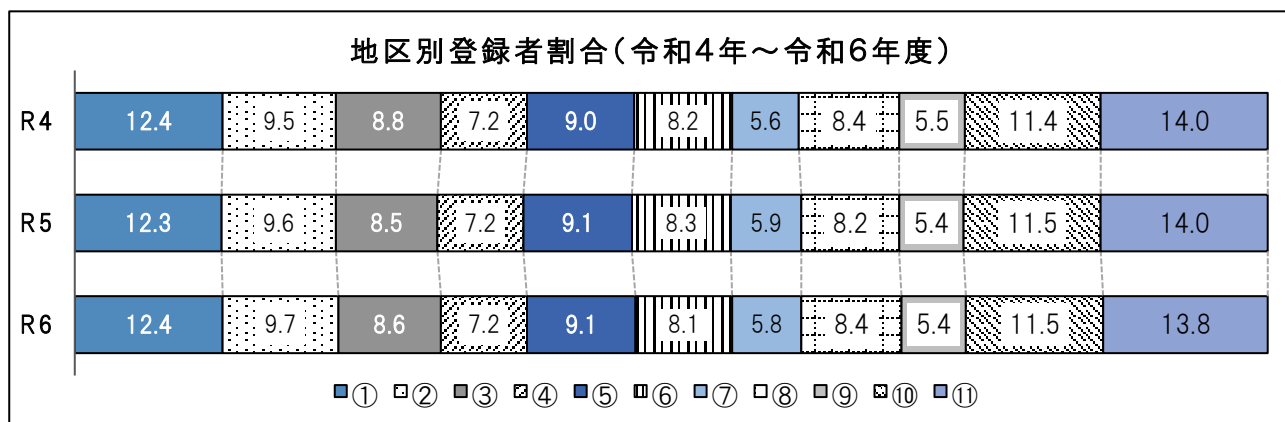


利用者一人当たりの利用回数

回数	R4		R5		R6	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
5回以下	994	41.3	1,114	45.4	1,071	43.3
10回以下	357	14.8	359	14.6	366	14.8
20回以下	379	15.7	352	14.3	337	13.6
30回以下	229	9.5	196	8.0	210	8.5
40回以下	105	4.4	111	4.5	129	5.2
50回以下	75	3.1	84	3.4	79	3.2
100回以下	161	6.7	139	5.7	171	6.9
150回以下	51	2.1	51	2.1	56	2.3
200回以下	34	1.4	15	0.6	22	0.9
200回超	23	1.0	34	1.4	34	1.4
計	2,408	100.0	2,455	100.0	2,475	100.0

8)地区別登録者割合

令和6年度は、⑪宮田・後飛保・前飛保・松竹・河野地区が13.8%と最も高く、次いで①古知野・赤童子・大間地区が12.4%となっているが、人口に対する登録者割合をみると、⑩村久野・宮田神明・藤ヶ丘地区が11.3%と最も高くなっている。

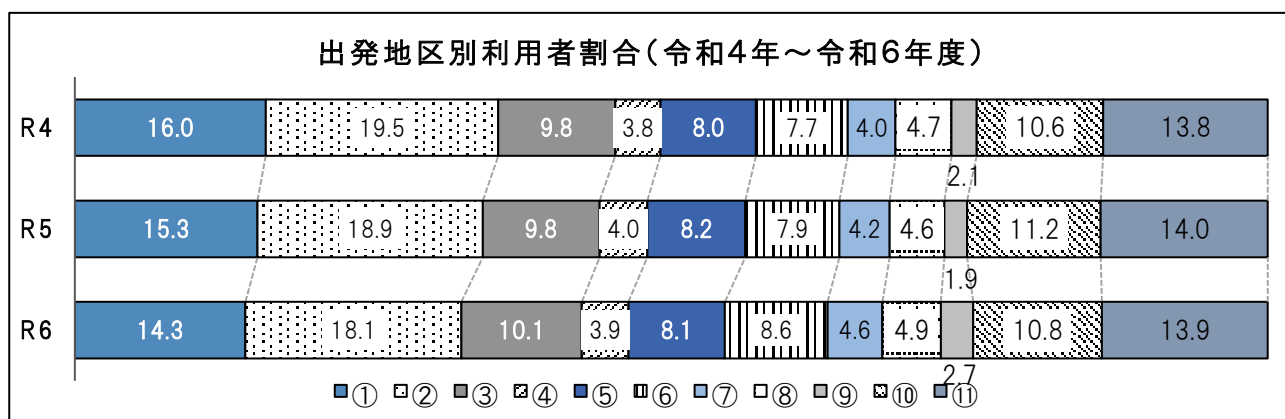


地区別登録者数

No.	地 区	R4 登録者 割合 (%)	R5 登録者 割合 (%)	R6				人口 (人)	人口に対する 登録者割合 (%)
				登録者数 (人)	割合 (%)	利用者数 (人)	割合 (%)		
①	古知野・赤童子・大間	12.4	12.3	1,126	12.4	9,796	15.0	14,124	8.0
②	高屋・野白・飛高	9.5	9.6	883	9.7	4,604	7.1	12,814	6.9
③	北野・尾崎・石枕・宮後・山王・前野	8.8	8.5	779	8.6	6,871	10.5	8,322	9.4
④	般若・中般若・和田・勝佐・山尻・江森	7.2	7.2	657	7.2	2,851	4.4	7,943	8.3
⑤	上奈良・東野・島宮	9.0	9.1	826	9.1	5,059	7.7	7,927	10.4
⑥	布袋・布袋下山・木賀・木賀本郷・中奈良・五明・小郷	8.2	8.3	739	8.1	5,872	9.0	9,055	8.2
⑦	天王・北山・南山・小折・小折本・小折東・田代・曾本	5.6	5.9	529	5.8	3,887	6.0	4,957	10.7
⑧	力長・今市場・安良・寄木・大海道・木賀東	8.4	8.2	763	8.4	5,502	8.4	7,088	10.8
⑨	草井・鹿子島・小杣・小脇・慈光堂	5.5	5.4	488	5.4	2,955	4.5	5,025	9.7
⑩	村久野・宮田神明・藤ヶ丘	11.4	11.5	1,043	11.5	9,890	15.1	9,232	11.3
⑪	宮田・後飛保・前飛保・松竹・河野	14.0	14.0	1,256	13.8	8,059	12.3	11,441	11.0
計		100.0	100.0	9,089	100.0	65,346	100.0	97,928	9.3

9)出発地区別利用者割合

令和6年度は、②高屋・野白・飛高地区が18.1%と最も高く、次いで、①古知野・赤童子・大間地区が14.3%となっている。①古知野・赤童子・大間地区には、江南駅や病院、商業施設などの都市機能増進施設が多数存在し、②高屋・野白・飛高地区には、江南厚生病院が近くに立地することから、利用者が多い状況と推測できる。

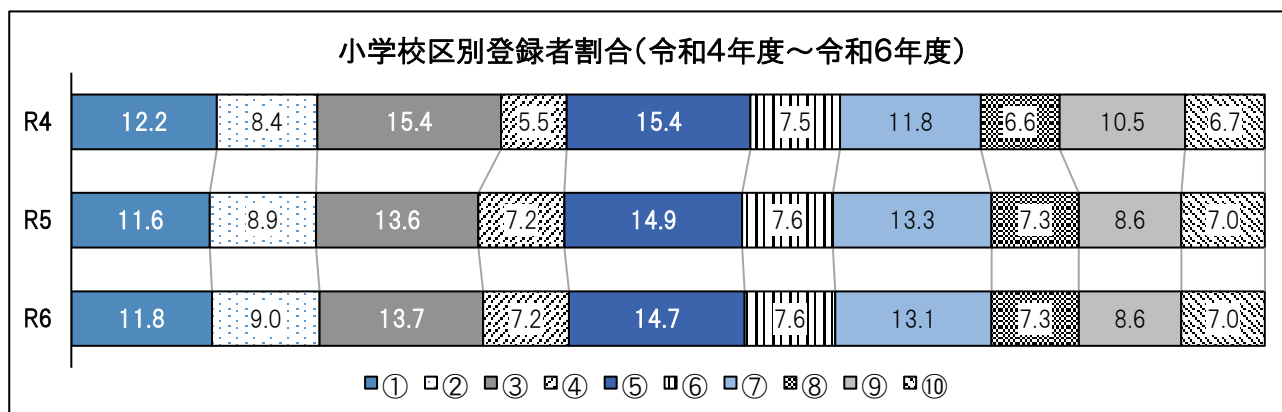


出発地区別利用者数

No.	地 区	R4	R5	R6			
		利用者 割合 (%)	利用者 割合 (%)	利用者 数(人)	割合 (%)	運行数 (便)	利用率 (人/便)
①	古知野・赤童子・大間	16.0	15.3	9,353	14.3	8,092	1.16
②	高屋・野白・飛高	19.5	18.9	11,825	18.1	9,596	1.23
③	北野・尾崎・石枕・宮後・山王・前野	9.8	9.8	6,597	10.1	5,947	1.11
④	般若・中般若・和田・勝佐・山尻・江森	3.8	4.0	2,573	3.9	2,213	1.16
⑤	上奈良・東野・島宮	8.0	8.2	5,257	8.1	4,771	1.10
⑥	布袋・布袋下山・木賀・木賀本郷・中奈良・五明・小郷	7.7	7.9	5,623	8.6	5,200	1.08
⑦	天王・北山・南山・小折・小折本・小折東・田代・曾本	4.0	4.2	3,012	4.6	2,812	1.07
⑧	力長・今市場・安良・寄木・大海道・木賀東	4.7	4.6	3,228	4.9	2,966	1.09
⑨	草井・鹿子島・小杣・小脇・慈光堂	2.1	1.9	1,749	2.7	1,476	1.18
⑩	村久野・宮田神明・藤ヶ丘	10.6	11.2	7,069	10.8	5,952	1.19
⑪	宮田・後飛保・前飛保・松竹・河野	13.8	14.0	9,060	13.9	7,424	1.22
計		100.0	100.0	65,346	100.0	56,449	1.16

10)小学校区別登録者割合

令和6年度は、⑤布袋小学校区が14.7%と最も高く、次いで③古知野南小学校区が13.7%となっているが、人口に対する登録者割合をみると、⑨藤里小学校区が13.3%と最も高く、次いで⑦宮田小学校区が11.1%となっている。



小学校区別登録者数

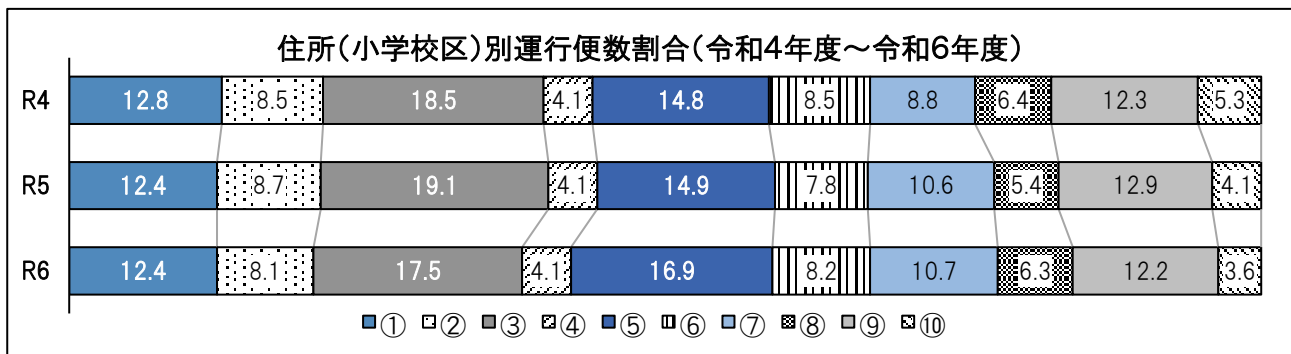
No.	地 区	R4	R5	R6						
		登録者 割合 (%)	登録者 割合 (%)	登録者数 (人)	割合 (%)	利用者数 (人)	割合 (%)	市負担額 (円)	人口 (人)	人口に対する 登録者割合 (%)
①	古知野東小学校	12.2	11.6	1,074	11.8	295	11.9	5,174,240	13,905	7.7
②	古知野西小学校	8.4	8.9	815	9.0	223	9.0	3,803,680	7,760	10.5
③	古知野南小学校	15.4	13.6	1,243	13.7	345	14.0	8,215,550	15,399	8.1
④	古知野北小学校	5.5	7.2	656	7.2	151	6.1	1,802,470	8,230	8.0
⑤	布袋小学校	15.4	14.9	1,335	14.7	374	15.1	9,059,070	14,616	9.1
⑥	布袋北小学校	7.5	7.6	696	7.6	189	7.6	4,259,540	6,487	10.7
⑦	宮田小学校	11.8	13.3	1,192	13.1	347	14.0	5,139,770	10,752	11.1
⑧	草井小学校	6.6	7.3	659	7.3	141	5.7	2,860,180	7,302	9.0
⑨	藤里小学校	10.5	8.6	780	8.6	268	10.8	5,541,600	5,884	13.3
⑩	門弟山小学校	6.7	7.0	639	7.0	142	5.8	1,479,040	7,593	8.4
計		100.0	100.0	9,089	100.0	2,475	100.0	47,335,140	97,928	9.3

11)住所(小学校区)別運行便数割合

令和6年度は、③古知野南小学校区が17.5%と最も高く、次いで、⑤布袋小学校区が16.9%となっている。令和5年度から令和6年度にかけて、③古知野南小学校区が1.6%減少し、⑤布袋小学校区が2.0%増加している。

住所(小学校区)別運行便数

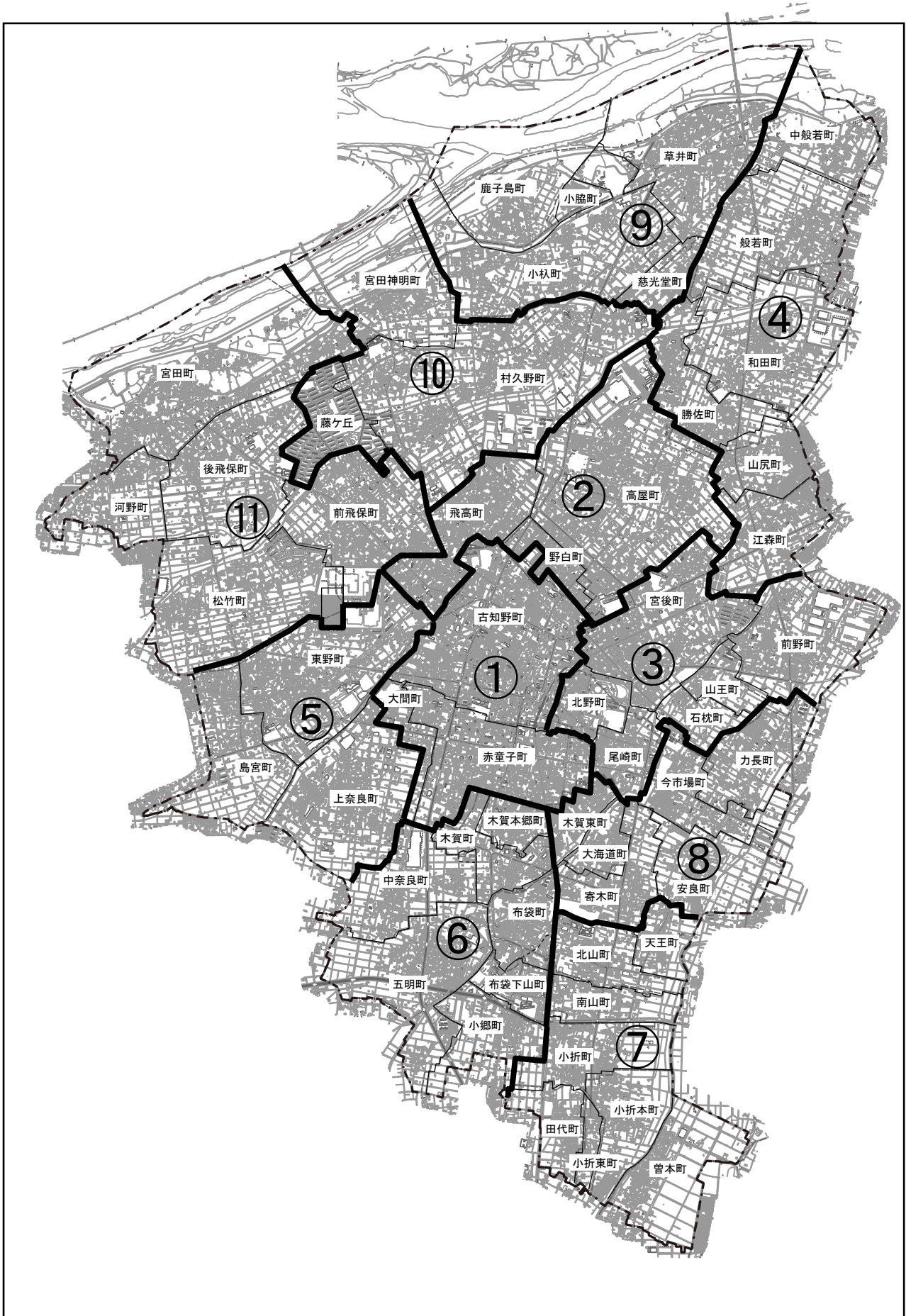
No.	地 区	R4	R5	R6						市負担額 (円)
		便数 割合 (%)	便数 割合 (%)	利用人 数(人)	運行数 (便)	割合 (%)	利用率 (人/便)	人口 (人)	1人当りの 利用回数 (回/人)	
①	古知野東小学校	12.8	12.4	8,120	6,977	12.4	1.16	13,905	0.58	5,174,240
②	古知野西小学校	8.5	8.7	5,122	4,558	8.1	1.12	7,760	0.66	3,803,680
③	古知野南小学校	18.5	19.1	11,249	9,908	17.5	1.14	15,399	0.73	8,215,550
④	古知野北小学校	4.1	4.1	2,870	2,308	4.1	1.24	8,230	0.35	1,802,470
⑤	布袋小学校	14.8	14.9	10,139	9,564	16.9	1.06	14,616	0.69	9,059,070
⑥	布袋北小学校	8.5	7.8	5,110	4,621	8.2	1.11	6,487	0.79	4,259,540
⑦	宮田小学校	8.8	10.6	7,630	6,026	10.7	1.27	10,752	0.71	5,139,770
⑧	草井小学校	6.4	5.4	4,204	3,546	6.3	1.19	7,302	0.58	2,860,180
⑨	藤里小学校	12.3	12.9	8,314	6,898	12.2	1.21	5,884	1.41	5,541,600
⑩	門弟山小学校	5.3	4.1	2,588	2,043	3.6	1.27	7,593	0.34	1,479,040
計		100.0	100.0	65,346	56,449	100.0		97,928		47,335,140



参考:小学校の通学区域

No.	学校名	通学区域
①	古知野東小学校	前野町、宮後町、山王町、石枕町、高屋町(清水の一部、大松原の一部を除く)、野白町
②	古知野西小学校	上奈良町(錦の一部を除く)、東野町(岩見を除く)、島宮町
③	古知野南小学校	赤童子町、大間町、北野町、尾崎町、古知野町(花霞、高瀬、宮裏の一部を除く)、上奈良町錦の一部
④	古知野北小学校	中般若町、般若町、勝佐町、和田町、山尻町、江森町、高屋町大松原の一部
⑤	布袋小学校	布袋町、布袋下山町、小郷町、小折町、田代町、天王町、北山町、南山町、小折本町、小折東町、曾本町、五明町、中奈良町、木賀町、木賀本郷町、寄木町の一部(天道、白山の一部、秋葉の一部、稲木の一部を除く)
⑥	布袋北小学校	力長町、今市場町、安良町、大海道町、木賀東町、寄木町の一部(天道、白山の一部、秋葉の一部、稲木の一部)
⑦	宮田小学校	後飛保町、河野町、松竹町、宮田町、前飛保町、(緑ヶ丘、藤町を除く)、東野町の一部(岩見)
⑧	草井小学校	鹿子島町、小杵町、慈光堂町、小脇町、草井町、村久野町の一部(河戸、藤里、宮出、大門、門弟山、富士塚、南大門、鳥附、鈴道を除く)
⑨	藤里小学校	藤ヶ丘、宮田神明町、村久野町の一部(河戸、藤里、宮出、大門)
⑩	門弟山小学校	飛高町、古知野町の一部(花霞、高瀬、宮裏の一部)、高屋町の一部(清水の一部)、前飛保町の一部(緑ヶ丘、藤町)、村久野町の一部(門弟山、富士塚、南大門、鳥附、鈴道)

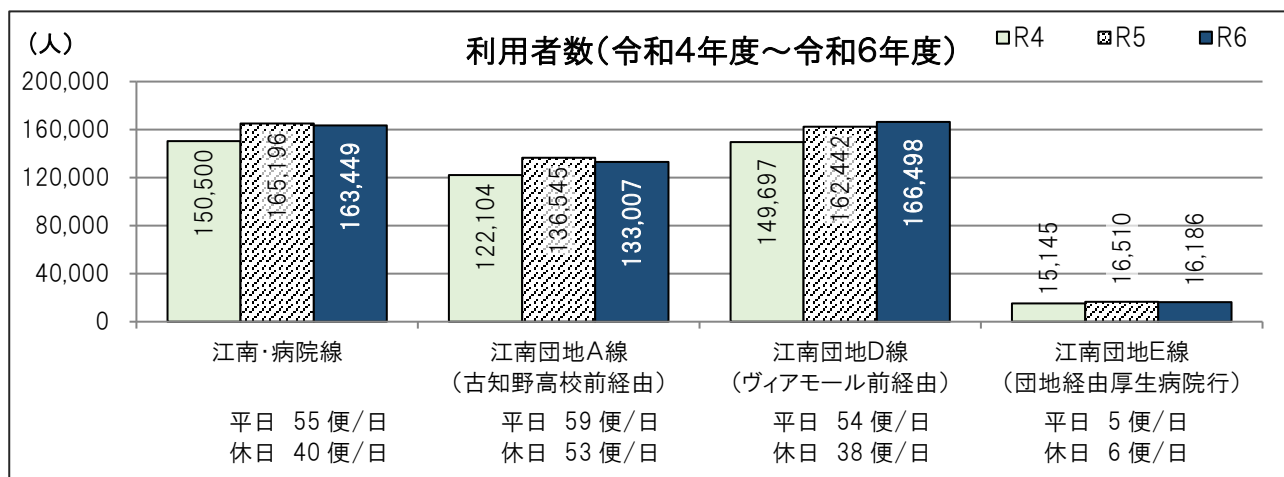
参考:いこまいCAR地区別位置図 ((10)、(11)は小学校区ごとの区分のため地図とは異なる)



3. 名鉄バス（補助路線）利用状況

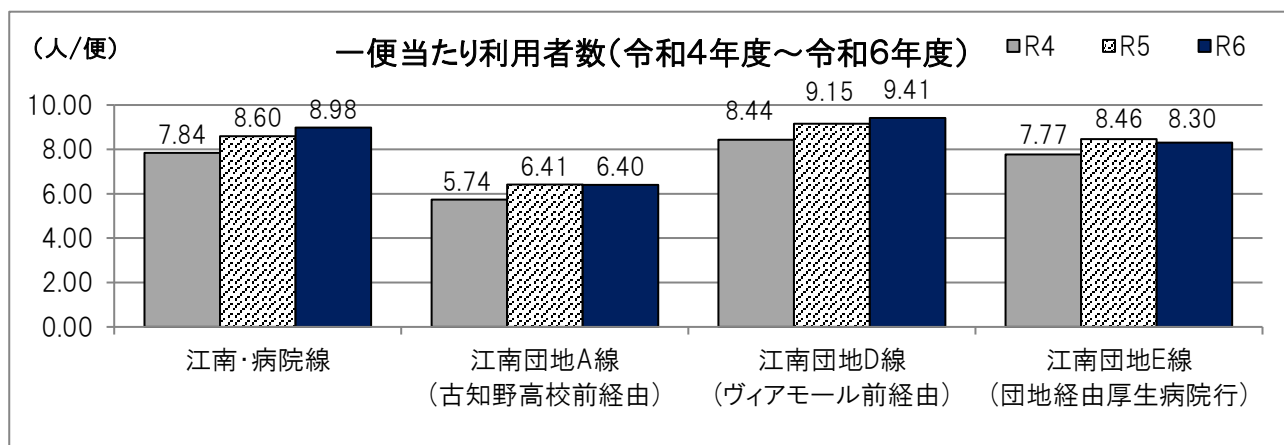
1) 利用者数(路線別)

令和6年度は、江南・病院線で163,449人、江南団地A線で133,007人、江南団地D線で166,498人、江南団地E線で16,186人の利用があり、それぞれ前年度と比較して、江南・病院線で1,747人減少、江南団地A線で3,538人減少、江南団地D線で4,056人増加、江南団地E線で324人減少している。



2) 一便当たり利用者数(路線別)

令和6年度は江南・病院線で8.98人/便、江南団地A線で6.40人/便、江南団地D線で9.41人/便、江南団地E線で8.30人/便の利用があり、それぞれ前年度と比較して、江南・病院線で0.38人/便増加、江南団地A線で0.01人/便減少、江南団地D線で0.26人/便増加、江南団地E線で0.16人/便減少している。



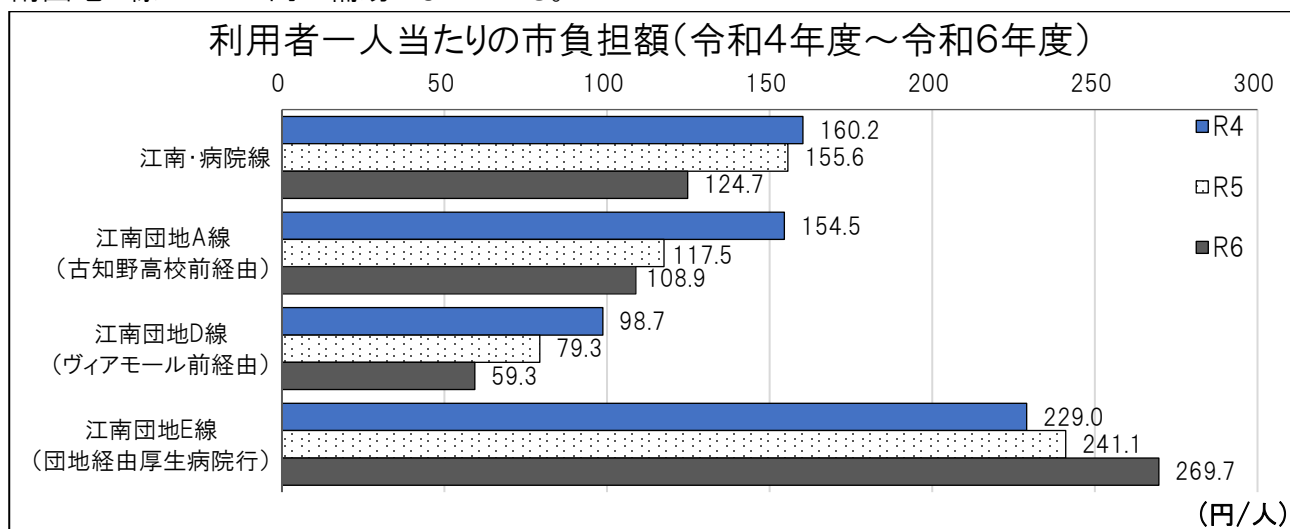
※日当たりの便数は、路線内の片道最大便数

利用者数・利用状況(路線・年度別 4月～3月)

区分	R4			R5			R6		
	利用者 (人)	便数 (便)	利用率 (人/便)	利用者 (人)	便数 (便)	利用率 (人/便)	利用者 (人)	便数 (便)	利用率 (人/便)
江南・病院線	150,500	19,193	7.84	165,196	19,202	8.60	163,449	18,200	8.98
江南団地A線(古知野高校前経由)	122,104	21,278	5.74	136,545	21,307	6.41	133,007	20,783	6.40
江南団地D線(ヴィアモール前経由)	149,697	17,739	8.44	162,442	17,750	9.15	166,498	17,700	9.41
江南団地E線(団地経由厚生病院行)	15,145	1,948	7.77	16,510	1,952	8.46	16,186	1,950	8.30
計	437,446	60,158	7.27	480,693	60,211	7.98	479,140	58,633	8.17

3)利用者一人当たりの市負担額(路線別補助額)

令和6年度は、江南・病院線で124.7円、江南団地A線で108.9円、江南団地D線で59.3円、江南団地E線で269.7円の補助となっている。



利用者一人当たりの市負担額(補助年度別補助額 補助期間:10月～9月)

区分	R4			R5			R6		
	利用者数 (人)	補助額 (円)	一人当りの補助額 (円/人)	利用者数 (人)	補助額 (円)	一人当りの補助額 (円/人)	利用者数 (人)	補助額 (円)	一人当りの補助額 (円/人)
江南・病院線	144,582	23,168,000	160.2	158,573	24,677,000	155.6	164,921	20,569,000	124.7
江南団地A線 (古知野高校前経由)	118,774	18,352,000	154.5	131,452	15,448,000	117.5	135,744	14,778,000	108.9
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	150,738	14,876,000	98.7	157,926	12,521,000	79.3	165,920	9,840,000	59.3
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	16,037	3,673,000	229.0	16,170	3,898,000	241.1	16,572	4,469,000	269.7
計	430,131	60,069,000	139.7	464,121	56,544,000	121.8	483,157	49,656,000	102.8

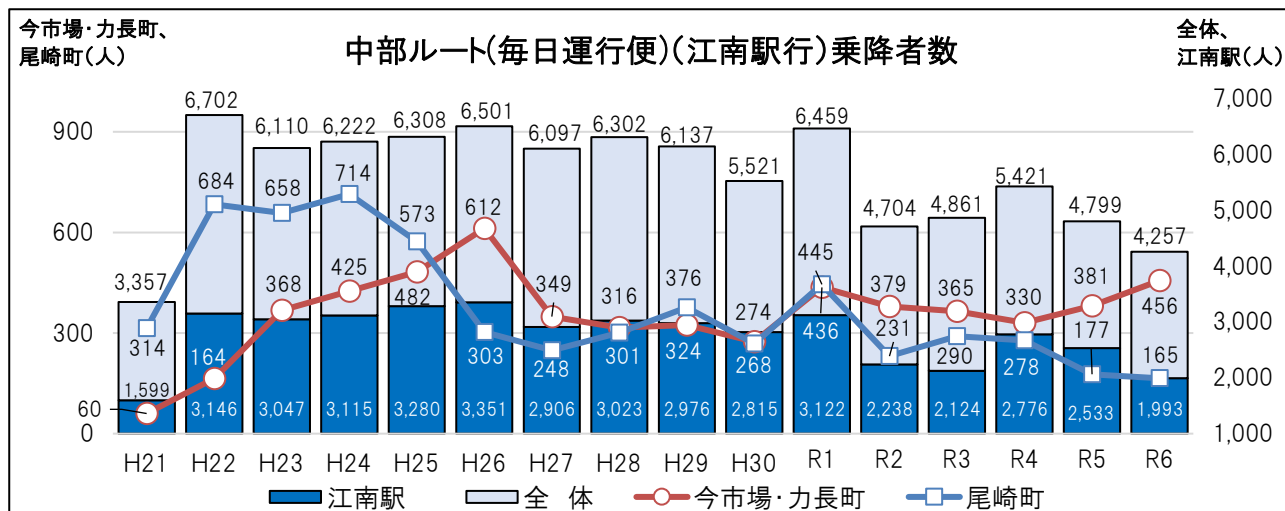
*令和4年度の補助額および一人あたりの補助額について、補助金額の誤算定による返還金の変更を反映した数値になります。

4. 大口町コミュニティバス利用状況

1) 中部ルート(毎日運行便) (江南駅行)

令和6年度は、市内停留所の乗降者数が2,614人で、前年度と比較して、477人減少している。

今市場・力長町の乗降者数は75人増加、尾崎町の乗降者数は12人減少、江南駅の乗降者数は540人減少している。



乗降者数合計 中部ルート(毎日運行便) 江南駅行

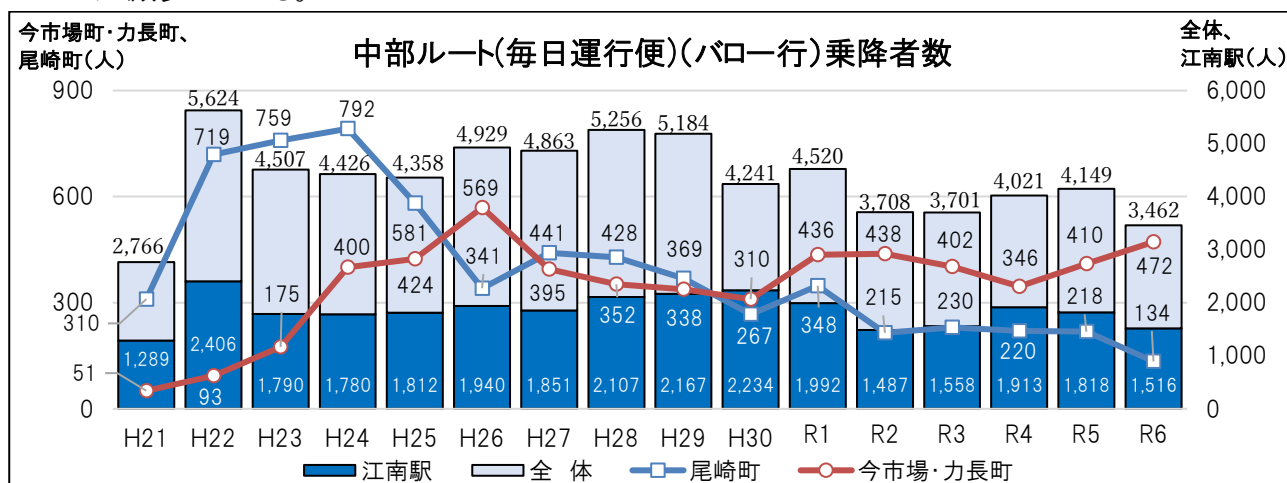
(単位:人)

停留所	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
今市場・力長町	60	164	368	425	482	612	349	316	324	274	436	379	365	330	381	456
尾崎町	314	684	658	714	573	303	248	301	376	268	445	231	290	278	177	165
江南駅	1,599	3,146	3,047	3,115	3,280	3,351	2,906	3,023	2,976	2,815	3,122	2,238	2,124	2,776	2,533	1,993
計	1,973	3,994	4,073	4,254	4,335	4,266	3,503	3,640	3,676	3,357	4,003	2,848	2,779	3,384	3,091	2,614
全 体	3,357	6,702	6,110	6,222	6,308	6,501	6,097	6,302	6,137	5,521	6,459	4,704	4,861	5,421	4,799	4,257
全 体-江南駅	1,758	3,556	3,063	3,107	3,028	3,150	3,191	3,279	3,161	2,706	3,337	2,466	2,737	2,645	2,266	2,264

2) 中部ルート(毎日運行便) (パロー行)

令和6年度は、市内停留所の乗降者数が2,122人で、前年度と比較して、324人減少している。

今市場・力長町の乗降者数は62人増加、尾崎町の乗降者数は84人減少、江南駅の乗降者数は302人減少している。



乗降者数合計 中部ルート(毎日運行便) パロー行

(単位:人)

停留所	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
江南駅	1,289	2,406	1,790	1,780	1,812	1,940	1,851	2,107	2,167	2,234	1,992	1,487	1,558	1,913	1,818	1,516
尾崎町	310	719	759	792	581	341	441	428	369	267	348	215	230	220	218	134
今市場・力長町	51	93	175	400	424	569	395	352	338	310	436	438	402	346	410	472
計	1,650	3,218	2,724	2,972	2,817	2,850	2,687	2,887	2,874	2,811	2,776	2,140	2,190	2,479	2,446	2,122
全 体	2,766	5,624	4,507	4,426	4,358	4,929	4,863	5,256	5,184	4,241	4,520	3,708	3,701	4,021	4,149	3,462
全 体-江南駅	1,477	3,218	2,717	2,646	2,546	2,989	3,012	3,149	3,017	2,007	2,528	2,221	2,143	2,108	2,331	1,946

3)中部ルート(平日朝・夕運行便) (江南駅行)

中部ルート(平日朝・夕運行便)について、令和2年4月に若宮八幡社前停留所を新設した。若宮八幡社前を経由する江南駅行は朝便のみであり、若宮八幡社前の乗車人数は 215 人、降車人数は 0 人となっている。

乗降者数合計 中部ルート(平日朝・夕運行便) 江南駅行 ※R2.4~若宮八幡社前停留所新設

(単位:人)

停留所	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
若宮八幡社前	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	6	17	34	215
江南駅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	284	253	114	117	347
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	293	259	131	151	562

4)中部ルート(平日朝・夕運行便) (さくら総合病院前行)

中部ルート(平日朝・夕運行便)について、令和2年4月に若宮八幡社前停留所を新設した。江南駅発で若宮八幡社前を経由する便は夕便のみであり、若宮八幡社前の乗車人数は 0 人、降車人数は 8 人となっている。

乗降者数合計 中部ルート(平日朝・夕運行便) さくら総合病院前行 ※R2.4~若宮八幡社前停留所新設

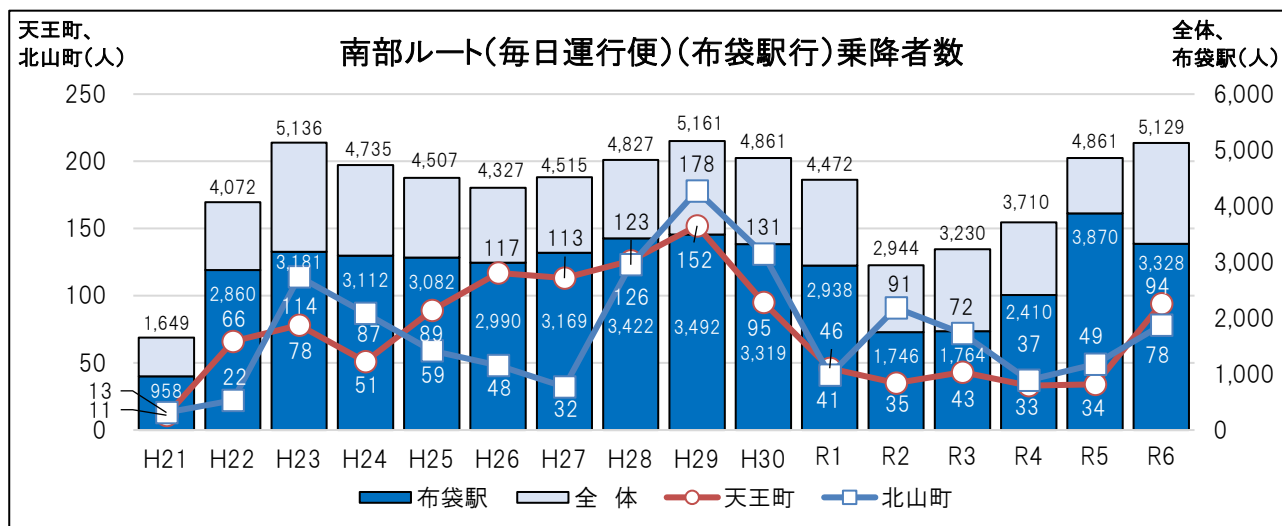
(単位:人)

停留所	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
江南駅	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	77	90	66	64	74
若宮八幡社前	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	10	5	4	8
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	89	100	71	68	82

5)南部ルート(毎日運行便) (布袋駅行)

令和6年度は、市内停留所の乗降者数が3,500人で、前年度と比較して、453人減少している。

布袋駅の乗降者数は542人減少、北山町の乗降者数は29人増加、天王町の乗降者数は60人増加している。



乗降者数合計 南部ルート(毎日運行便) 布袋駅行

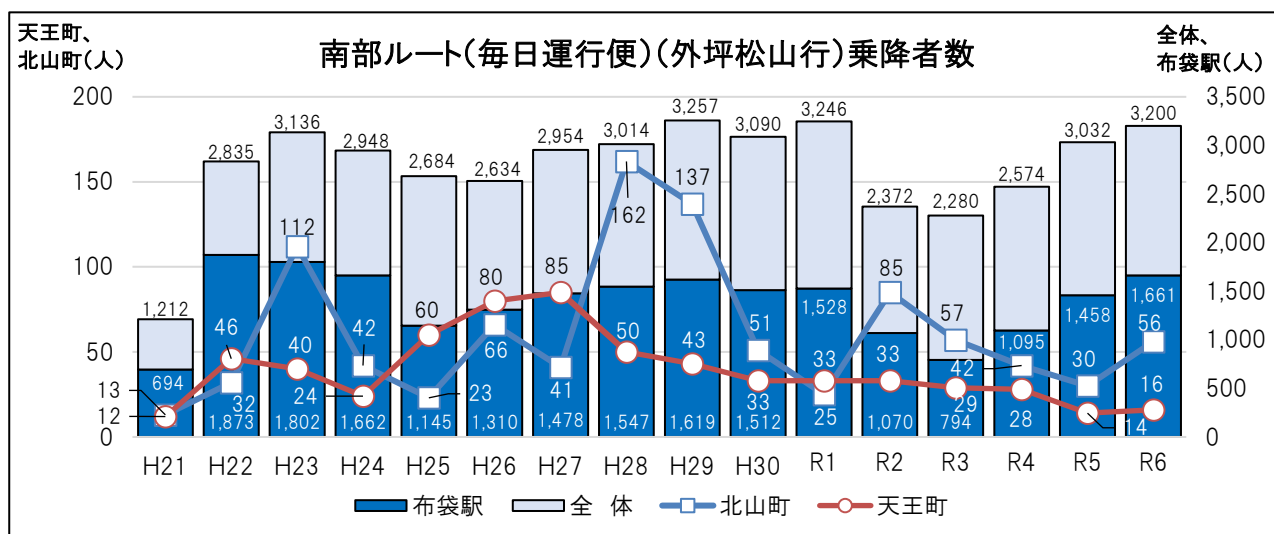
(単位:人)

停留所	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
天王町	11	66	78	51	89	117	113	126	152	95	46	35	43	33	34	94
北山町	13	22	114	87	59	48	32	123	178	131	41	91	72	37	49	78
布袋駅	958	2,860	3,181	3,112	3,082	2,990	3,169	3,422	3,492	3,319	2,938	1,746	1,764	2,410	3,870	3,328
計	982	2,948	3,373	3,250	3,230	3,155	3,314	3,671	3,822	3,545	3,025	1,872	1,879	2,480	3,953	3,500
全 体	1,649	4,072	5,136	4,735	4,507	4,327	4,515	4,827	5,161	4,861	4,472	2,944	3,230	3,710	4,861	5,129
全 体-布袋駅	691	1,212	1,955	1,623	1,425	1,337	1,346	1,405	1,669	1,542	1,534	1,198	1,466	1,300	991	1,801

6)南部ルート(毎日運行便) (外坪松山行)

令和6年度は、市内停留所の乗降者数が1,733人で、前年度と比較して、231人増加している。

布袋駅の乗降者数は203人増加、北山町の乗降者数は26人増加、天王町の乗降者数は2人増加している。



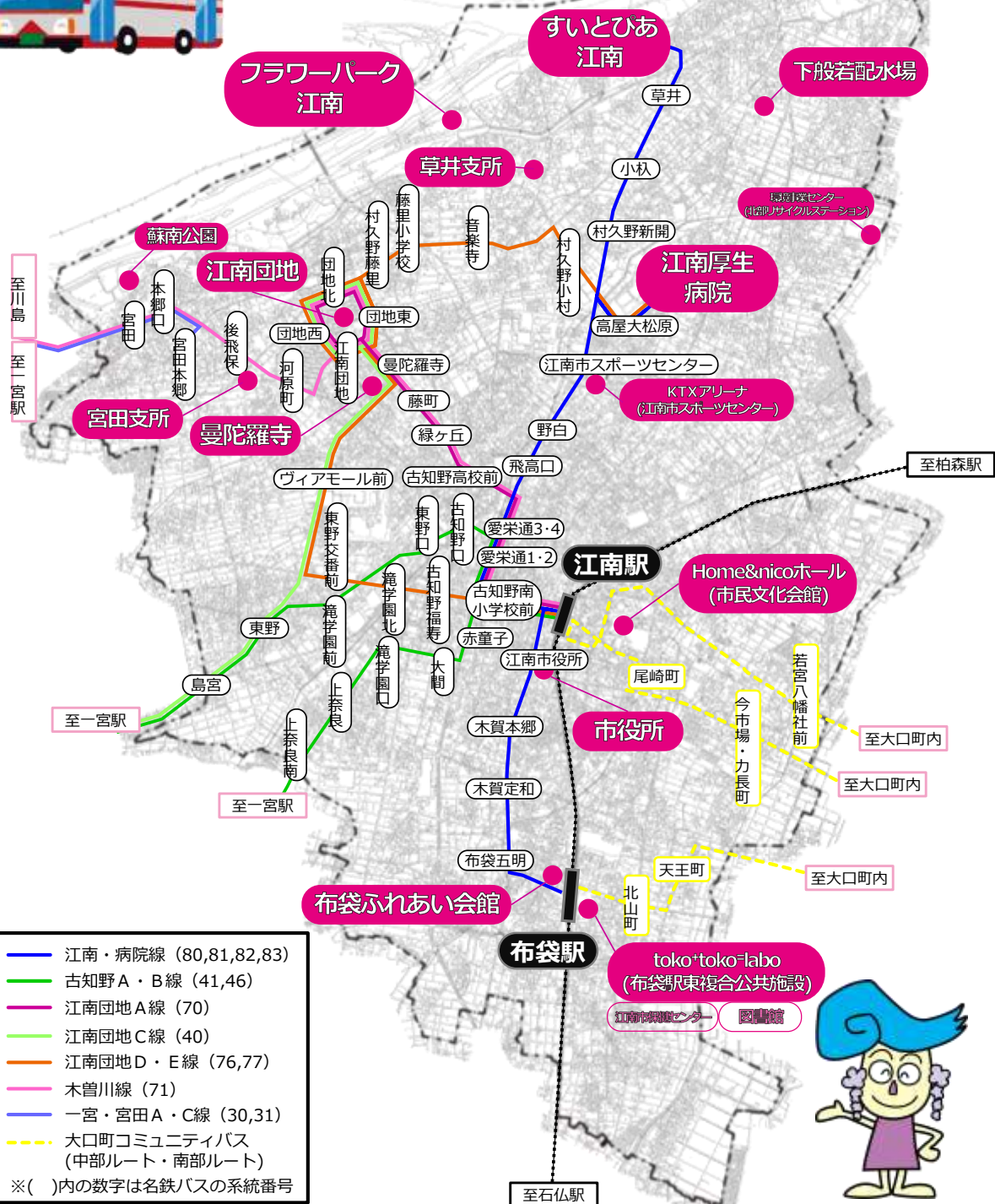
乗降者数合計 南部ルート(毎日運行便) 外坪松山行

(単位:人)

停留所	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
布袋駅	694	1,873	1,802	1,662	1,145	1,310	1,478	1,547	1,619	1,512	1,528	1,070	794	1,095	1,458	1,661
北山町	13	32	112	42	23	66	41	162	137	51	25	85	57	42	30	56
天王町	12	46	40	24	60	80	85	50	43	33	33	33	29	28	14	16
計	719	1,951	1,954	1,728	1,228	1,456	1,604	1,759	1,799	1,596	1,586	1,188	880	1,165	1,502	1,733
全体	1,212	2,835	3,136	2,948	2,684	2,634	2,954	3,014	3,257	3,090	3,246	2,372	2,280	2,574	3,032	3,200
全体-布袋駅	518	962	1,334	1,286	1,539	1,324	1,476	1,467	1,638	1,578	1,718	1,302	1,486	1,479	1,574	1,539

5. 江南市内のバス路線・停留所

江南市内のバス停・路線図



令和6年度

江南市地域公共交通
(いこまいCAR・バス)
の利用状況

令和7年6月

愛知県江南市
都市整備部都市計画課

江南市における地域公共交通の 基本的な考え方

令和7年4月

<目 次>

第1章	江南市における地域公共交通の実態	1
第1節	地域公共交通の実態	1
第2節	市民の意向（平成25年度アンケート調査結果）	5
第3節	江南市地域公共交通を語る会での市民意見	8
第4節	江南市地域公共交通基礎調査結果（平成28年度）にみる江南市の現状確認	9
第2章	江南市における地域公共交通の課題	10
第1節	既存の地域公共交通サービスについての課題（個別要請）	10
第2節	新たな交通サービスについての課題	11
第3節	財政負担（税金投入）についての課題	12
第4節	その他の課題	12
第3章	江南市における地域公共交通の基本的な考え方	13
第1節	まちづくりに取り組むための基本的な考え方	13
第2節	地域公共交通の基本的な考え方	15
第1節	対象とする区域	15
第2節	地域公共交通政策の考え方	15
第3節	地域公共交通のネットワークの目指す姿と各モードの役割	17
第4章	江南市における地域公共交通の課題対応	19
第1節	地域公共交通の課題対応	19
第1節	既存の地域公共交通サービスについての課題（個別要請）対応	19
第2節	新たな交通サービスについての課題対応	20
第3節	財政負担（税金投入）についての課題・その他の課題	20
第2節	関係者の役割分担	22
第5章	江南市における地域公共交通政策に関する評価について	23
第1節	地域公共交通政策の評価	23
第2節	事業評価	23
第3節	評価体制・評価方法・評価実施計画	24
第1節	評価体制	24
第2節	評価方法	24
第3節	評価実施計画	24
第6章	江南市における地域主体の新しい公共交通サービスの導入ルール	25
第1節	導入プロセス	25
第2節	事業評価	26
参考資料		28
1	検討経過	30
2	個別要請の検討内容	31
3	委員名簿	35

江南市の地域公共交通の実態（基礎調査結果）

1. 江南市の地域公共交通の実態

- 交通インフラのカバー状況
- ・駅から半径1km、バス停から半径500m圏域の人口カバー率は78.7%
 - ・いこまいCAR、福祉タクシー料金助成制度等により、市内全域の移動サービスあり。
- 交通インフラの維持の状況
- ・市が財政投入する公共交通の年間延べ利用者数：約62万人。
 - ・最近3年間の利用者推移は、ほぼ横ばい。いこまいCARの登録者数は増加。
 - ・財政投入は年間約6,000万円。・財政投入額は増加傾向。



2. 平成25年度市民アンケート調査結果

- 公共交通の満足度
- ・「バス」の満足度は、「わからない」が41%。「満足」が15%、「不満」が34%。
- 事業評価（税投入とサービス維持とのバランス）
- ・「今後の税金投入とサービス水準のあり方」は、「わからない」が35%、「税投入を抑制すべき」が21%、「現状は妥当」が15%、「税金投入拡大」が4%となっている。



3. 地域公共交通を語る会での市民意見

- (1) 名鉄バスに対する主な意見
- ・サービス拡充要望あり。赤字の大きい路線をやめてコミバスへの転換など。
- (2) いこまいCARに対する主な意見
- ・なくてほしくない。サービス拡充要望あり。2重投資問題、福祉タクシー料金助成制度との役割分担など制度について再検討すべき。
- (3) 高齢者・福祉タクシー助成制度に対する主な意見
- ・不適切な利用の制限を行うべき。登録条件の見直しなど。
- (4) 大口町コミュニティバスに対する主な意見
- ・便数が少ない。江南市、大口町、扶桑町で一緒に対応すべき。
- (5) 交通空白についての意見
- ・交通空白がないというのはおかしい。困っている地域がある。
 - ・交通不便地域の解消が大切。
- (6) 新たなサービスに対する意見
- ・新しいコミュニティバス・巡回バス・無料バス等の確保。
 - ・スクールバス、企業従業員送迎バス等の活用。
- (7) 駅前整備に対する意見
- ・駐輪場、駐車場の整備。駅周辺の交通規制。
- (8) 自転車利用についての意見
- ・自転車で気軽に走れる道路・歩道の整備。シェアサイクルの導入。
- (9) 税金投入についての意見
- ・拡大意見と抑制意見の両方あり。
- (10) その他の意見
- ・現状は充実、将来が不安という意見。もっと情報提供すべき。 など

江南市における地域公共交通の基本的な考え方

基礎調査結果にみる「現状確認」

1. 現時点で江南市の公共交通は課題はあるもののおおむね充足
- ・交通体系＝路線バス(名鉄・大口)+いこまいCAR
 - ・人口カバー率：約8割。移動制約者にもサービス提供できている。
2. 既存の公共交通に対する個別要請
- ・利用者アンケートや公共交通を語る会では様々な個別要請を確認。
 - ・個別要請を専門的に検討する体制を整えるべき。
3. 地域間の格差及び地域の機運
- ・地域間、地域内でも公共交通に対する考え方等に相違点がある。
 - ・地域としての公共交通に対する機運が高まっていない。

新しい総合計画の策定

「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進する。



地域公共交通の基本的な考え方

1. 地域公共交通政策の考え方

「住宅ゾーン」「商業ゾーン」をコンパクトエリアと想定

- ・コンパクトエリアと想定される区域については、鉄道や路線バスを中心に市民の足を確保する。
- ・コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持する。
- ・市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいCARを運行する。
- ・路線バス・いこまいCARで対応できない場合は、福祉施策である福祉タクシー料金助成制度(福祉タクシー)や通常のタクシーにより市民の移動を担う。
- ・地域主体の新しい公共交通サービスの導入については、ルールを定め、必要な支援を行う。

2. 地域公共交通の課題対応

課題		対応策
既存の地域公共交通サービスについての課題(個別要請)	1. 名鉄バス(路線バス)	名鉄バス(路線バス)の維持確保(江南・病院線、江南団地線)
	2. いこまいCAR	いこまいCARの維持確保
	3. 福祉タクシー料金助成制度	高齢者・福祉障害者福祉タクシー料金助成制度の継続
	4. 大口町コミュニティバス	大口町コミュニティバス(大口町)の運行協力
新たな交通サービスについての課題	1. 不便地域・新たなサービス	地域主体の新しい公共交通サービスの支援
	2. 駅前整備	総合計画に基づく戦略プロジェクトの実施
	3. 自転車利用	都市計画マスタープラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく事業の実施
財政負担・その他の課題	1. 財政負担・評価体制の確保	江南市地域公共交通会議による評価実施
	2. 情報発信体制の確保	地域公共交通の利用促進

3. 地域公共交通政策に関する評価

政策評価		○市民一人当たりの公共交通利用回数
事業評価	路線バスの維持確保	○利用者一人当たりの市負担額の推移(路線別評価)
	いこまいCARの維持確保	○江南市の市負担額の推移

4. 地域主体の新しい公共交通サービスの導入ルールの設定

導入ルールの設定、事業評価の導入

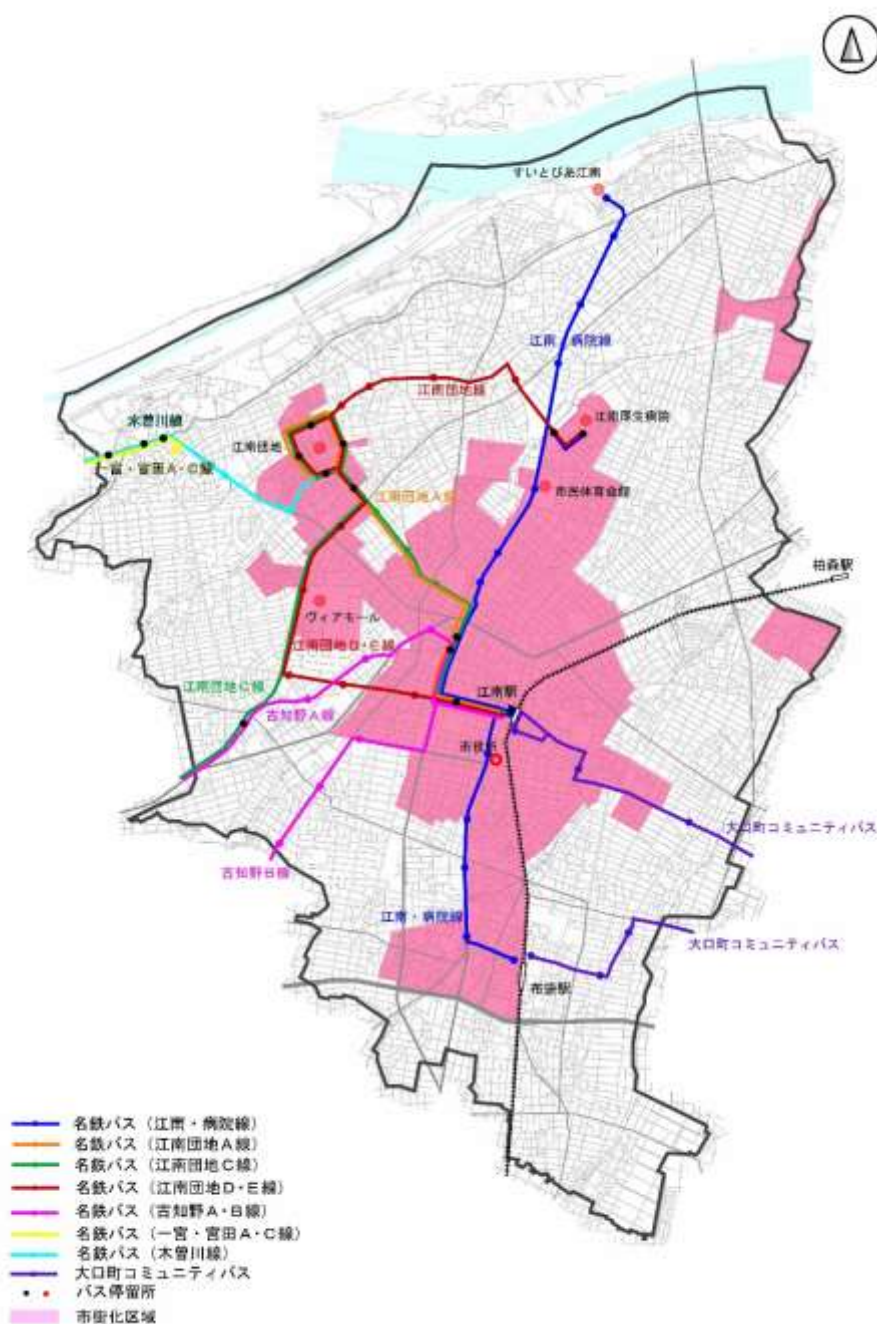
第1章 江南市における地域公共交通の実態

第1 地域公共交通の実態

1 交通インフラ及び主要施設の分布状況

江南市は鉄道については名鉄犬山線を有し、2カ所の駅がある。バスについては名鉄バスと大口町コミュニティバスが市内に定期路線を有している。

図表 1-1 江南市の公共交通（鉄道・路線バス）と市街化区域



2 バス・鉄道の人口カバー率推計

鉄道駅（江南駅・布袋駅・柏森駅・石仏駅）から半径 1 km 及びバス停から半径 500m の範囲の人口集積状況は約 7 万 9 千人であり、総人口の約 79% を網羅している。

ただし、江南市においては、鉄道と路線バス以外に、市内全域に「いこまい C A R」による移動サービスが供給されており、実質的には市内全域に対して公共交通は提供されている。

図表 1-2 地域公共交通機関カバーエリアの人口及びカバー率の推計

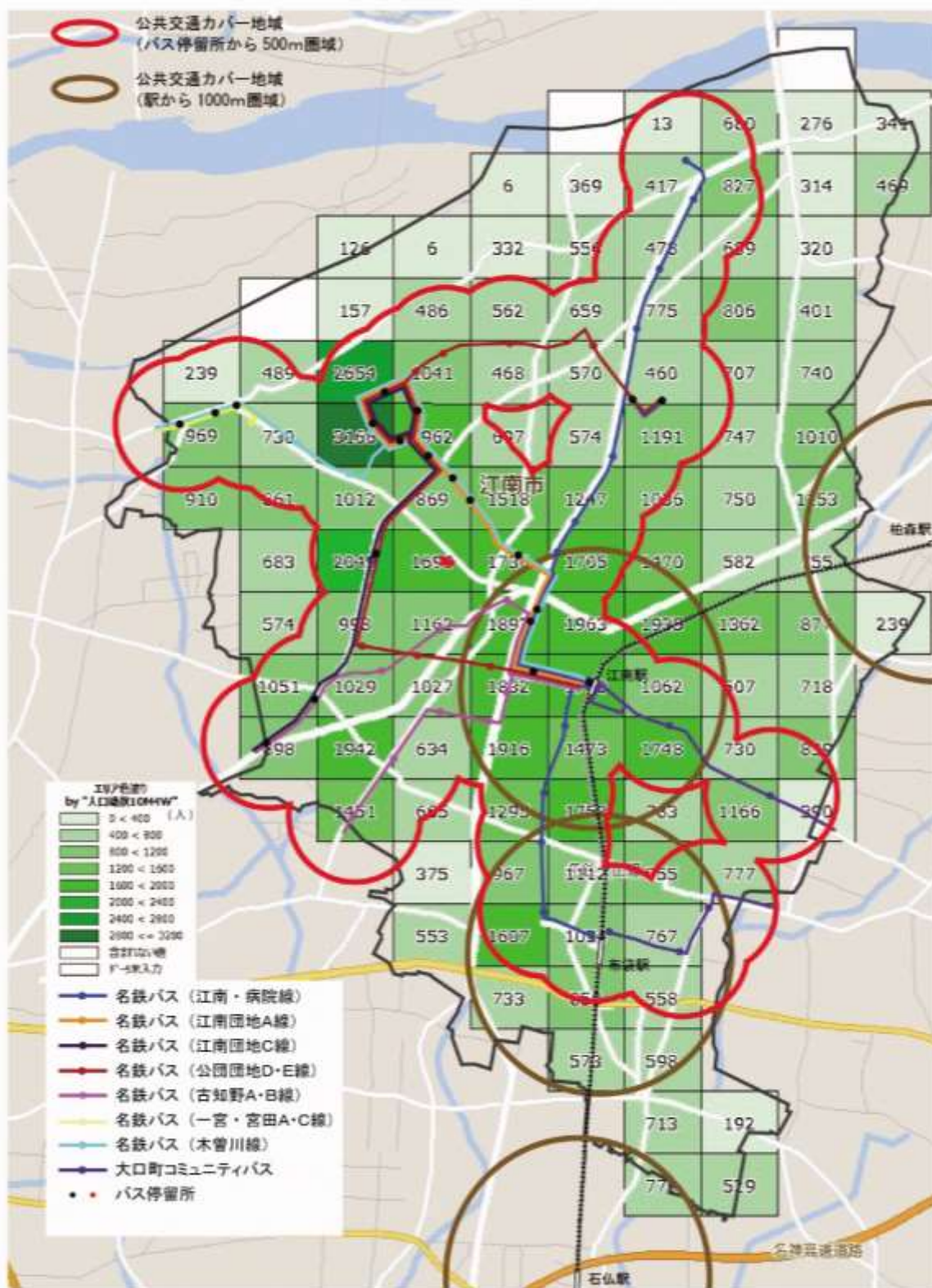
推計パターン		公共交通機関カバーエリア人口 (※ 1)	全人口に対するカバー率 (※ 2)
①	江南駅・布袋駅・柏森駅・石仏駅から半径 1 km、バス停から半径 300m の場合	61,628 人	61.8%
②	江南駅・布袋駅・柏森駅・石仏駅から半径 1 km、バス停から半径 500m の場合	78,531 人	78.7%
③	江南駅・布袋駅・柏森駅・石仏駅から半径 1 km、バス停から半径 1 km の場合	93,092 人	93.3%

※ 1 円が江南市域をはみ出す部分に関しては、4 次メッシュ毎に按分・除外している。

※ 2 母数の江南市人口には平成 22 年国勢調査時の 99,726 人を採用している。

出典：江南市地域公共交通基礎調査結果報告書（平成 28 年度）

図表 1-3 地域公共交通の影響範囲



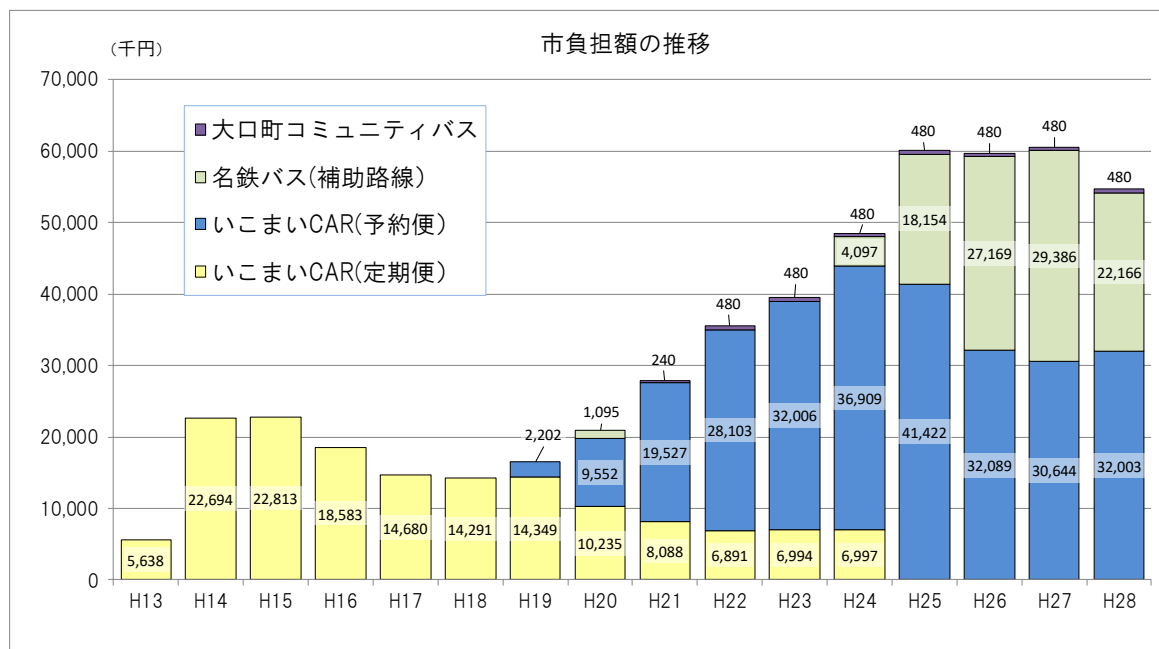
出典：江南市地域公共交通基礎調査結果報告書（平成 28 年度）

3 地域公共交通に対する市の負担額の推移

公共交通を維持するために市が負担している負担額の推移は以下の通り。

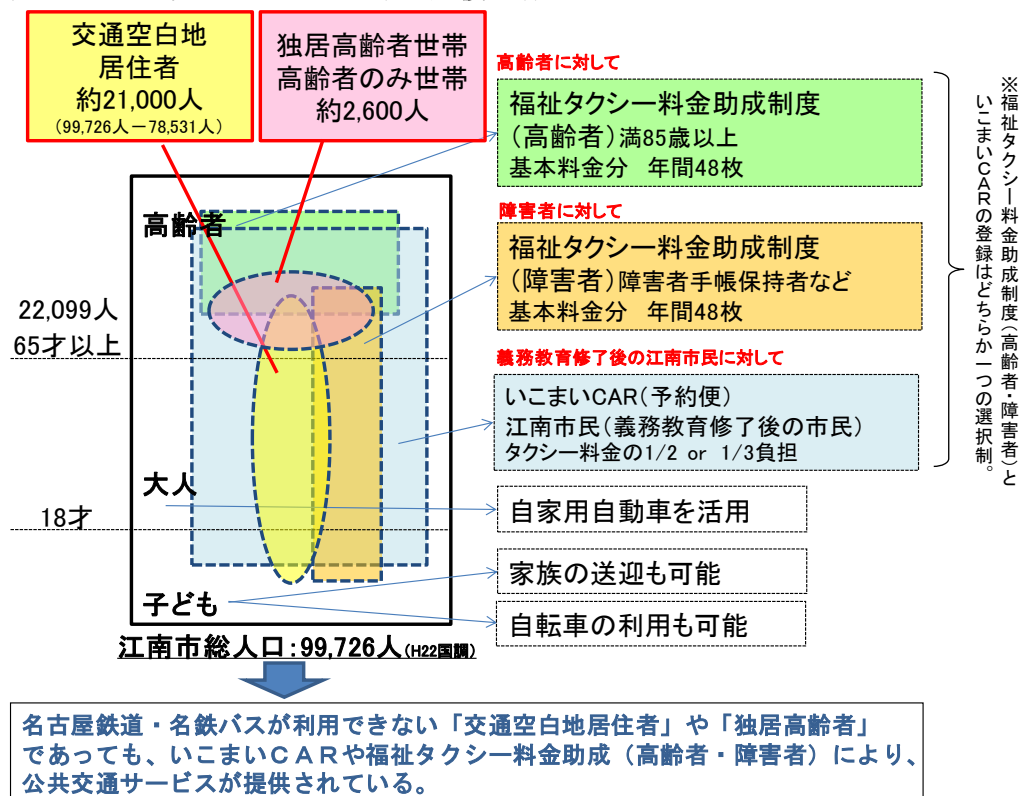
当初はいこまいC A R 定期便の事業に対して負担していたが、予約便に事業変更して負担額が変動した。現状は年間約 6,000 万円負担しており、その内訳は、いこまいC A R 予約便に約 3,000 万円、名鉄バス（補助路線）に約 3,000 万円となっている。

図表 1-4 公共交通に対する市の負担額の推移



資料：江南市（平成 29 年度）

図表 1-5 公共交通についての市の支援内容



出典：江南市地域公共交通基礎調査結果報告書（平成 28 年度）

第2 市民の意向（平成25年度アンケート調査結果）

1 アンケート調査結果要約

○全体を総括すると、バス・いこまいC A R（予約便）は、認知度・利用度とも、決して高い状況には無いにも関わらず、そのサービス水準に対しては、「満足」より「不満」が上回っている。税金を投入して民間路線バスを維持することは、「妥当」が若干上回っているが、今後の税金投入は維持もしくは抑制すべきとの意向にある。

○名鉄バスが通過していない「古知野東（線路東）」・「古知野北」・「布袋（線路東）」・「布袋北」等のエリアは、公共交通に対するサービス水準の満足度や税金を投入して維持することに対して評価は低く、「今以上の税金投入・サービス向上」の期待があり、地域格差が明確に認められた。

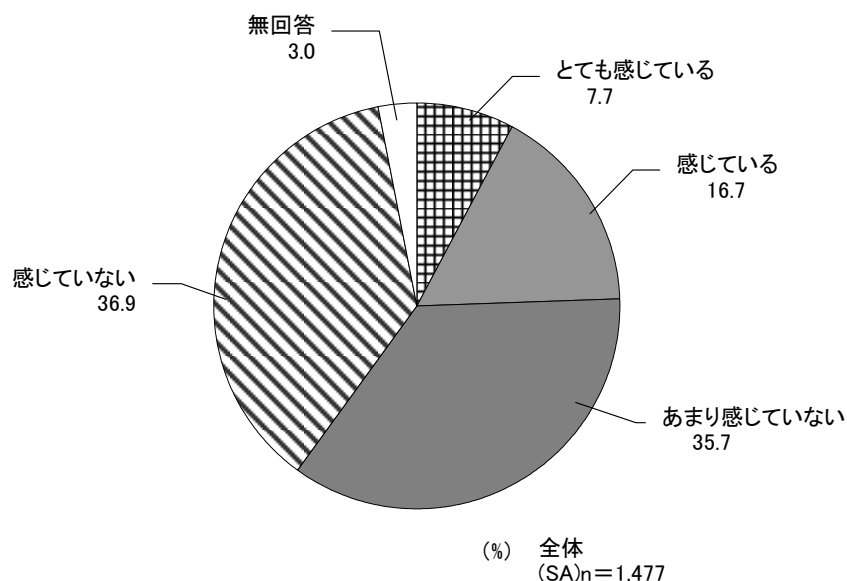
○アンケート結果をふまえると、「線路東」地区等の名鉄バスが通過していない比較的交通便利地域のサービス強化に対する要望は認められるが、バス・いこまいC A R（予約便）の認知度・利用度が決して高い状況になく、今後の税金投入に対して維持もしくは抑制すべきとの意向が多い。サービス強化を行うよりも、地域公共交通のP R活動を進め、利用促進を促すことが優先されるべきである。

2 アンケート調査内容（一部抜粋）

（1）日常の移動に不便を感じているか（問3－1）

- ・「日常の移動に不便を感じているか」を確認すると、「とても感じている」「感じている」が合わせて24.4%存在した。4人に1人が移動に不便を感じている。
- ・「不便を感じている理由」を確認すると、「自宅から鉄道やバス停留所が遠い」が59.2%と最も選択されており、次いで「利用できるバス停留所があっても運行本数が少ない・行き先が目的にあわない」（43.1%）が選択された。

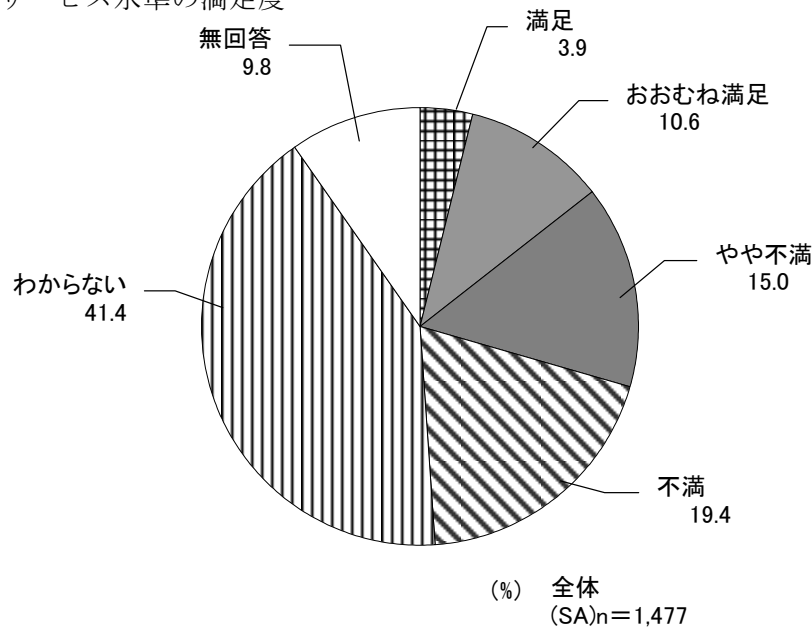
図表 1-6 日常の移動に不便を感じているか



(2) バスの利用頻度とサービス水準に対する満足度について（問3－6）

- ・「バスの利用状況」を確認すると、約7割の人が「ほとんど乗らない」と回答しており、利用している人の中でも「週に3日以上」「週に1～2日」を合わせた「週に1日以上」利用する人は3.6%にとどまる状況にある。
- ・バスに対する「現状のサービス水準の満足度」を確認すると、利用者が少ないため、「わからない」が41.4%と最も多かった。
- ・「満足」「おおむね満足」の小計が14.5%で、「不満」「やや不満」の小計34.4%となり、「不満」の声の方が多かった。

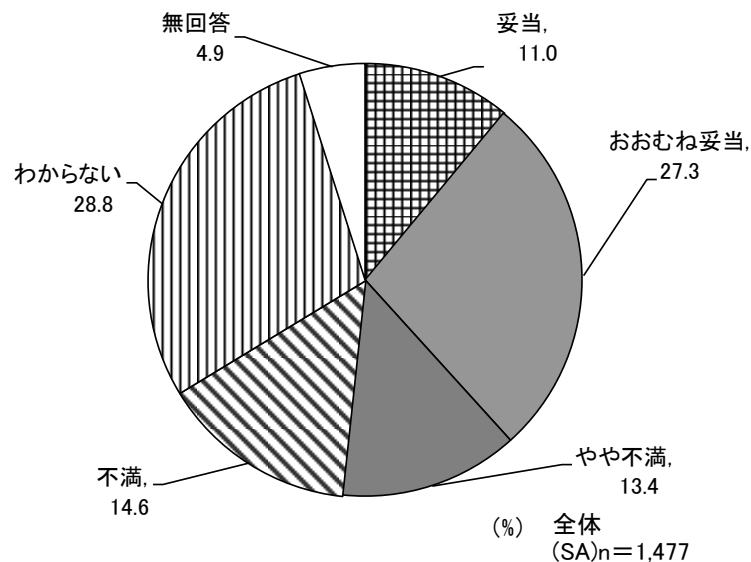
図表 1-7 サービス水準の満足度



(3) 税金を投入して民間路線バスを維持することに対する評価（問4－1）

- ・年間数百万円の税金を投入して「民間路線バスを維持することは妥当と考えるか」を確認したところ、「妥当」「おおむね妥当」が38.3%であるのに対し、「不満」「やや不満」が28.0%であり、「妥当」とする意見が約10%上回った。ただし、「わからない」を選択する回答者が28.8%存在しており、「妥当」が大多数を占める状況にはない。

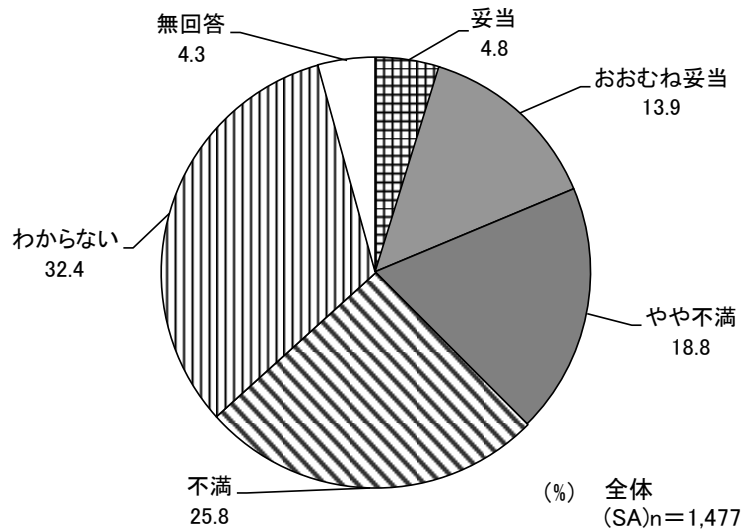
図表 1-8 民間路線バスを維持することに対する評価



(4) 「いこまいCAR（予約便）」を維持することに対する評価（問4－2）

- ・「いこまいCAR（予約便）を維持することの妥当性」を確認したところ、「妥当」「おおむね妥当」が 18.7%、「不満」「やや不満」が 44.6%となり、「不満」とする意見が 25.9%上回った。路線バスを維持するよりも「不満」とする意見が多い。

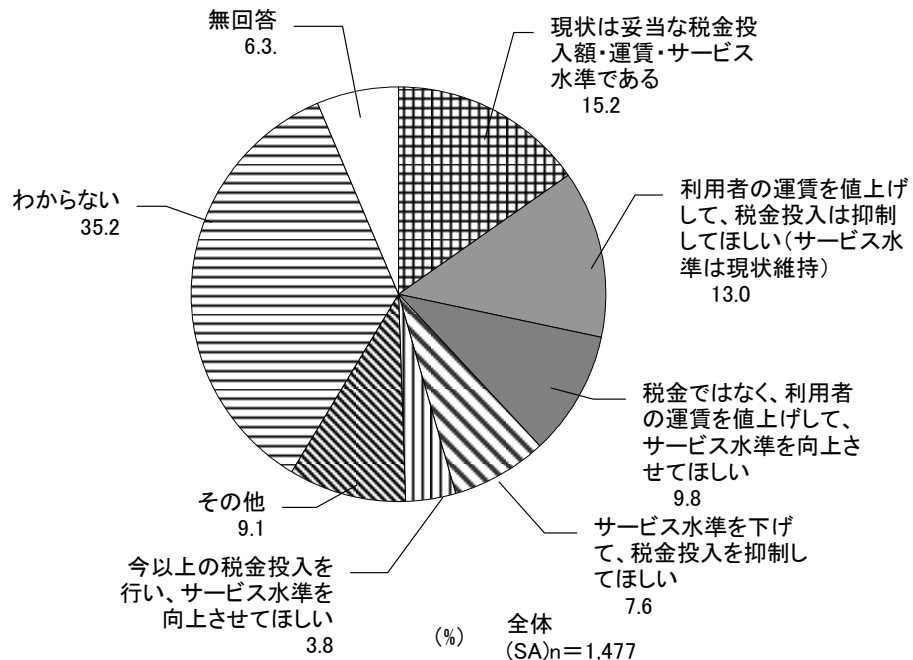
図表 1-9 「いこまいCAR（予約便）」を維持することに対する評価



(5) 今後の税金投入とサービス水準のあり方（問4－3）

- ・「今後の税金投入とサービス水準のあり方」について確認すると、「わからない」が 35.2%と最も多かった。
- ・明確な意思表示をした意見を確認すると、「現状は妥当な税金投入額・運賃・サービス水準である」が 15.2%と一番多く、次いで「利用者の運賃を値上げして、税金投入は抑制してほしい（サービス水準は現状維持）」が 13.0%、「税金ではなく運賃を値上げして、サービス水準を向上させてほしい」が 9.8%となった。
- ・市民の意向は、「税金投入は維持もしくは抑制」し、「運賃負担で賄うべき」という意向にあると言える。

図表 1-10 今後の税金投入とサービス水準のあり方



第3 江南市地域公共交通を語る会での市民意見

(1) 開催日時

平成28年8月20日～9月2日にかけて、5か所、80人の参加による意見交換会を開催。

(2) 開催内容

○江南市の公共交通の現状についての報告

○グループに分かれて意見交換

・公共交通の現状報告に対する意見や今後どのような対応をすべきかの意見の確認

(3) 開催風景（写真）



(4) 語る会での主な意見

① 名鉄バスに対する主な意見

- サービス水準・利用環境に対する意見
- 事業改善に対する意見
- 補助支援に対する意見

② いこまいCARに対する主な意見

- 事業に対する意見
- 制度改善に対する意見
- 運賃設定に対する意見
- バス事業との関係性に対する意見
- 制度設計等に対する意見

③ 福祉タクシー料金助成制度に対する意見

- 制度設計等に対する意見
- 事業費等に対する意見

④ 大口町コミュニティバスに対する意見

- ・便数が少ない。生活圏を考えると、江南・大口・扶桑で一緒に対応すべき。など

⑤ 交通空白についての意見

- ・いこまいCARは公共交通とは言えない、交通空白地域はある。タクシーがあるから空白がないとは言えない。 など

⑥ その他の意見（新たなサービスに対する意見）

- 新しいサービスに対する意見（コミュニティバスを導入すべき 等）
- 駅前整備に対する意見（駅周辺の交通規制 等）
- 自転車利用についての意見（気軽に走れる道路整備 等）
- 税金投入についての意見（もっと財政投入すべき、コスト削減すべき 等）

第4 江南市地域公共交通基礎調査結果（平成28年度）にみる江南市の現状確認

1 現時点で江南市の公共交通は課題があるもののおおむね充足

- ・鉄道駅から半径1km及びバス停から半径500mのカバーエリア人口は78.7%となっている。カバーエリア圏外の市民に対しても、いこまいCAR等によって公共交通サービスが提供できている。
- ・現時点で、江南市の交通体系は定時定路線である名鉄バス及び大口町コミュニティバスで構成されており、いこまいCAR（一部、福祉タクシー料金助成制度）で補完している。
- ・現時点で、江南市には「交通空白地」は存在しないとし、鉄道駅から半径1km、バス停から半径500m圏外を「交通不便地域」とする。

2 既存の公共交通に対する個別要請についての対応

- ・公共交通はおおむね充足しているというものの、利用者アンケート調査や江南市地域公共交通を語る会では様々な個別要請があることを確認した。
- ・提出された個別要請は、基本的に現在の江南市地域公共交通会議の体制の中で検討できるものが大多数を占めている。
- ・個別要請を検討するためには内部組織だけでなく、外部委員を迎えて専門的に協議する体制を整えるべきである。

3 地域間の格差及び地域の機運

- ・公共交通に対する意見については、税投入や公共交通サービスの拡大・縮小など、地域間で格差があり、さらに、地域内でも意見の相違がみられる。
- ・現状の改善案としてコミュニティバス・巡回バスの導入など、新たな公共交通サービスの導入について意見はあるものの、利用者の確保策やコースの検討について地域の案として成熟した回答が出せる状況ではなく、公共交通に対する機運が高まっていない。

第2章 江南市における地域公共交通の課題

平成28年度に「江南市地域公共交通基礎調査」を実施し、平成29年3月に「基礎調査結果報告書」をとりまとめている。

その中で、地域公共交通サービスについて検討が求められる事項（課題）は次の通り。

第1 既存の地域公共交通サービスについての課題（個別要請）

1 名鉄バスについて

○市民からの要望事項についての検討

- ・便数が少ない、運賃が高い、バス停が遠いといった各種要望事項について、名鉄バスと共有すると共に、改善できる事項について「事務局にて交通事業者と協議」する必要がある。

○税投入の見直しについての検討

- ・利用者負担の拡大との指摘に対して、名鉄バスの運賃形態は、認可運賃のため原則変更できない。
- ・税投入して維持している名鉄バス「江南・病院線」「江南団地線」の扱いについて、「江南市地域公共交通会議等にて協議」する必要がある。

○コミュニティバスへの転換要請についての検討

- ・上記の対応に関連するため、対応の方向性について「江南市地域公共交通会議等にて協議」する必要がある。

2 いこまいCARについて

○市民からの要望事項についての検討

- ・当日予約、運行時間の延長、市外利用、運賃制度の要望事項について、「庁内会議にて協議」する必要がある。関係者の合意形成が必要なものは「江南市地域公共交通会議等にて協議」する必要がある。

○制度設計等に対する意見についての検討

- ・バス事業との2重投資、福祉タクシー料金助成制度との役割分担、年齢制限、利用目的制限等、制度設計等について、「庁内会議にて協議」する必要がある。

3 福祉タクシー料金助成制度について

○制度設計等に対する意見についての検討

- ・配布枚数、登録条件、利用条件、事業費削減等の意見について、「庁内（福祉部門）へ情報提供」する必要がある。

4 大口町コミュニティバスについて

○市民からの要望事項等についての検討

- ・ 要望等については、江南市による財政負担無くして改善できない。
- ・ 大口町、扶桑町との連携については、新たな事業化を行う方向性が示された時点で、調整すべき事項である。
- ・ 後述の新たなサービスの対応と併せて、対応方針について「他市町・庁内会議にて協議」する必要がある。

第2 新たな交通サービスについての課題

1 交通不便地域について

○交通不便地域の対応についての検討

- ・ 市内全域をカバーする「いこまいC A R」、一般乗用タクシーが、公共交通として認識されていないことから啓発活動に努める必要がある。
- ・ 交通不便地域などにおける福祉施策、地域格差による受益者負担の扱いについて、今後策定・改定される江南市総合計画、江南市都市計画マスタープラン等に鑑みながら「庁内会議にて協議」する必要がある。

2 新たなサービスについて

○導入についての検討

- ・ 地域全体で公共交通を実現するための施策、地域主導による新たな施策のあり方について「庁内会議にて協議」する必要がある。
- ・ 新たなコミュニティバス、巡回バス、無料バス等の導入は、新たな財政投資が必要である。税金投入の今後の対応次第となるため、財政負担の対応と併せて地域の負担・利用者の負担・地域への補助（市の負担）などのあり方を整理する必要がある。
- ・ 地域主導により新たなサービスを実現する際は、「江南市地域公共交通会議等にて協議」する必要がある。

○財政上の工夫（財政投入を伴わない施策）についての検討

- ・ スクールバス（愛知江南短期大学、滝学園）、企業従業員送迎バス、ボランティア輸送など、新たな財政投入を伴わないで活用が考えられるサービスについて、「庁内会議にて協議」する必要がある。

3 駅前整備について

○将来のまちづくりでの検討

- ・ 駐輪場・駐車場・駅周辺の交通規制等は、駅周辺のまちづくり事業での対応となる。上位関連計画の「江南市都市計画マスタープラン」の計画目標年次は平成 29 年度であるため、当該要望事項を関係部局と共有し、次期計画策定時に検討する必要がある。

（※既存計画においては、駐車場・駐輪場は、駅やバス停留所の周辺での確保・拡充を

検討することとしている。(江南市都市計画マスタープラン p53))

4 自転車利用について

○将来のまちづくりでの検討

- ・自転車の活用、気軽に走れる道路・歩道の整備については、駅前整備と同様にまちづくり事業での対応となる。当該要望事項を関係部局と共有し、次期計画策定時に検討する必要がある。
- (※既存計画での自転車道の扱いは、環境負荷の少ない社会の構築の中で、整備を検討することとしている。(江南市都市計画マスタープラン p60))

第3 財政負担（税金投入）についての課題

○拡大 or 抑制の相対立する意見についての検討

- ・市民アンケート調査結果では、維持・抑制を求める意見が多数である。
- ・江南市地域公共交通を語る会では、市民アンケート調査結果、財政負担の実態（負担額は増加傾向）等について報告した中で、「もっと財政投入すべき」と「抑制すべき」との相対立する意見が指摘された。
- ・江南市の財政状況に鑑みると、現在の財政負担を維持することはできず、今以上の負担額の圧縮が求められている状況にある。
- ・財政投入拡大の意見があるものの、江南市の財政事情を考慮しつつ、投入の方向性を検討する必要がある。

第4 その他の課題

○評価・情報発信等の体制確保についての検討

- ・実態を評価する意見としては、前述までの各種要望事項以外に、「大変充実していると思う」という意見と「将来が不安」という意見が共存する。また、現状について知らなかった、もっと情報発信すべきとの指摘がある。
- ・公共交通のモニタリング、評価については「江南市地域公共交通会議等にて協議」する必要がある。
- ・情報発信等を行う体制確保や取り組み方法について「庁内会議にて協議」する必要がある。

第3章 江南市における地域公共交通の基本的な考え方

第1節 まちづくりに取り組むための基本的な考え方

江南市の最上位計画である「第6次江南市総合計画（以下、「総合計画」とする。）」のまちづくりに取り組むための基本的な考え方は以下の通り。このまちづくりの考えに基づき、地域公共交通政策を推進する。

① 基本目標1「地域の魅力を活かした機能的なまちづくり」

質の高い都市空間の整備を進めることにより、誰もが住みたい、住み続けたいと思える生活環境の充実をめざします。特に、名古屋市都心部への高いアクセス性と緑や水辺などの良好な自然環境や来訪者が多い曼陀羅寺をはじめとした歴史資源などの江南市の強みを活かし、コンパクト・プラス・ネットワーク^{※1}の考え方に基づいた、都市的機能と自然環境が調和した機能的なまちづくりをめざします。

これにより、江南市の魅力を活かした生活しやすいまちとして、「生活環境が快適なまち」の実現をめざします。

資料：総合計画「第Ⅱ部 基本構想」より抜粋

② 土地利用における「拠点」の形成

本市における主要な拠点として、通勤・通学などで人が最も集まる鉄道駅である江南駅及び布袋駅を中心とする区域を『中心拠点』、市民の健康を支える江南厚生病院～市民体育館周辺の区域と、観光名所や大規模住宅団地のある曼陀羅寺公園～江南団地周辺の区域を、地域においても人々が多く集まる区域として『地域拠点』と位置づけ、中心拠点－地域拠点間や、中心拠点同士を交通ネットワークで結ぶことにより、住みやすく、利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざします。

資料：総合計画「第Ⅲ部 基本計画」より抜粋

③ 市長の戦略政策1「多彩な魅力・多様な暮らしを選べるまちの実現」

人口減少による人口密度の低下は、都市の生活を支える機能（医療・福祉・子育て支援・教育文化・商業）の分散や縮小、行政コストの上昇の要因となり、結果として市の魅力の低下や行政サービスの低下につながるおそれがあります。

人口減少の時代だからこそ、持続可能な都市の将来像を見据え、都市構造の改革に取り組み、拠点への都市機能の集約や拠点間ネットワークの確保を前提とした「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進するとともに、市のブランド力の向上や魅力の再発掘に取り組む必要があります。

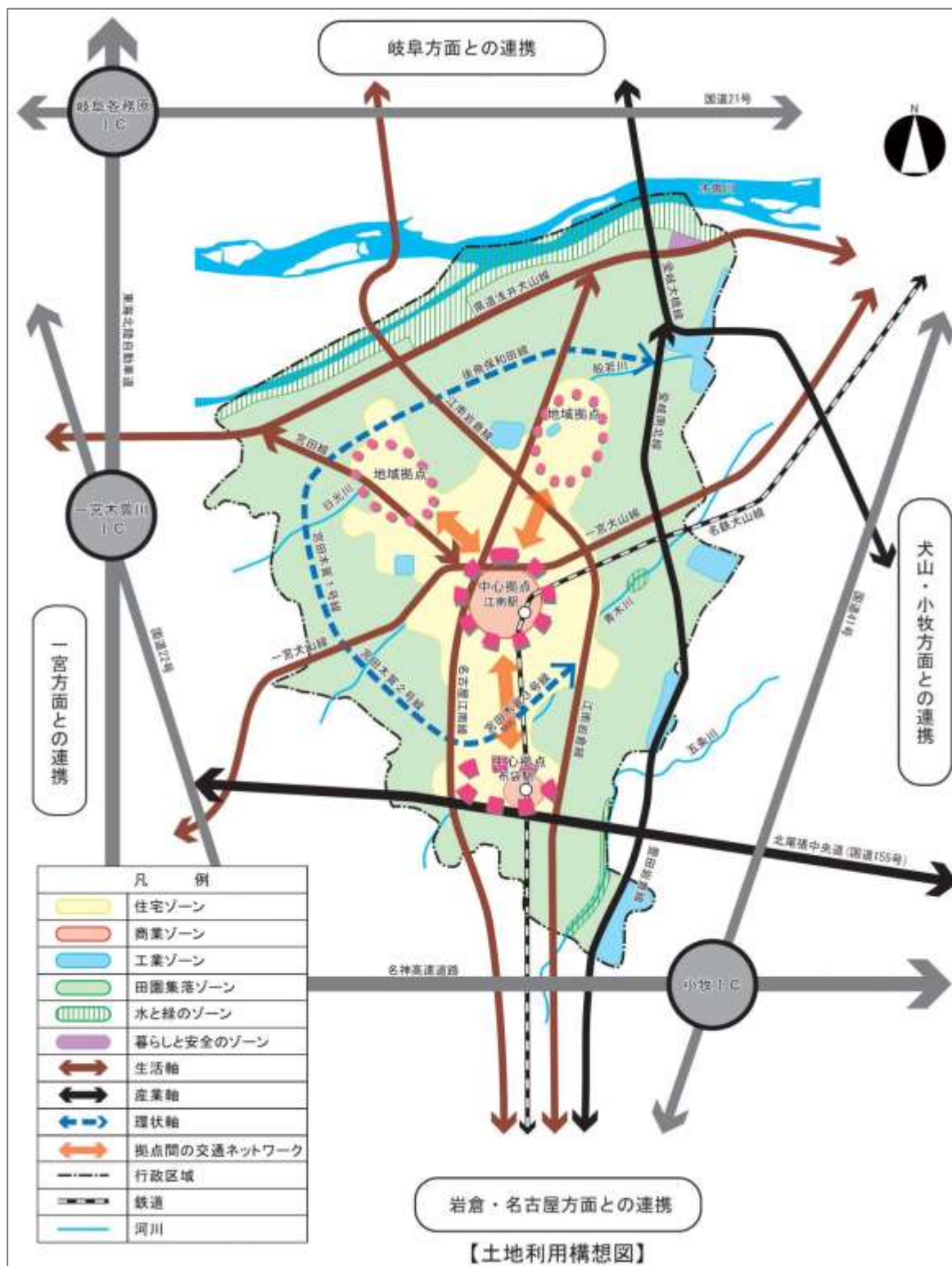
そのため、更新を予定している都市計画マスタープランと新たに作成する立地適正化計

注1 コンパクト・プラス・ネットワーク：国土交通省が提唱している政策であり、人口減少や高齢化が進む中であっても、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業などの生活サービス機能を確保し、住民が安心して暮らせる、持続可能な都市経営を実現できるよう、関係施策間で連携しながら、都市のコンパクト化と拠点間の交通ネットワーク形成をすること。「国土のグランドデザイン2050」では、基本戦略の一つとして「コンパクト＋ネットワーク」と示されている。

画には、中心拠点・地域拠点の整備方針や拠点間ネットワークの考え方を整理し、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のより具体的な取り組みを推進していきます。

資料：総合計画「第Ⅲ部 基本計画」より抜粋

【参考】総合計画における土地利用構想図



出典：総合計画「第Ⅲ部 基本計画」より抜粋

第2節 地域公共交通の基本的な考え方

第1 対象とする区域

地域公共交通政策を実施する「対象とする区域」は、「江南市全域」とする。

総合計画策定に関する市民意向調査結果では、公共交通に関して満足度が低く、重要度が高い項目となっていることから、市全体で地域公共交通政策に関する取り組みを行う。

また、総合計画で定めるコンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づいて、まちづくりを進めるため、第6次江南市総合計画の土地利用構想図の中心拠点・地域拠点が存在する「住宅ゾーン」・「商業ゾーン」で構成されるエリアを「コンパクトエリア」として想定し、重点的に地域公共交通事業を展開する。

○重点エリアの設定

「住宅ゾーン」・「商業ゾーン」では重点的に地域公共交通事業を展開

第2 地域公共交通政策の考え方

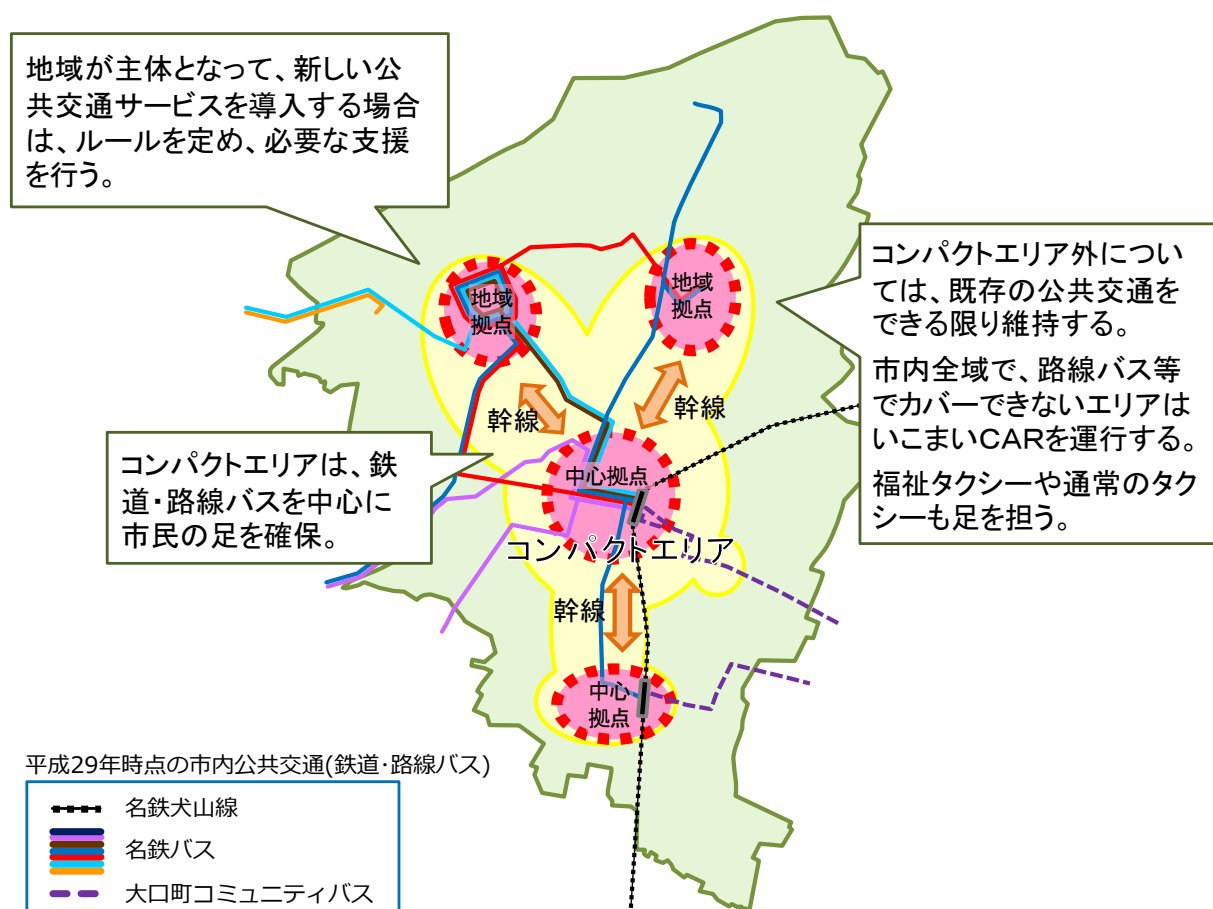
江南市の公共交通は、鉄道や路線バス、大口町コミュニティバスが存在し、市内全域でいこまいC A Rを運行していることから、おおむね充足している状況となっている。

路線バスについては、平成29年12月現在、市内のみを運行する路線は、全て市が補助を行っている。市内から市外へ向かう路線は、民間バス会社で採算が成立している路線が複数存在しているものの、市が補助を行っている路線も存在する。また、市内の名鉄犬山線の東側のエリアでは、市が運行経費の一部を負担し、大口町コミュニティバスの停留所が設置されている。

以上をふまえ、江南市の地域公共交通政策の考え方を以下のとおりとする。

- ・コンパクトエリアと想定される区域については、鉄道や路線バスを中心に市民の足を確保する。
- ・コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持する。
- ・市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいC A Rを運行する。
- ・路線バス・いこまいC A Rで対応できない場合は、福祉施策である福祉タクシー料金助成制度（福祉タクシー）や通常のタクシーにより市民の移動を担う。
- ・地域主体の新しい公共交通サービスの導入については、ルールを定め、必要な支援を行う。

図表 3-1 江南市の地域公共交通のイメージ



○今回の考え方に基づく公共交通政策を実行する事業期間

総合計画と連動した「平成 30 年度～平成 39 年度」の 10 年間

第3 地域公共交通のネットワークの目指す姿と各モードの役割

1 江南市の地域公共交通のネットワークの目指す姿

江南市の地域公共交通のネットワークの目指す姿は、以下の通りとする。

- ・ 中心拠点間と中心拠点－地域拠点間を結ぶネットワークを「幹線」として位置付け、鉄道（名古屋鉄道）や路線バスを中心として公共交通を維持確保する。
- ・ 幹線以外のバス路線を「支線」と位置付け、利用の状況に応じて、見直しを検討する。
- ・ 路線バスでカバーできない部分については、「いこまいC A R」により、市内全域で移動できる環境を維持確保する。
- ・ 周辺自治体や名古屋圏との移動を支える広域の公共交通については、鉄道（名古屋鉄道）および複数の市町にまたがって運行する路線バスで対応する。
- ・ 路線バス、いこまいC A Rでは地域のニーズと合わない場合は、地域が主体となって実施する公共交通サービスで対応する。
- ・ その他の公共交通事業については、利用者（市民）は必要に応じて活用する、事業者は需要に応じた運行体制を整えるなど、関係者が協力しながら、事業主体が中心となってサービスを提供する。

2 ネットワークを形成する各モード（交通手段）の役割

江南市におけるコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを支える地域公共交通の維持確保のため、ネットワークとなる地域公共交通のモード毎の役割を下記のように設定する。

モード	役割	今後の方向性
広域移動とまちの拠点となる「鉄道」（駅）	名古屋市等との広域の移動や江南市のまちづくりの中心拠点の役割を担う。	事業主体（名古屋鉄道）が中心となり、駅の利便性、鉄道の運行本数等の現行のサービス水準の維持確保を目指す。
ネットワークの骨格となる「路線バス」（補助路線）	中心拠点と地域拠点や中心拠点間との移動サービスを提供する役割を担う。	財政支援を行いながら、コンパクトエリアの路線の維持確保に努める。路線の維持を目指しつつ、利用の状況に応じて見直しを検討する。
周辺都市との移動を担う「路線バス」（広域路線）	市内と周辺都市との移動サービスの役割を担う。	事業主体（名鉄バス）が中心となって、サービス水準の維持確保を目指す。
バス路線でカバーできない移動を担う「いこまいC A R」	鉄道・路線バス等でカバーできない市内移動を支える役割を担う。	市民の計画的な昼間の外出に対して、市内全域で移動ができる環境を確保するため、サービスの継続に努める。

駅東の移動を担う 「大口町コミュニティバス」	名鉄犬山線東側エリアの市民が利用できる移動手段としての役割を担う。	大口町の協力を得ながら、サービス水準の維持確保を目指す。
高齢者・障害者の移動を担う 「福祉タクシー料金助成制度」	いこまいＣＡＲでは対応できない時間帯や市外、突発的な移動を、福祉施策として支える役割を担う。	地域公共交通とは別に、高齢者・障害者等への福祉施策として事業の継続を目指す。
地域が主体となった公共交通サービス	路線バス・いこまいＣＡＲではカバーできない地域のニーズに対応する役割を担う。	地域が主体となった公共交通サービスについて、検討・実施に関する取り組みに対して、支援に努める。
その他の移動手段 (タクシー等)	市民の移動を支える役割を担う。	利用者（市民）は必要に応じて活用する、事業者は需要に応じた運行体制を整えるなど、関係者が協力しながら、事業主体がサービスの維持を目指す。

3 江南市が事業主体となって展開する「いこまいＣＡＲ」の位置付け

「いこまいＣＡＲ」は、市民の基礎的な生活を支える手段として、「買い物」、「通院」などの「計画的な昼間の外出（お出かけ）」に対して補助を行い、路線バスを補完する公共交通として市内の移動を担うものとする。

そのため、通勤・通学や早朝・夜間の移動、突発的な移動を支える役割までは想定しない。

また、江南駅、布袋駅といった中心拠点のにぎわい形成を支援する観点から、市外への利用はできない。

第4章 江南市における地域公共交通の課題対応

第1節 地域公共交通の課題対応

第1 既存の地域公共交通サービスについての課題（個別要請）対応

1 名鉄バス（路線バス）について

対応するために 行う事業	○市内を運行する路線バスの維持確保 ○対象路線 ・江南・病院線 (布袋駅～江南駅～江南厚生病院～すいとぴあ江南～フラワーパーク江南) ・江南団地線（古知野高校前経由） (江南駅～古知野高校前～江南団地) ・江南団地線（ヴィアモール前経由）／（団地経由江南厚生病院行） (江南駅～ヴィアモール前～江南団地～江南厚生病院)
実施主体	○バス事業者
対応事項	○関係者による路線維持・安全運行の実施 ○コンパクトエリアでの事業維持 ○利用状況に応じた見直しの検討 (布袋駅～江南駅、江南厚生病院～すいとぴあ江南、江南団地～江南厚生病院間等)

2 いこまいCARについて

対応するために 行う事業	○いこまいCARの維持確保
実施主体	○江南市（運行主体：タクシー事業者）
対応事項	○関係者によるサービス維持・安全運行の実施 ○江南市の運賃負担による事業維持 ・市負担額が極端に増加した場合、理由を考慮して継続を検討 ・状況によって、相乗り率向上のための施策、対象範囲の見直し、相乗りアプリの導入等を検討

3 福祉タクシー料金助成制度について

対応するために 行う事業	○福祉タクシー料金助成制度の継続
実施主体	○江南市（運行主体：タクシー事業者）
対応事項	○公共交通（いこまいCAR）と福祉施策との役割分担の整理 ・「誰もが自由に利用することができる」という公共交通の趣旨を踏まえて、福祉タクシー料金助成制度（対象者は85歳以上の高齢者及び重度心身障害者）といこまいCARを選択して利用することが可能（令和7年度より並行登録可） ※精算時の併用不可

4 大口町コミュニティバスについて

対応するために 行う事業	○大口町コミュニティバス（大口町）の運行協力
実施主体	○大口町
対応事項	○大口町との連携継続 ・大口町・扶桑町との打合せ会による情報交換の継続 ・市民への利用促進、負担金等による事業協力

第2 新たな交通サービスについての課題対応

1 交通不便地域について・新たなサービスについて

対応するために 行う事業	○地域主体の新しい公共交通サービスの支援
実施主体	○各地域（支援主体：江南市）
対応事項	○新しい地域公共交通事業導入ルールに基づく支援の実施 ・地域のニーズに合った公共交通サービスを協議する地域組織の 設置誘導

2 駅前整備について

対応するために 行う事業	○総合計画に基づく戦略プロジェクトの実施
実施主体	○江南市
対応事項	○戦略プロジェクト（戦略政策に関連する事務事業）の実施 ・江南駅前の利便性向上（都市計画道路整備事業：江南通線） ・布袋駅東側の開発促進（交通結節点整備事業）等

3 自転車利用について

対応するために 行う事業	○江南市都市計画マスタープラン、江南市まち・ひと・しごと創生 総合戦略に基づく事業の実施
実施主体	○江南市、交通事業者
対応事項	○利用促進事業の実施 ・サイクル・アンド・ライド等の利用促進策の検討

第3 財政負担（税金投入）についての課題・その他の課題

1 財政負担について・評価体制の確保について

対応するために 行う事業	○江南市地域公共交通会議による評価実施
実施主体	○江南市・江南市地域公共交通会議
対応事項	○江南市地域公共交通会議の定期開催 ・政策評価、事業評価による変動理由を考慮した財政負担の適正 性の判断

2 情報発信体制の確保について

対応するために行う事業	○地域公共交通の利用促進
実施主体	○江南市、交通事業者
対応事項	○広報、ホームページ等による地域公共交通事業の情報発信 ・利用実績等について広報等を通した定期的な情報発信の実施

第2節 関係者の役割分担

江南市の地域公共交通政策の課題に対応するためには、江南市（行政）のみでは対応できないため、関係者の役割分担と江南市地域公共交通会議の役割を以下の通り設定する。

○関係者の役割分担

構成員	役割
江南市	● 交通政策の検討主体・実施（事務局を担う） ● 名鉄バス路線の維持 ● いこまいC A R 運行の維持 ● 福祉タクシー料金助成制度の継続 ● 名鉄バス・いこまいC A R 運行主体（タクシー事業者）との連携・調整 ● 近隣自治体や県との連携・調整 ● 地域主体の新しい公共交通サービスの支援 ● 交通政策推進上、必要となる対策の検討・実施
名鉄バス	● 路線バスの運行 ● 利用促進策の実施
タクシー事業者	● いこまいC A R、福祉タクシー、通常のタクシーの運行 ● 利用促進策の実施
道路管理者	● 道路管理上の観点からの助言
公安委員会	● 交通安全上の観点からの助言
地域公共交通の利用者（市民）	● 公共交通の積極的な利用 ● 地域主体の公共交通の検討・協議
学識経験者	● 協議のアドバイス・コーディネート（協議の進行役、各種提案、他地域事例の紹介等）

資料：国土交通省「地域公共交通網形成計画及び地域公共交通再編実施計画作成のための手引き」（第3版平成28年3月）、国土交通省 中部運輸局「活発で良い議論ができる会議のために。」（平成28年3月）を参考に作成

○江南市地域公共交通会議の役割（江南市地域公共交通会議設置要綱 第1条）

道路運送法（昭和26年法律第183号）の規定に基づき、地域における需要に応じた住民の生活に必要なバス等の旅客輸送の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議する。

（協議事項：要綱第2条）

- ・ 地域の実情に応じた適切な乗合旅客輸送の態様及び運賃・料金等に関する事項
- ・ 市町村運営有償輸送の必要性及び旅客から収受する対価に関する事項
- ・ 交通会議の運営方法その他交通会議が必要と認める事項

第5章 江南市における地域公共交通政策に関する評価について

第1節 地域公共交通政策の評価

江南市地域公共交通のネットワークの目指す姿を実現するためには、現在の公共交通の形を維持確保することが必要となる。

公共交通の維持確保は、市民の公共交通の利用により担保されるものと考え、地域公共交通の政策を管理するため、以下の指標を設定する。

○評価指標

指標	設定理由と対策	算出方法
市民一人当たりの公共交通利用回数	市民一人当たりの公共交通利用回数から、市民の公共交通の利用頻度をモニタリングする。 利用回数の推移について、変動理由を考察し、公共交通政策の方向性の確認を行い、事業に反映させる。	名鉄バスより提供される、路線バスの利用人数、いこまいC A Rの利用人数、大口町より提供される、大口町コミュニティバスの江南市内のバス停の利用人数を合計して年間の利用回数を算出し、年度末時点の人口で除することにより求める。 対象期間は4月から翌年3月、名鉄バスの利用人数は、古知野線（2路線）、江南・病院線、江南団地線（4路線）、木曽川線、一宮・宮田線（2路線）の路線別利用者数の合計とする。

第2節 事業評価

評価対象は、江南市が公共交通を直接実施（支援）する路線バス（補助路線）、いこまいC A Rとする。事業評価については、様々な評価の指標が想定されるが、事業の持続性を主眼に置いて以下の指標を設定する。

○評価指標

評価対象	指標	設定理由と対策	算出方法
路線バスの維持確保 （補助路線）	利用者一人当たりの市負担額の推移 （路線別評価）	利用者一人当たりの市負担額の推移から路線別の状況をモニタリングする。 路線別の推移について、変動理由を考察し、事業評価において報告するとともに、事業の維持・改善に反映させる。	利用者一人当たりの市負担額は、江南・病院線、江南団地線（古知野高校経由）、江南団地線（ヴィアモール経由）、江南団地線（団地経由江南厚生病院行）の各路線において、当該年度の補助金を、補助金算定期間である10月～翌年9月の利用者数で除することにより求める。

いこまいC A R の維持確保	江南市の市負担額の推移	市負担額の推移からいこまいC A R の状況をモニタリングする。 高齢化の進展により、事業費の増加が見込まれるが、事業費の変動内容から、変動理由を考察し、事業評価において報告するとともに、事業の継続または見直し内容に反映させる。	市負担額は該当年度の決算額を利用する。
--------------------	-------------	---	---------------------

第3節 評価体制・評価方法・評価実施計画

第1 評価体制

政策管理指標の評価及び、事業評価は、「江南市地域公共交通会議」にて行う。また、評価の分析を行うため、庁内に内部組織（仮称：江南市公共交通運営委員会）を設置する。

江南市地域公共交通会議を適切な時期に開催し、当該年度（前年度）の評価（数値及び変動理由）を行うとともに、大口町コミュニティバス、地域主体の新たな公共交通導入などの事業の取組状況を報告し、進捗状況を確認することとする。

各事業の評価結果をふまえて見直しが必要となる場合、地域公共交通会議で協議し、政策会議にて判断を行う。

第2 評価方法

評価は、地域公共交通確保維持改善事業に関して、国土交通省中部運輸局が定める事業評価の様式（中部様式）を参考に実施する。

この様式により、具体的取組みに対する評価内容（政策評価・事業評価）、自己評価から得られた課題と対応方針などを確認する。

具体的取組みに対する評価内容（事業評価指標）については、路線バスの系統毎に利用状況の評価するとともに、他路線との比較ではなく、自らの路線の経年変化とその理由を中心に検討し、指標の数字データだけではなく、路線の問題点や解決すべき課題を公共交通会議に報告する。

第3 評価実施計画

政策管理指標の評価及び事業評価は、毎年モニタリングを実施し、評価を行う。事業の取組状況についても毎年進捗状況を確認する。

第6章 江南市における地域主体の新しい公共交通サービスの導入ルール

江南市では、鉄道や路線バス、いこまいC A R、大口町コミュニティバス等により、地域公共交通は市内全域に対してサービス提供が行われている状況にある。

しかし、地域のニーズに対応できない場合、地域における新しい公共交通サービスの導入が求められることから、今後、地域における新しい公共交通を導入する際のルールについて、下記のように設定する。なお、ルールの実施に当たって必要な事項については、別に検討を行う。

第1 導入プロセス

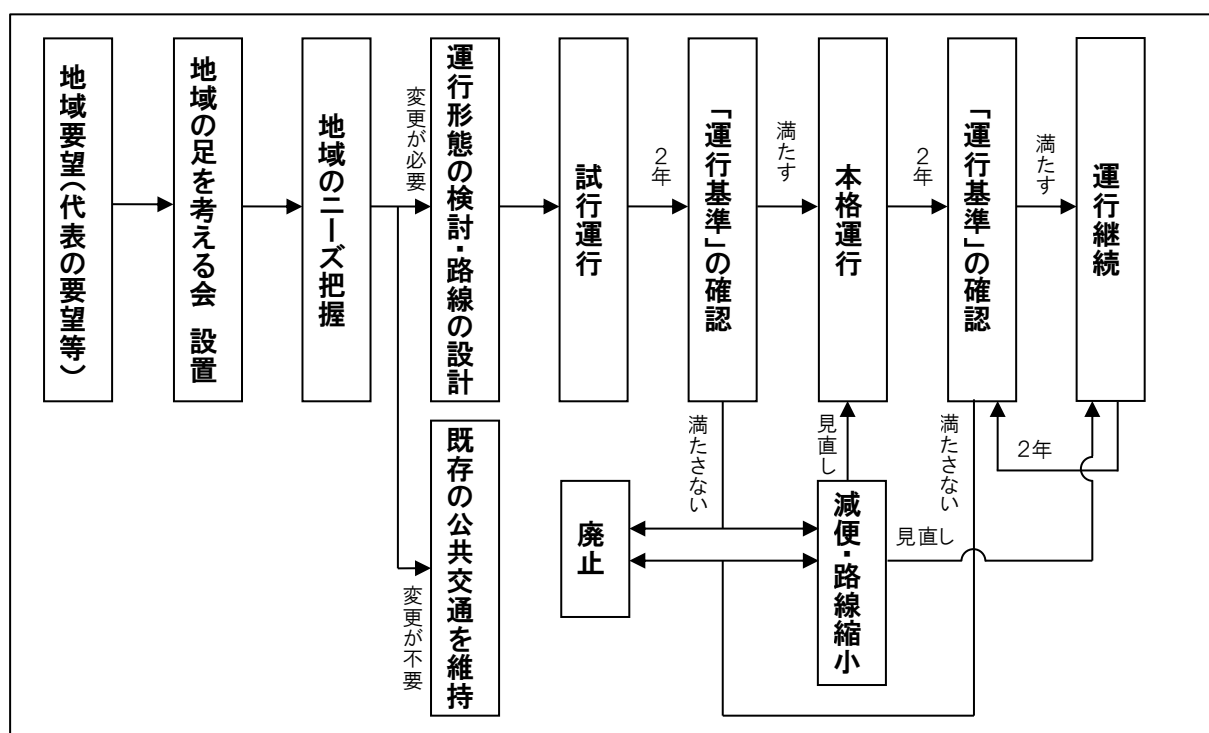
「地域の代表者からの要望」等により、市への意見が寄せられた際、地域主体で検討する事を前提に市が相談を受け付ける。

その後、地域が主体となって実際に新しい公共交通サービスを検討する際は、導入する地域の意見反映、事業構築のための合意形成（協議）、事業開始後の利用促進策等、地域の主体的な事業参画が求められるため、「地域の足を考える会（仮称：地区交通協議会）」の設置を基本原則とする。

地区交通協議会での協議を通して、事業構築・運行・モニタリングを行い、事業継続の必要性、事業改善案等について協議する。

市は、地区交通協議会に対して情報提供などを行い、必要に応じて協議に参加しながら支援を行う。

① 地域主体の新しい公共交通サービスの導入プロセス（フロー）



② 地域の足を考える会（仮称：地区交通協議会）の設置の考え方

- 検討する地域の住民ニーズを適切に反映できる協議体制を整えていること。
- 鉄道や路線バスとのネットワークが議論できるよう、小学校区単位を目安に、検討する地域の範囲が設定できること。
- 上記条件を満たす組織として、小学校区の自治会の集合体である「コミュニティ協議会」または、「各小学校下自主防災会」（小学校区 10 箇所）を母体とする組織による協議体制が望ましい。
- 協議体制を整えた「地域の足を考える会（仮称：地区交通協議会）」において、江南市（職員）の支援のもとで、新しいサービス導入を検討し、事業案を江南市地域公共交通会議にて、協議承認する。

③ 導入時の基本原則

- 地域住民主体の事業とする。
（地域住民は、事業構築・運営支援・利用促進等に主体的に参画する）
- 運行主体はボランティアではなく、事業者とする。
- 路線バス等の既存の地域公共交通と競合しないよう配慮する。
- 地域が主体となった新たなサービス導入時は、重複投資を避けるために当該地区のいこまいC A Rの運行は廃止する。
- 財政支援を行う際は、運行基準を定めるとともに、金額の上限を設定する。
- 江南市の財政支援がサービス導入前の負担状況と比較して過大とならないよう配慮する。
- 新たな路線の運行を検討する際には、スクールバスや企業従業員送迎バスの混乗利用などの大きな財政支援を伴わないで対処可能な代替案も協議する。

第2 事業評価

新しい地域公共交通事業が適切に事業化され、事業運営されているかを定期的に評価するために、事業評価制度を導入する。

○事業評価制度の内容

○評価体制	江南市地域公共交通会議において、地区交通協議会がその取組み結果を自ら報告し、江南市地域公共交通会議にて廃止・減便・路線再編などについて評価・協議する。
○試行運行期間の設定	試行運行期間を「2年」と設定し、事業着手後2ヵ年度終了時点で総合評価を行い、本格運行化すべきか検討する。
○評価指標の設定	事業構築時の目的に照らした「評価指標」を設定し、当該指標をもとに、江南市地域公共交通会議にて評価を行う。 なお、下記の2指標を上記指標に加えて導入する。 指標①：利用者数の推移 指標②：江南市からの財政支援額の推移

参考資料

< 目 次 >

1 検討経過	30
2 個別要請の検討内容	31
3 委員名簿	35

1 検討経過

<平成 28 年度>

○江南市地域公共交通基礎調査の実施

江南市公共交通再編委員会、江南市地域公共交通会議で協議

<平成 29 年度>

○江南市地域公共交通基礎調査を受けて課題解決策を検討

江南市公共交通再編委員会（再編委員会）で検討内容を確認し、江南市地域公共交通会議検討部会で検討後、江南市地域公共交通会議（交通会議）で協議・承認。

検討を重ねる中で、特に評価に関して、市の公共交通に関する基本方針作成の必要性を認識したため、江南市における地域公共交通の基本的な考え方を策定する。

第 1 回 再編委員会 (5/30)	第 1 回 検討部会 (6/23)	第 1 回 交通会議 (8/2)
○検討内容・スケジュール ○公共交通における個別要請について ○評価手法について ・利用状況の報告	○検討内容 ○公共交通における個別要請について ○評価手法について ・利用状況の報告	・市町村有償輸送更新登録 ○検討部会の設置報告 ・利用状況の報告
第 2 回 再編委員会 (8/28)	第 2 回 検討部会 (9/25)	
・検討部会の指摘事項説明 ○名鉄バスの対応方針 ○大口町コミュニティバスの課題対応 ○いこまいC A R・福祉タクシー料金制度の課題対応 ○新しい地域公共交通事業の導入ルール・評価手法	○名鉄バスの対応方針 ○いこまいC A Rの課題対応 ○大口町コミュニティバスの課題対応 ○新しい地域公共交通事業の導入ルール・評価手法	
第 3 回 再編委員会(10/27)	第 3 回 検討部会(11/13)	
○地域公共交通政策の目標 ○評価手法 ○いこまいC A Rと高齢者福祉タクシーの整理	○地域公共交通政策の目標 ○評価手法	
第 4 回 再編委員会(12/27)	第 4 回 検討部会 (1/18)	第 2 回 交通会議(2/21)
○地域公共交通の基本的な考え方（案）の検討	○同左	○地域公共交通の基本的な考え方（案）の協議・承認

2 個別要請の検討内容

○対応方針

第6次江南市総合計画で位置づけられた中心拠点・地域拠点間や中心拠点同士を交通ネットワークで結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の実現を目指す項目について対応を検討する。

○個別要請の検討内容と結果（※は検討部会で検討した内容）

（1）名鉄バス

再編委員会にて名鉄バスに対して利便性の向上を要請するよう確認し、検討部会にてできる範囲で調整を進めるよう、名鉄バス担当者に要請。その後、要請した項目について、名鉄バス担当者から、回答を得た。

増便については、コンパクトエリアと想定した区域内で実施について、エリア外の利用状況に応じた調整を実施したうえで実現可能となり、名鉄バスとの協議事項でもあるため、再編委員会、検討部会にてダイヤの見直し案を検討し、後述のとおり方向性を示す。

検討内容	結果
ダイヤの調整 （鉄道との接続性）※	第6次江南市総合計画で定めるコンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づいた項目であるため、名鉄バス担当者に対し、調整を要請。 名鉄バス担当者からは、「特急電車との接続に関して、補助路線は協議案件となるため、市に案を出してから進めていきたいと考えている。独自路線に関しても、電車に合わせるよう考慮しているおり、全てのお客様に対応できるか難しいところもあるが、今後、考慮したいと考えている。」との回答を得た。
バス車内のエアコン管理※	対応方針に基づかない項目であるが、影響が比較的小さいため、できる範囲で実施するよう、検討部会にて名鉄バス担当者に要請。 名鉄バス担当者からは、「環境対応（CO2）と車内快適性の兼ね合いから、発車の概ね5分前にエンジンを始動するようにしているが、近隣の苦情対応のため、直前の始動となることに理解をいただきたい。」との回答を得た。
社員教育の充実※	対応方針に基づかない項目であるが、影響が比較的小さいため、できる範囲で実施するよう、検討部会にて名鉄バス担当者に要請。 名鉄バス担当者からは、「ハード面では技量の差が出ないように車両対応を進める。ソフト面では、引き続き訓練や覆面モニター調査を実施して改善に努める。」との回答を得た。
WEBサイトでの情報提供の改善※	対応方針に基づかない項目であるが、影響が比較的小さいため、できる範囲で実施するよう、検討部会にて名鉄バス担当者に要請。 名鉄バス担当者からは、「検索サイトの拡充を進めていく方向で、社内的にも検討を進める。」との回答を得た。

バス停留所の環境改善	中心拠点、地域拠点のバス停留所に関して対応を検討するが、未完了である布袋駅の停留所は今後、市が整備する方針であり対応する予定。
増便※	投入している事業費で最大限の事業効果が発揮できるよう、コンパクトエリアでは路線の維持に努めながら、利用が少なくなっている部分の見直しを検討する。見直しによって生じる資源は利用増が期待できる路線に投入し、より利用者のニーズに合った運行を目指す。 なお、車両、料金設定等は変更せず、利用状況に応じた運行便数となるよう、路線バスの事業主体である名鉄バスと協議を行う調整するため、後述のとおり見直しの方向性を作成。
北部エリアへの路線延長	第6次江南市総合計画で定めるコンパクト・プラス・ネットワークの考え方に基づかない項目であるため、対応しない。
バス停留所の位置の見直し	
運賃補助	
江南駅前ロータリーの混雑解消	必要に応じて担当課で検討を実施する。
定時性の確保（交通状況・天候）	
イベント時の臨時便の運行	

（２）いこまいC A R

再編委員会、検討部会にて検討。一部（市外利用について）実施を検討したが、市の考え方を整理し、全て現行通りとした。

検討内容	結果
当日予約の実施※	いこまいC A Rは、市民の基礎的な生活を支える手段として、「買い物」、「通院」などの「計画的な昼間の外出（お出かけ）」に対して補助を行い、路線バスを補完する公共交通として市内の移動を担うものとするため、現行通りとする。
利用時間の延長※	いこまいC A Rは、市民の基礎的な生活を支える手段として、「買い物」、「通院」などの「計画的な昼間の外出（お出かけ）」に対して補助を行い、路線バスを補完する公共交通として市内の移動を担うものとし、行政サービスの対応範囲を計画的な昼間の外出支援と想定するため、現行通りとする。
市外利用の可否※	実施を検討したが、総合計画に基づき江南駅、布袋駅といった中心拠点のにぎわい形成を支援する観点から、現行通りとする。
料金設定※ （料金格差是正）	公共サービスの利用における負担の公平性を保つため、現行通りとする。

バスとの2重投資※	路線バスや福祉タクシーで対応できない市民への対応のため、現行通りとする。
福祉タクシーとの役割分担	国の政策の動向を見守るため、現行通りとする。

(3) 福祉タクシー料金助成制度に対する個別要請

再編委員会にて検討。いこまいC A Rと福祉タクシー料金助成制度との役割分担を検討したもの、以下の理由により現行通りとした。

検討内容	結果
要件の緩和 (配布枚数、対象者)	いこまいC A Rと福祉タクシー料金助成制度との役割分担を検討したが、国において運転免許返納者に対する介護保険サービスの活用が検討されていることから、動向を注視するため、現行通りとする。
要件の見直し (年齢、目的制限)	
不適切な利用の制限	
福祉有償ボランティア輸送等の活用	

(4) 大口町コミュニティバス

再編委員会、検討部会にて検討。以下の理由により、現行通りとした。

検討内容	結果
増便※	当該路線は、大口町が路線を構築しており、現行通りの運行を受け入れるため、現行通りとする。
料金助成	
バス停留所の環境整備※	
バス車両の小型化	
社員教育の充実	
大口町・扶桑町との広域連携※	

○路線バス事業の見直しについて

投入している事業費で最大限の事業効果が発揮できるよう、コンパクトエリアでは路線の維持に努めながら、利用が少なくなっている部分の見直しを検討する。見直しによって生じる資源は利用増が期待できる路線に投入し、より利用者のニーズに合った運行を目指す。

なお、車両、料金設定等は変更せず、利用状況に応じた運行便数となるよう、路線バスの事業主体である名鉄バスと調整する。

・江南・病院線（平日）

江南・病院線（布袋駅～江南駅～江南厚生病院～すいとぴあ江南）

対象区間	考え方
布袋駅～江南駅 布袋駅→江南駅 18 便 江南駅→布袋駅 17 便	コンパクトエリアに該当するが、鉄道との二重路線となっていることから、利用状況に応じて見直しを検討する。
江南駅～江南厚生病院 江南駅→江南厚生病院 29 便 江南厚生病院→江南駅 29 便	コンパクトエリアに該当し、一定の利用が認められるため、現状維持に努める。
江南厚生病院～すいとぴあ江南 江南厚生病院→すいとぴあ江南 14 便 すいとぴあ江南→江南厚生病院 15 便	利用状況に応じて見直しを検討する。

・江南団地線（平日）

江南団地線（古知野高校前経由）（江南駅～古知野高校前～江南団地）

江南団地線（ヴィアモール前経由）（江南駅～ヴィアモール前～江南団地～江南厚生病院）

江南団地線（団地経由厚生病院行）（江南駅～ヴィアモール前～江南団地～江南厚生病院）

対象区間	考え方
江南団地線（古知野高校前経由） 江南駅→古知野高校前→江南団地 34 便（H28）⇒33 便（H29） 江南団地→古知野高校前→江南駅 35 便（H28）⇒33 便（H29）	コンパクトエリアに該当するが、利用状況が悪くなっていることから、利用状況に応じて見直しを検討する。
江南団地線（ヴィアモール前経由） 江南団地線（団地経由厚生病院行） 江南駅→ヴィアモール前→江南団地 30 便（H28）⇒31 便（H29） 江南団地→ヴィアモール前→江南駅 30 便（H28）⇒32 便（H29）	コンパクトエリアに該当し、利用者数が増加している路線であるため、見直しによって得られた資源を投入（増便）する方向で検討する。
江南団地線（団地経由厚生病院行） 江南団地→江南厚生病院 5 便 江南厚生病院→江南団地 5 便	平成 27 年度に 10 便から 5 便に減便をしているため、継続して利用状況をモニタリングする。

3 委員名簿

○江南市地域公共交通会議 委員名簿

(平成 30 年 3 月時点 敬称略・順不同)

区分	職 名	氏 名	備 考
会長	中部大学工学部 都市建設工学科教授	磯部 友彦	
副会長	江南自動車学校校長	平野 富一	
委員	愛知県振興部 交通対策課主幹	桑原 良隆	
〃	名鉄バス(株) (取締役運輸本部計画部長兼計画課長)	近藤 博之	
〃	愛北乗用自動車(有) 代表取締役	森 一浩	
〃	公益社団法人愛知県バス協会 専務理事	古田 寛	
〃	愛知県タクシー協会副会長 (名鉄西部交通西部(株)代表取締役社長)	小川 健司	
〃	江南市老人クラブ連合会 会長	坪内 三	
〃	中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官	杉本 忠久	
〃	尾張北部タクシー(株)	鈴木 浩示	
〃	愛知県一宮建設事務所 維持管理課長	八森 誠司	
〃	愛知県江南警察署 交通課長	山田 敏也	
〃	江南市社会福祉協議会 事務局長	小塚 昌宏	
〃	愛知県厚生農業協同組合連合会 江南厚生病院事務部長	朱宮 光輝	
〃	大口町 地域協働部長兼町民安全課長	鵜飼 嗣孝	
〃	江南市副市長	佐藤 和弥	
〃	江南市生活産業部長	武田 篤司	

(事務局) 江南市生活産業部市民サービス課

○江南市地域公共交通会議 検討部会 委員名簿

(平成 30 年 3 月時点 敬称略・順不同)

区分	職 名	氏 名	備 考
部会長	豊田都市交通研究所 主任研究員	福本 雅之	
委員	名鉄バス(株)一宮営業所 運行担当	杉田 年寛	
〃	名鉄西部交通(株)営業企画部長	久留宮 優司	
〃	愛北乗用自動車(有) 代表取締役	森 一浩	
〃	尾張北部タクシー(株) 営業所長	長屋 涼	
〃	江南市老人クラブ連合会 監事	宮地 義量	
〃	本郷区長	尾関 勝實	
〃	後飛保区長	尾関 栄吉	
〃	江南市社会福祉協議会 相談支援専門員	宮本 清隆	
〃	市民代表	倉橋 義一	
〃	市民代表	原 朋子	
〃	江南市生活産業部長	武田 篤司	

(事務局) 江南市生活産業部市民サービス課

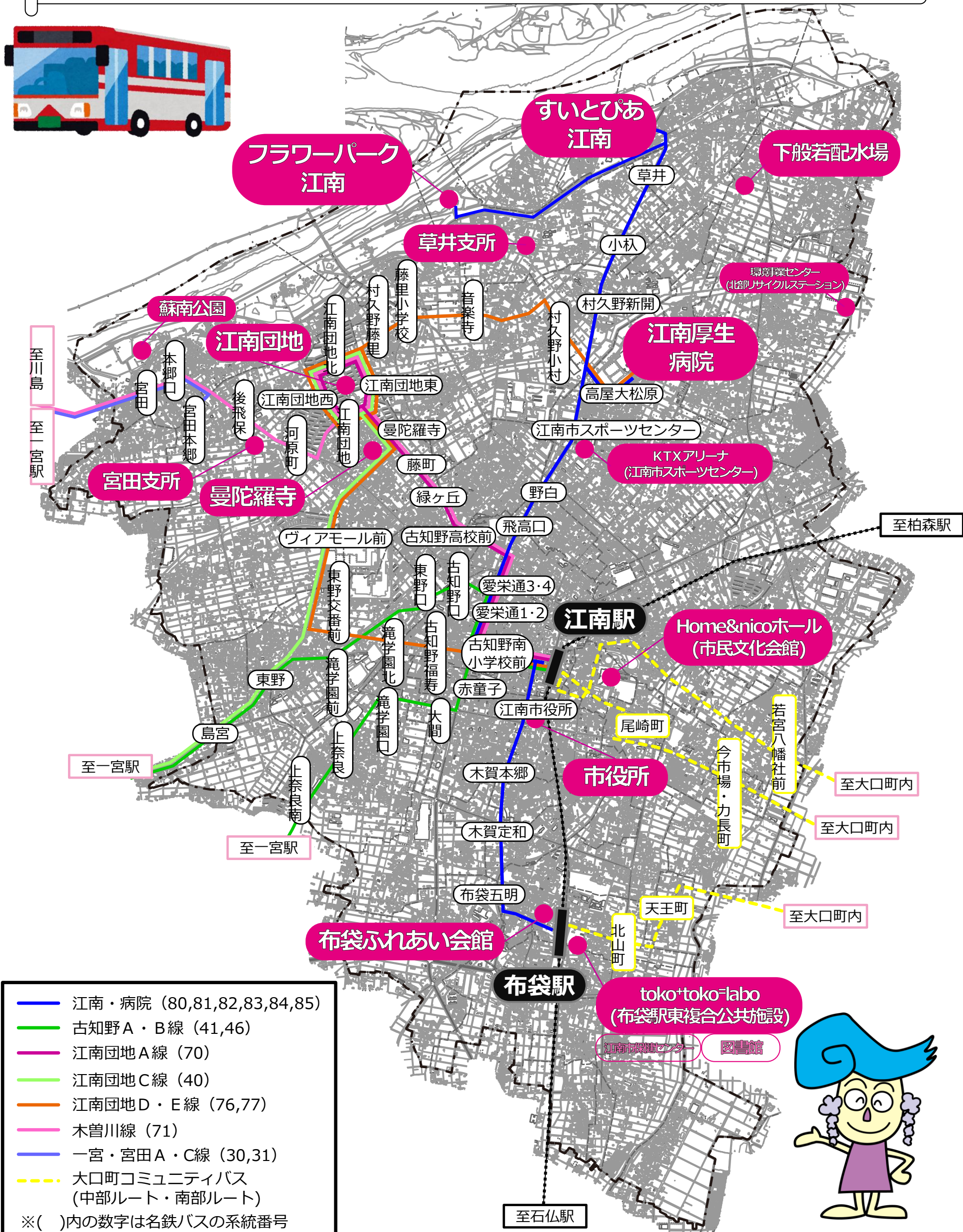
○江南市公共交通再編委員会 委員名簿

(平成 30 年 3 月時点 敬称略・順不同)

区分	職 名	氏 名	備 考
委員長	副市長	佐藤 和弥	
副委員長	生活産業部長	武田 篤司	
委員	危機管理室 防災安全課主幹	松本 幸司	
〃	生活産業部 市民サービス課長	山田 順一	
〃	生活産業部 商工観光課長	石坂 育己	
〃	健康福祉部 高齢者生きがい課長	倉知 江理子	
〃	健康福祉部 福祉課長	貝瀬 隆志	
〃	都市整備部 まちづくり課長	野田 憲一	
〃	都市整備部 土木課長	沢田 富美夫	
〃	市長政策室 地方創生推進課長	坪内 俊宣	
〃	市長政策室 秘書政策課長	松本 朋彦	
〃	総務部 行政経営課長	村瀬 正臣	

(事務局) 江南市生活産業部市民サービス課

参考資料 4



- ※()内の数字は名鉄バスの系統番号

布袋駅

toko+toko=labo
(布袋駅東複合公共施設)

江南市保健センター

圖書館

至石仏駅

江南市地域公共交通基礎調査スケジュール

1. 経緯

これまで平成 30 年 3 月に策定した「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」（令和 7 年 4 月改定）に基づき、公共交通政策を進めてきましたが、市民の生活様式が多様化する中で、利用実態にも変化がみられます。そのため、既存公共交通の利用実態の把握を行いながら、江南市の地域特性に適した地域公共交通網へと見直す必要があり、江南市地域公共交通計画を策定するため基礎調査を実施するものです。

2. 地域公共交通計画とは

地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」の役割を果たすものであり、国が定める「地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本方針」に基づき、地方公共団体が地域の移動に関する関係者を集めて法定協議会を開催しつつ、交通事業者や地域の関係者等との協議を重ねることで作成していくものである。

地域公共交通計画は、地域の社会・経済の基盤となるものであり、全ての地方公共団体において、計画の作成や実施は「努力義務」として定められている。

（引用：国土交通省「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き」）

3. 地域公共交通会議と法定協議会の違い

	地域公共交通会議	法定協議会
根拠法令等	道路運送法	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律
目的	地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様等に関する事項、自家用有償旅客運送の必要性に関する事項、その他これらに関し必要となる事項の協議を実施	地域公共交通計画の作成及び実施に関し必要な協議
対象となる交通モード	路線バス、タクシー（乗合）、コミュニティバス	多様な交通モード（左記交通モードに加え、鉄道、福祉輸送、民間事業者の輸送サービス等を含む）
構成員	市、県、運輸局、交通事業者、交通事業者の運転者組織、住民・利用者代表、道路管理者、学識経験者、その他市が必要と判断する者	市、県、運輸局、交通事業者、住民・利用者代表、道路管理者、学識経験者、その他市が必要と判断する者
協議結果	法律上の規定なし	尊重義務あり
事業実施	予算の執行権限がないため、事業実施はできない	運行主体として事業実施が可能

4. 「江南市地域公共交通計画」策定に向けた事業内容

年度	事業内容	主な実施項目
令和7年度	地域公共交通に関する基礎調査	・上位関連計画・社会情勢の整理等 ・市民アンケート調査 ・路線バス利用実態調査及びバス利用者アンケート ・公共交通の現状の分析 など
令和8年度以降	地域公共交通計画の策定	・「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」の評価 ・交通事業者等の意見収集 ・地域公共交通の課題整理 ・基本的な方針及び施策の検討 など

※いこまいCARは毎月の運行事業者からの利用実績の報告で詳細な情報が得られているため、改めて調査は行わない。